

地域を見つめ、
三重から世界へ
世界から三重へ



MIEU REPORT

三重大学 年次報告書

2024

MIEU REPORT 2024

目 次

● 学長メッセージ	02
● データで見る三重大学	03
● I ビジョン	05
世界が注目する地域共創大学へ	05
三重大学ビジョン2030の挑戦	06
三重大学の価値創造ストーリー	07
● II ガバナンス体制	09
役員等	09
ガバナンス体制	10
組織図	11
令和6年度役職員	13
モニタリング体制	15
ダイバーシティ&インクルージョン推進	16
● III 特集記事	17
社会的インパクトの創出	19
三重大学賞	23
● IV 活動実績	26
教育	27
研究・社会貢献	29
施設・環境	31
国際交流	35
地域医療・先進医療	37
● V 財務情報	39
国立大学法人会計の財源(収入源)	40
三重大学の令和5年度決算概要	41
経常費用の推移	43
収入の推移	44
コストの見える化、各学部等のコスト	45
教育に要する経費、研究に要する経費	46
診療に要する経費、ネーミングライツ事業	47
外部資金等の獲得状況	48
● VI 資料編	49
● VII 三重大学振興基金	80



第13代 三重大学長 伊藤 正明

ITO Masaaki
昭和30年1月生まれ。三重県津市出身。
三重大学医学部医学科卒、医学博士。
医学系研究科 臨床医学系講座循環器・腎臓内科学分野
教授、医学部附属病院院長を経て、令和3年4月より現職。
専門は、内科学、循環器内科学。

学長挨拶

平素より三重大学の教育・研究活動に対し、多大なるご理解
とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

三重大学は、地域と共に成長する「地域共創大学」としての
使命を果たし、地域の課題解決や持続可能な社会の実現に
向けて多くの取組を進めてまいりました。地域との連携を
基盤に、教育、研究、社会貢献を融合させ、新しい価値を
創出することが、我々の重要な使命であると考えております。

特に、私たちは未来を見据えた教育を通じて、「行動する力」を
持つ人材の育成を目指しています。これにより、学生たちは
創造性、主体性、積極性を持って地域や世界に貢献できる
リーダーへと成長することが期待されています。また、地域

課題に対する先進的な研究や産学官の協力を通じて、社会的
インパクトを創出し、地域と共に発展していくことを目指
しております。

本冊子「MIEU REPORT 2024」では、三重大学ビジョン
2030に基づく取組や成果を様々なステークホルダーのみな
さまに分かりやすくお伝えすることを目的とし、作成いたし
ました。今後も、私たちは持続可能な社会の実現に向けて、
教育、研究、そして地域社会との共創をさらに深化させて
まいります。

引き続き、みなさまのご支援とご協力を賜りますようお願い
申し上げます。

データで見る三重大学



学部

5学部

6学科

1課程

●人文学部

●教育学部

●医学部

●工学部

●生物資源学部

文化学科、法律経済学科

学校教育教員養成課程

医学科、看護学科

総合工学科

生物資源学科



大学院

6研究科

●人文社会科学研究科

●教育学研究科

●医学系研究科

●工学研究科

●生物資源学研究科

●地域イノベーション学研究科



教職員数

(令和6年5月1日現在)

2,119人

役員9人

教員743人

職員1,367人



学部学生数

(令和6年5月1日現在)

5,912人



大学院学生数

(令和6年5月1日現在)

1,164人



令和6年度学年暦

■ 前期開始	4/ 1	■ 後期開始	10/ 1
■ 入学式	4/ 4	■ 学位記授与式	3/25
■ 三重大学開学記念日	5/31	■ 後期終了	3/31
■ 前期終了	9/30		



外国人留学生数

(令和6年5月1日現在)

241人



海外留学・派遣学生数

(令和5年度)

16人



国際交流状況

(令和6年4月1日現在)

大学間協定数24力国・地域

学部間協定数24力国・地域

73大学・機関

46大学・機関



予算規模

(令和6年度)

収入・支出

54,412百万円



民間企業との共同研究等

(令和5年度)

件数

金額

1,540件

2,792百万円





土地・建物面積

(令和6年5月1日現在)

土地面積

5,509,850㎡

(借受地 93,299㎡)

建物面積

323,225㎡



附属図書館

和書704,288冊

洋書227,844冊

計932,132冊

(令和6年4月1日現在)

入館者総数134,283人

(令和5年度)





医学部附属病院

(令和5年度)

病床数

入院患者延数

1日平均入院患者数

685床

205,005人

560.1人

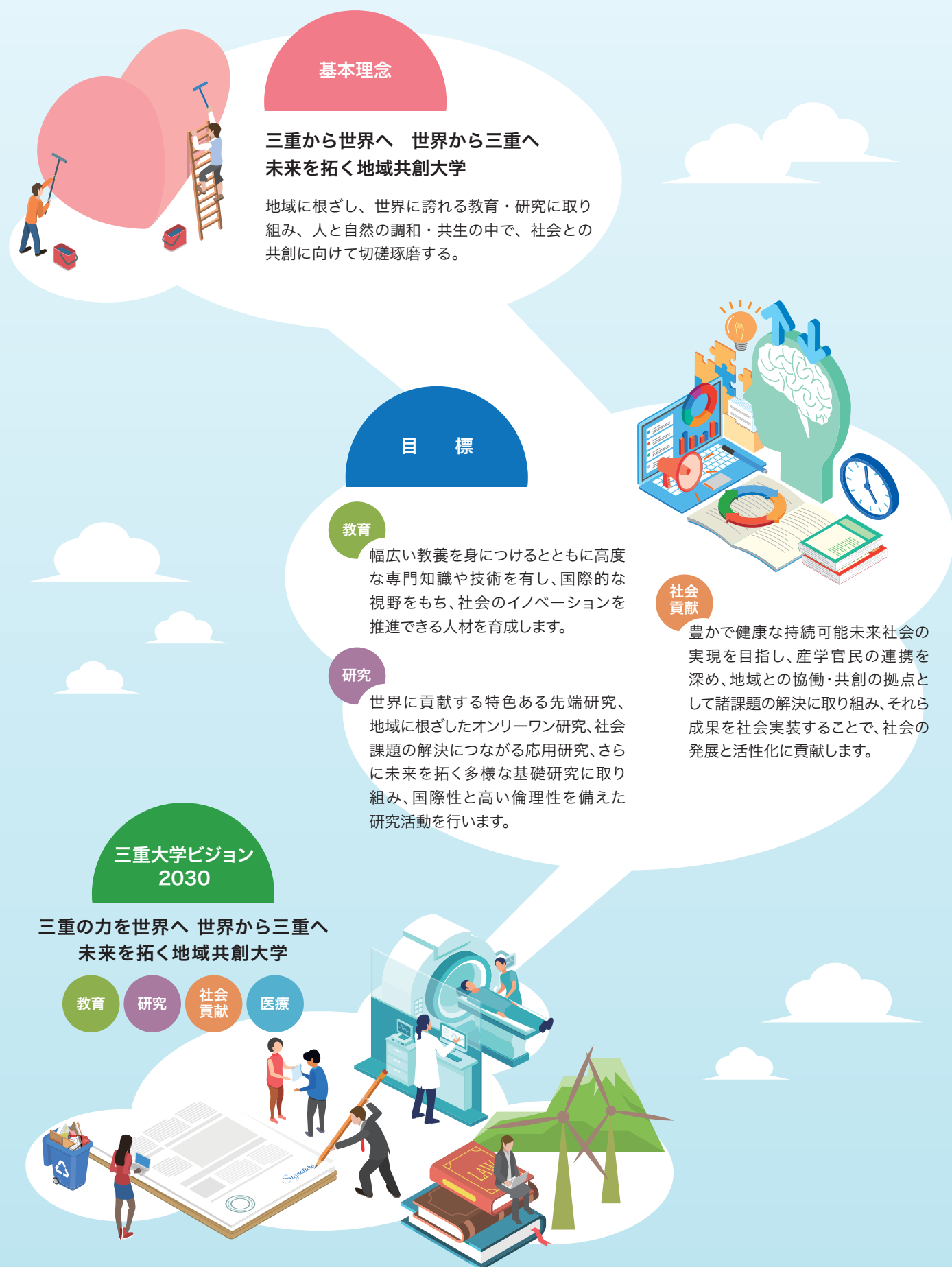
外来患者延数

1日平均外来患者数

344,301人

1,416.9人

世界が注目する地域共創大学へ



三重大学ビジョン2030の挑戦

三重大学では、令和4年から2030年までを見据えた目標及び達成への道筋を示し、教職員が一丸となって大学改革に取り組む拠りどころとして、三重大学ビジョン2030を策定しました。

凄まじいスピードで社会が変化するなか、課題を乗り越え、新しい社会を拓いていくには、あらゆる人や組織が共創することが必要であり、**知の拠点たる大学の果たすべき役割は重大です。**

そこで三重大学は、教職員が一体となって力を最大限発揮し、世界と繋がる地域共創活動に真摯に取り組み、**未来を拓く教育研究拠点として世界が注目する地域共創大学を目指します。**

教 育：地域・社会・世界とのつながりを通して、行動する力を引き出す教育

- 行動する力で地域をけん引する人材の育成
- 新たな価値の創出マインドを持つ人材の育成
- 地域の社会人に学びの機会を提供するリカレント教育の拡充

研 究：社会共創を支える多様で独創的な研究

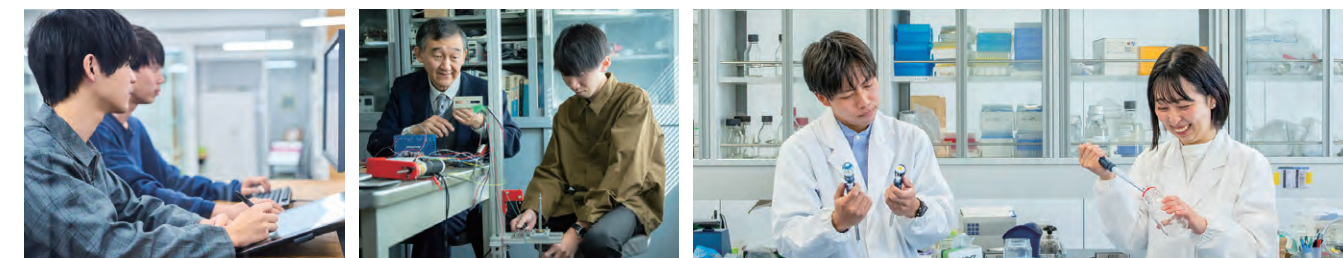
- 世界トップレベルを目指す特色ある先端研究
- 社会課題解決を目指す応用研究
- 未来を拓く多様な基礎研究
- 分野を超えた横断的大学院

社会貢献：三重モデル地域創生

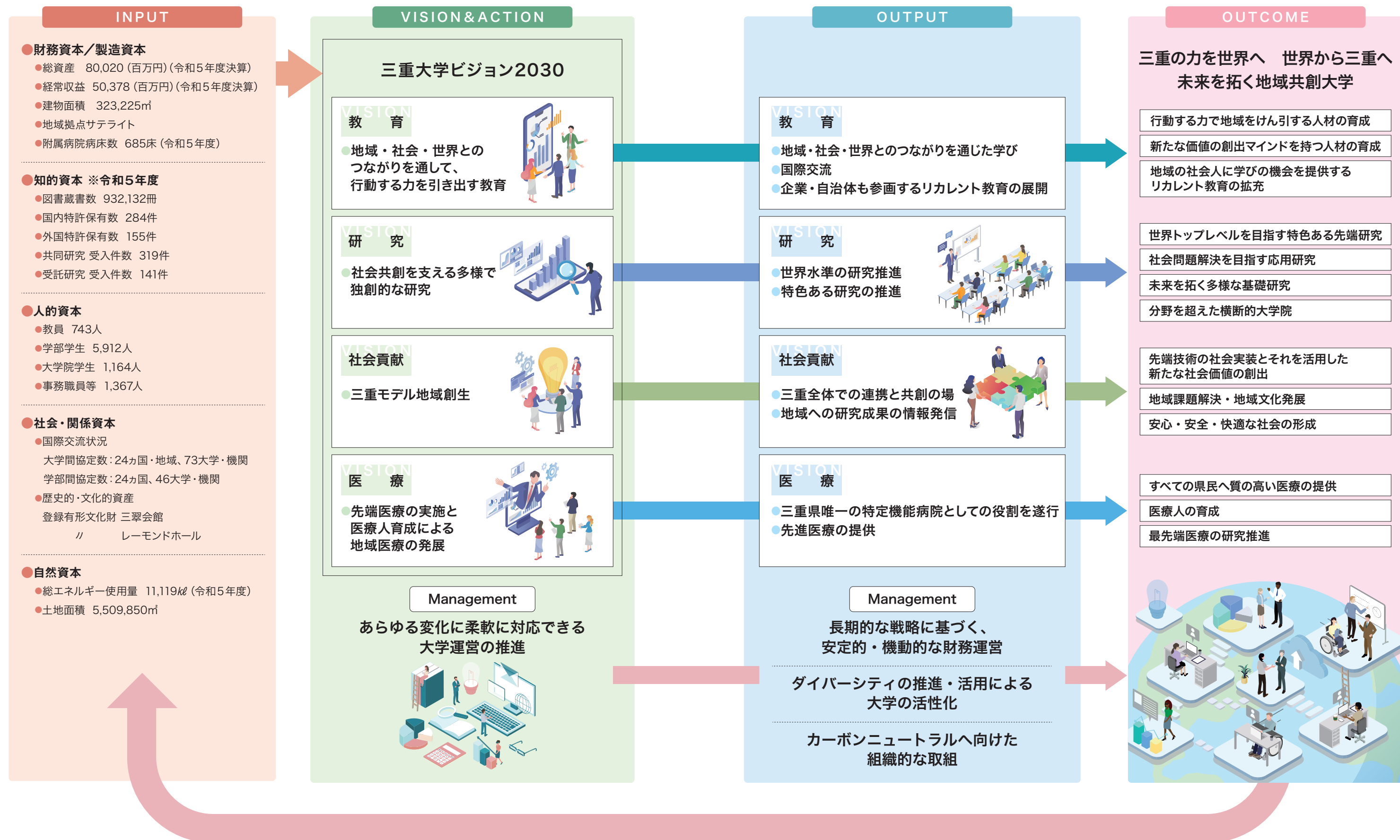
- 先端技術の社会実装とそれを活用した新たな社会価値の創出
- 地域課題解決・地域文化発展
- 安心・安全・快適な社会の形成

医 療：先端医療の実施と医療人育成による地域医療の発展

- すべての県民への質の高い医療の提供
- 医療人の育成
- 最先端医療の研究推進



三重大大学の価値創造ストーリー



役員等 学長・理事・監事・副学長



伊藤 正明 学長
鶴原 清志 理事・副学長 (教育担当)
酒井 俊典 理事・副学長 (社会連携担当)
吉岡 基 理事・副学長 (研究・情報担当)
佐久間 肇 理事・副学長 (企画・経営・附属病院担当)



西岡 慶子 理事・副学長 (地域共創担当)
田中 里沙 理事・副学長 (広報・ブランディング担当)
中津 清晴 監事 (業務監査)
小川 友香 監事 (会計監査)
池田 智明 副理事・副学長 (附属病院担当)



小林 一成 副理事・副学長 (教育担当)
今西 誠之 副理事・副学長 (研究・社会連携担当)
尾西 康充 副理事・副学長 (法務・評価担当)
織田島孝広 副理事・副学長・事務局長 (事務総括担当)
湯浅 陽子 副学長 (教育担当)



富樫 健二 副学長 (教育(学生総合支援)担当)
近藤 峰生 副学長 (研究担当)
金子 聡 副学長 (広報・国際・環境担当)
松田 裕子 副学長 (広報担当)
森脇由美子 副学長 (ダイバーシティ・インクルージョン担当)

ガバナンス体制

令和6年9月1日現在

監事
(2名)

役員会 学長 理事6名

(重要事項は役員会の議を経る)

学長

理事(教育担当)・副学長
理事(社会連携担当)・副学長
理事(研究・情報担当)・副学長
理事(企画・経営・附属病院担当)・副学長
理事(地域共創担当)・副学長
理事(広報・ブランディング担当)・副学長

学長補佐(14名)
特命学長補佐(2名)

学長顧問(5名)

学長アドバイザー(7名)

参与(研究・社会連携担当)

副理事(附属病院担当)・副学長

副理事(教育担当)・副学長

副理事(研究・社会連携担当)・副学長

副理事(法務・評価担当)・副学長

副理事(事務総括担当)・副学長

副学長(教育担当)

副学長(教育(学生総合支援)担当)

副学長(研究担当)

副学長(広報・国際・環境担当)

副学長(広報担当)

副学長(ダイバーシティ・インクルージョン担当)

特命副学長(戦略企画担当)

特命副学長(国際交流担当)

経営協議会

(主に経営面を審議)

学外有識者 10名
学長
理事 6名
学内者 2名

教育研究評議会

(主に教学面を審議)

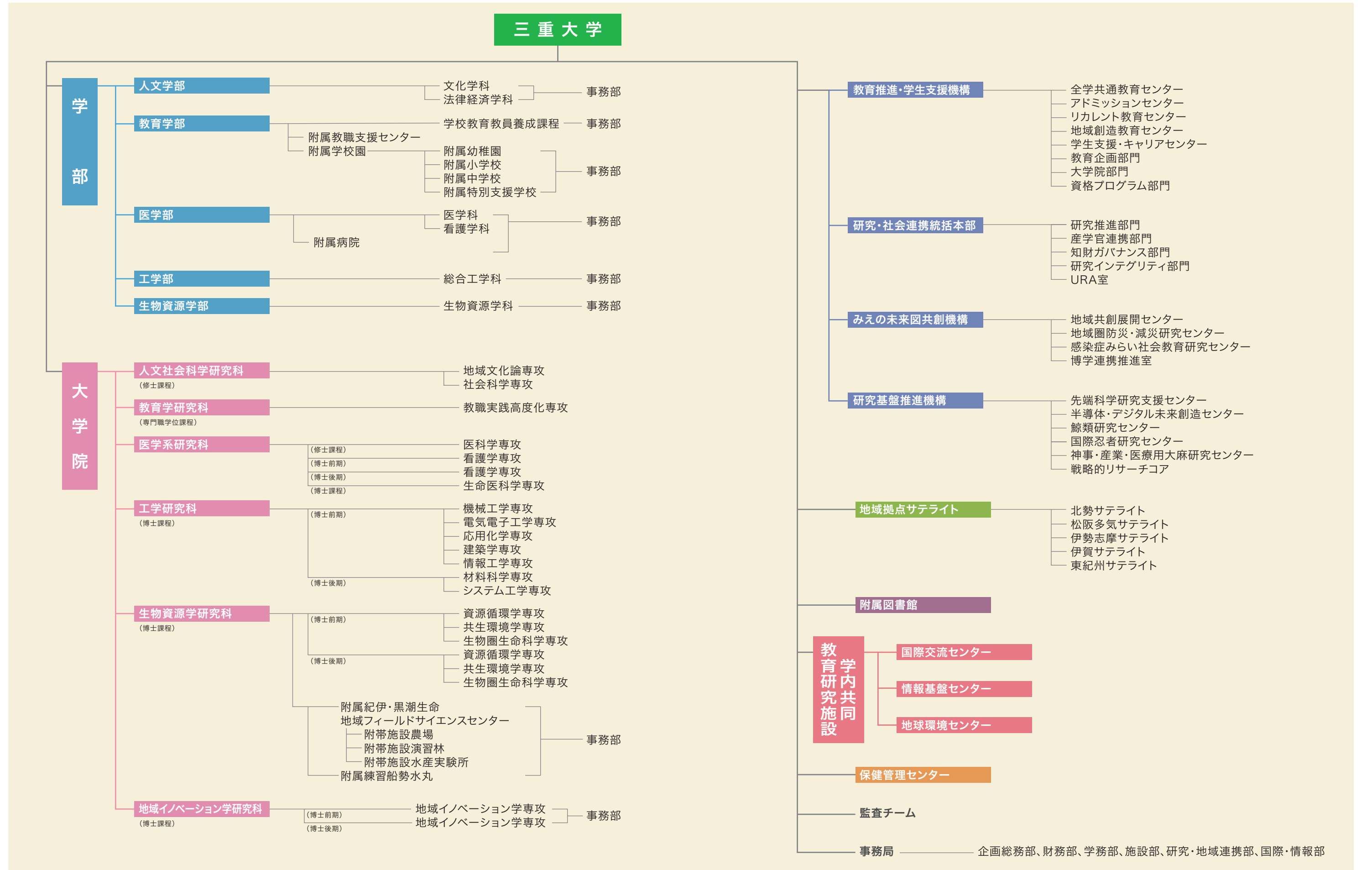
学長
理事 6名
学内者 22名

(学長を選考等)

学長選考・監察会議

学外者 7名 学内者 7名

組織図



令和6年度役職員

令和6年9月1日現在

役員等

学長	伊藤 正明
理事（教育担当）・副学長	鶴原 清志
理事（社会連携担当）・副学長	酒井 俊典
理事（研究・情報担当）・副学長	吉岡 基
理事（企画・経営・附属病院担当）・副学長	佐久間 肇
理事（地域共創担当）・副学長	西岡 慶子
理事（広報・ブランディング担当）・副学長	田中 里沙
監事（業務監査）	中津 清晴
監事（会計監査）	小川 友香

参与

参与（研究・社会連携担当）	緒方 正人
---------------	-------

副理事

副理事（附属病院担当）・副学長	池田 智明
副理事（教育担当）・副学長	小林 一成
副理事（研究・社会連携担当）・副学長	今西 誠之
副理事（法務・評価担当）・副学長	尾西 康充
副理事（事務総括担当）・副学長・事務局長	織田島孝広

副学長

副学長（教育担当）	湯浅 陽子
副学長（教育（学生総合支援）担当）	富樫 健二
副学長（研究担当）	近藤 峰生
副学長（広報・国際・環境担当）	金子 聡
副学長（広報担当）	松田 裕子
副学長（ダイバーシティ・インクルージョン担当）	森脇由美子

特命副学長

特命副学長（戦略企画担当）	西村 訓弘
特命副学長（国際交流担当）	福録 恵子

学長補佐

学長補佐（教育（教育）担当）	下村 智子
学長補佐（教育（共通教育）担当）	大井 淳史
学長補佐（教育（学生総合支援）担当）	松岡 真里
学長補佐（教育（入試）担当）	平山 大輔
学長補佐（研究担当）	船原 大輔
学長補佐（若手研究者育成担当）	矢野 賢一
学長補佐（半導体産学連携担当）	三宅 秀人
学長補佐（共創の場担当）	岡島 賢治
学長補佐（戦略企画担当）	加藤 貴也
学長補佐（危機管理担当）	狩野 幹人
学長補佐（保健管理担当）	小林 由直
学長補佐（情報担当）	山守 一徳
学長補佐（デザイン担当）	岡田 博明
学長補佐（ダイバーシティ・インクルージョン担当）	坂東 泰子

特命学長補佐

特命学長補佐（安全管理担当）	山口 勉
特命学長補佐（安全管理担当）	福永 稚子

学長顧問

学長顧問	内田 淳正
学長顧問	楠井 嘉行
学長顧問	駒田 美弘
学長顧問	鶴岡 信治
学長顧問	豊田 長康

学長アドバイザー

学長アドバイザー	伊藤 公昭
学長アドバイザー	志田 行弘
学長アドバイザー	庄山 隆裕
学長アドバイザー	高木 純一
学長アドバイザー	別華 薫 (Becker Carl)
学長アドバイザー	向井 弘光
学長アドバイザー	渡辺 義彦

経営協議会

（学外委員）		
株式会社百五銀行 取締役会長	伊藤 歳恭	
公益社団法人三重県医師会 会長	馬岡 晋	
朝日大学 学長	大友 克之	
熊野市長	河上 敢二	
鈴鹿市長	末松 則子	
三重トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長	竹林 憲明	
三重県 副知事	服部 浩	
三重県立学校長会 会長	早川 巖	
前 セルビア大使兼モンテネグロ大使	丸山 純一	
NTT 西日本株式会社 監査役	横山 桂子	

（学内委員）	
学長	伊藤 正明
理事（教育担当）・副学長	鶴原 清志
理事（社会連携担当）・副学長	酒井 俊典
理事（研究・情報担当）・副学長	吉岡 基
理事（企画・経営・附属病院担当）・副学長	佐久間 肇
理事（地域共創担当）・副学長	西岡 慶子
理事（広報・ブランディング担当）・副学長	田中 里沙
副理事（附属病院担当）・副学長・病院長	池田 智明
副理事（事務総括担当）・副学長・事務局長	織田島孝広

教育研究評議会評議員

学長	伊藤 正明
理事（教育担当）・副学長	鶴原 清志
理事（社会連携担当）・副学長	酒井 俊典
理事（研究・情報担当）・副学長	吉岡 基
理事（企画・経営・附属病院担当）・副学長	佐久間 肇
理事（地域共創担当）・副学長	西岡 慶子
理事（広報・ブランディング担当）・副学長	田中 里沙
副理事（附属病院担当）・副学長・病院長	池田 智明
副理事（教育担当）・副学長	小林 一成
副理事（研究・社会連携担当）・副学長	今西 誠之
副理事（法務・評価担当）・副学長	尾西 康充
副理事（事務総括担当）・副学長・事務局長	織田島孝広
副学長（教育担当）	湯浅 陽子
副学長（教育（学生総合支援）担当）	富樫 健二
副学長（研究担当）	近藤 峰生
副学長（広報・国際・環境担当）	金子 聡
副学長（広報担当）	松田 裕子
副学長（ダイバーシティ・インクルージョン担当）	森脇由美子
人文学部長	豊福 裕二
教育学部長	伊藤 信成
医学系研究科長	平山 雅浩
工学研究科長	森 香津夫
生物資源学研究科長	松村 直人
地域イノベーション学研究所長	諏訪部圭太
人文学部教授	野崎 哲哉
教育学部教授	伊藤 敏子
医学系研究科教授	野阪 哲哉
工学研究科教授	久保 雅敬
生物資源学研究科教授	橋本 篤

事務局

事務局長	織田島孝広
監査課長	島田 英行
企画総務部長	上原 貴之
副部長	鷹野 雅一
総務課長（兼）	鷹野 雅一
企画戦略課長	大幡 奈津
人事労務課長	小田 尚美
財務部長	高崎 淳也
財務企画課長	石川 祐子
財務管理課長	長谷川和也
学務部長	森本 修一
教務課長	岡部 立志
学生支援課長	一丸 直人
キャリア支援課長	松原 行志
入試課長	盛 寛之

施設部長	向井 和人
施設企画課長	近野 由貴
施設管理課長	西村 健司
施設環境課長	白井 隆司
研究・地域連携部長	大畑 歩
研究推進課長	小林 泰久
社会連携課長	丹羽 章
地域創生推進課長・特命課長（共創の場担当）（命）	駒田 雅彦
国際・情報部長	山中 節子
図書館課長	野田 英明
DX・情報課長（兼）	山中 節子
国際交流課長	富島 嘉夫

人文学部

学部長	豊福 裕二
副学部長	岩崎 恭彦
事務長	笹岡 修一

教育学部

学部長	伊藤 信成
副学部長	宮岡 邦任
副学部長	松浦 直己
事務長	吉田 幸乃
附属教職支援センター長	岡野 昇
附属幼稚園長	杉澤久美子
附属小学校長	山本 嘉
附属中学校長	山口 勉
附属特別支援学校長	中川 克巳

大学院医学系研究科・医学部

研究科長（兼：学部長）	平山 雅浩
副研究科長	鈴木 秀謙
副研究科長	山崎 英俊

医学部附属病院

病院長	池田 智明
副病院長	水野 修吾
副病院長	問山 裕二
副病院長	井上 貴博
副病院長・看護部長	福永 稚子
副病院長	兼兒 敏浩
副病院長	土肥 薫
副病院長	渡邊 昌俊
副病院長	伊藤 敦士
薬剤部長	岩本 卓也
医学・病院管理部長	伊藤 敦士
副部長	伊藤 利宏
総務課長	栗生 泰幸
経営管理課長（兼）	伊藤 利宏
学務課長	福場 博文
医事課長心得	太田 善之
医療支援課長	柘植 智司

大学院工学研究科・工学部

研究科長（兼：学部長）	森 香津夫
副研究科長	池浦 良淳
事務長	小林 浩司

大学院生物資源学研究科・生物資源学部

研究科長（兼：学部長）	松村 直人
副研究科長	木村 哲哉
副研究科長	柿沼 誠
事務長	谷 仁
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター長	渡邊 晋生
附属練習船勢水丸船長	中村 亨

大学院地域イノベーション学研究所

研究科長	諏訪部圭太
副研究科長	青木 雅生
副研究科長	丸山 直樹
事務長	世古 和裕

教育推進・学生支援機構

機構長	鶴原 清志
-----	-------

研究・社会連携統括本部

統括本部長	吉岡 基
-------	------

みえの未来図共創機構

機構長	酒井 俊典
-----	-------

研究基盤推進機構

機構長	吉岡 基
-----	------

地域拠点サテライト

統括者	西岡 慶子
-----	-------

附属図書館

館長	伊藤 敏子
----	-------

学内共同教育研究施設

国際交流センター長	金子 聡
情報基盤センター長	真鍋 哲也
地球環境センター長	金子 聡

保健管理センター

所長	小林 由直
----	-------

歴代学長

初代	岡出 幸生	昭24. 5.31～昭32. 5.31
事務取扱	中野 清作	昭32. 6. 1～昭32.12. 9
2代	野村 武衛	昭32.12.10～昭41.12. 9
事務取扱	角谷辰次郎	昭41.12.10～昭42. 2.28
3代	野田 稻吉	昭42. 3. 1～昭45. 2.28
事務取扱	井町 勇	昭45. 3. 1～昭45. 3.16
4代	野田 稻吉	昭45. 3.17～昭46.11. 8
事務取扱	岩本 喜一	昭46.11. 9～昭47. 6.30
事務取扱	榊原 慎吾	昭47. 7. 1～昭49. 2. 9
5代	三上 美樹	昭49. 2.10～昭55. 2. 9
6代	井澤 道	昭55. 2.10～昭61. 2. 9
7代	武田 進	昭61. 2.10～平 4. 2. 9
8代	武村 泰男	平 4. 2.10～平10. 2. 9
9代	矢谷 隆一	平10. 2.10～平16. 3.31
10代	豊田 長康	平16. 4. 1～平21. 3.31
11代	内田 淳正	平21. 4. 1～平27. 3.31
12代	駒田 美弘	平27. 4. 1～令 3. 3.31
13代	伊藤 正明	令 3. 4. 1～

モニタリング体制

●監事監査

監事は、業務の適正かつ効率的な運営を確保すると共に、会計経理の適正を期することを目的に独立の機関として監査を実施しています。監査の方法は、内部監査部門や会計監査人と連携し、毎年度の監査計画に監査事項を設定して実施するほか、役員会・教育研究評議会・経営協議会やその他重要な会議に出席し、ガバナンス体制や学長及び理事の職務の執行が法令などに適合することを確保するための体制（内部統制システム）について整備・運営状況を確認しています。

令和5年度監査事項

【重点項目】

- (1) 役員会、経営協議会、教育研究評議会等の運営状況
- (2) 会計処理、財務諸表の作成、決算報告の状況
- (3) 公的研究費の管理・監査のガイドラインの改正に関する三重大学の取組状況
- (4) 附属病院と大学本体との関係、附属病院の運営状況
- (5) ガバナンス・コードを含む監査意見への対応状況

【個別項目】

- (1) 執行部の新体制(令和5年4月理事等の異動)に伴う業務執行の状況
- (2) 過年度の不祥事の対応状況のフォロー

●内部監査

内部監査部門は、三重大学における諸活動の遂行状況の有効性・効率性や関係法令への準拠性を確認し、確認結果に基づく助言・勧告等を通じて業務活動の改善向上・経営効率の増進に資することを目的として監査を実施しています。

●通常監査

毎年度の監査計画に監査事項を設定し、制度の妥当性や運用の合規性について、書面の検査、担当事務部門や教職員へのヒアリング等により確認しています。

令和5年度監査事項

- (1) 公的研究費の執行状況並びに管理体制について
- (2) 法人文書の管理について
- (3) コロナ禍における本学の対応状況について
- (4) 特定監査事項の改善状況について

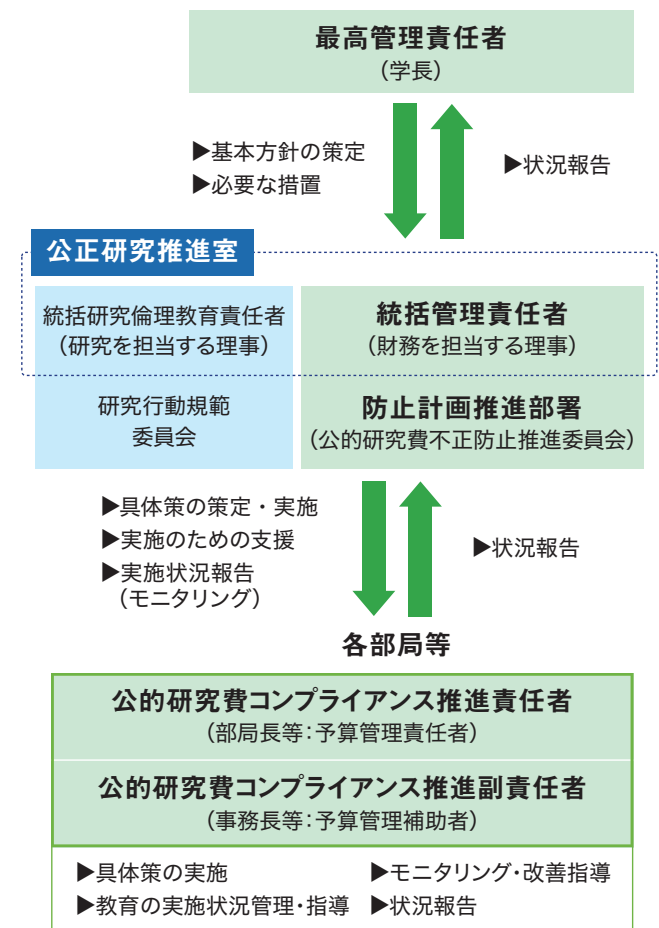
●特定監査

特定監査は、学長が特に必要と認めた場合に実施される臨時監査です。

公的研究費の不正防止に関する責任体制

三重大学は、企業等との共同研究費や競争的研究費及び運営費交付金から配分される研究費(以下「公的研究費」という。)を適正に運営・管理し、不正使用の発生リスク減少や防止を目的として、学長を最高管理責任者とする体制を構築しています。

また本学では、公的研究費の不正使用を防止し、適正な管理・監査を行うための「三重大学における公的研究費の管理・監査の基本方針」や関連規程等を定めているほか、全構成員(研究費に関わる学生含む。)に対し不正防止対策の理解や意識を高めるための公的研究費コンプライアンス教育・啓発活動や、「公的研究費不正防止計画」に基づくモニタリング等を実施し、不正使用の防止に努めています。



※関連規程等 三重大学ホームページ
<https://www.mie-u.ac.jp/social-coop/fraud-prevention/>



ダイバーシティ&インクルージョン推進

三重大学では、平成20年に「女性研究者支援室」を発足し、平成21年の文科省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」に採択(「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」)され、女性研究者を支援してきました。平成23年には「男女共同参画推進室」と改称し、男女共同参画推進のための様々な活動を行ってきました。しかし、時代とともに変化する多様性に対する認識に合わせ、令和4年より「ダイバーシティ・インクルージョン推進室」に衣替えし、ジェンダー以外にも国籍や文化、障害の有無、性的指向など、より広範な多様性を対象とするダイバーシティ&インクルージョン推進を掲げ、様々な多様性を持つ人々が尊重し合い、共に活躍できる大学を目指し活動しています。

このように多様性に対するとらえ方は拡大し深化してきましたが、その一方で、令和6年のジェンダーギャップ指数(146か国中118位、世界経済フォーラム(WEF))に見られるように、日本社会の男女共同参画やジェンダー平等は十分に進んでいるとは言えず、今後も力を入れて取り組んでいかなければならない課題といえます。本学では、広範な多様性に対する取組とともに、男女共同参画及びジェンダー平等のための意識啓発、出産・育児・介護などのライフイベント中の教職員への支援、女性教員の研究力向上支援やネットワークづくりなど、女性たちが活躍できる環境づくりに力を注いでまいります。

ダイバーシティ&インクルージョンの基本方針

三重大学ダイバーシティ & インクルージョン推進宣言

三重大学は、すべての大学構成員が人種、民族、国籍、性別、性的指向、性自認、年齢、障害、宗教等の事由により差別されることのない教育、研究、就労の環境を整備し、多様な人材の確保・育成に積極的に取り組み、大学の意思決定において多様な構成員の意見が反映できる体制を構築します。



三重大学ダイバーシティ & インクルージョン推進計画

目標 1

ダイバーシティ&インクルージョン推進に係る本学構成員への意識啓発・理解促進とステークホルダーへの情報発信、協調・連携を行う。

目標 2

ダイバーシティ&インクルージョン推進に係る環境整備と必要な措置・制度の構築を行う。

目標 3

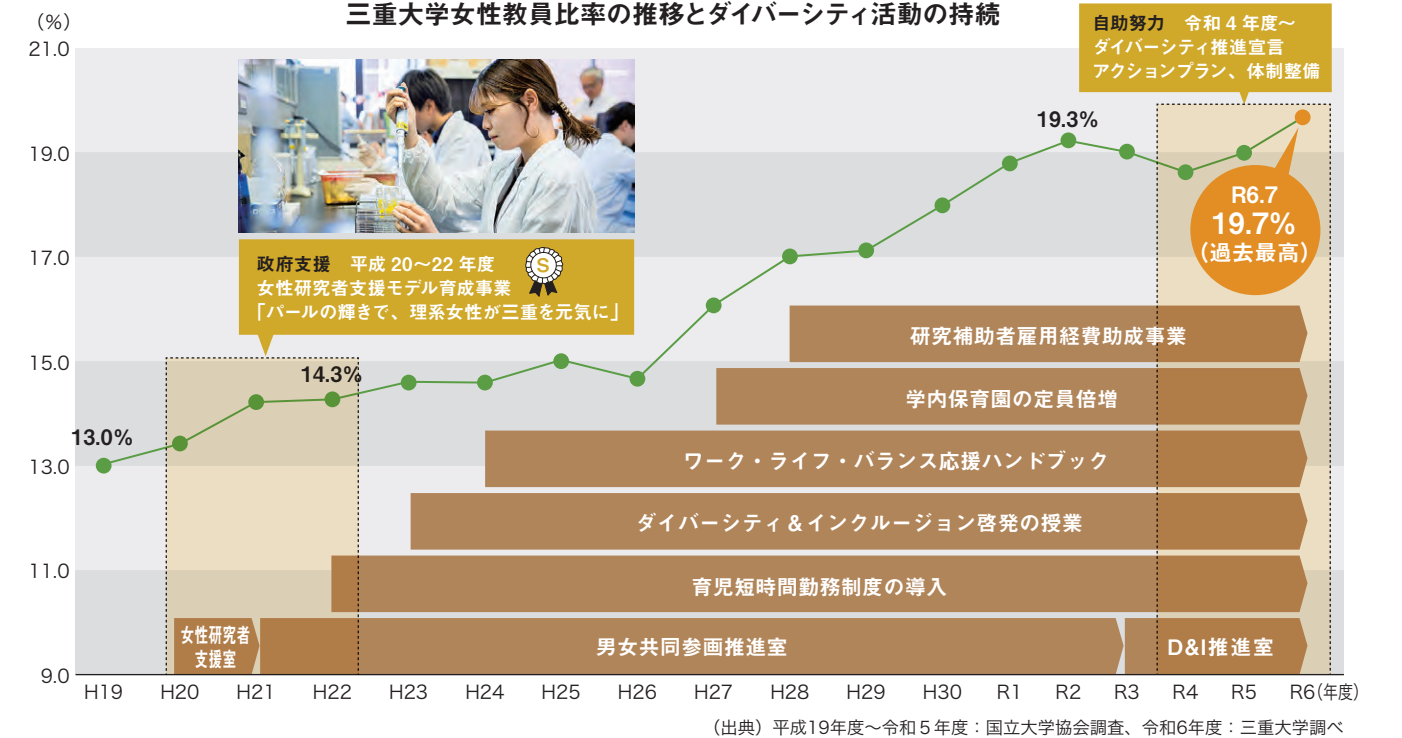
仕事と個人生活とのバランスに配慮し、ダイバーシティ&インクルージョン推進の観点から必要な支援を行う。

ダイバーシティ&インクルージョン推進のための数値目標

- ① 常勤の大学教員における女性教員比率を、24%以上とする。
- ② 常勤の大学教員における若手教員比率を、25%以上とする。
- ③ 常勤の大学教員における外国人数員比率を、3%以上とする。
- ④ 学長・理事・副学長における女性が占める割合を、20%以上とする。
- ⑤ 大学の意思決定機関における女性が占める割合を、20%以上とする。
- ⑥ 教授に占める女性割合を、20%以上とする。
- ⑦ 准教授に占める女性割合を、30%以上とする。



三重大学女性教員比率の推移とダイバーシティ活動の持続



(出典) 平成19年度～令和5年度: 国立大学協会調査、令和6年度: 三重大学調べ

Ⅲ

特集記事

三重大学では、未来を拓く地域共創大学として成長を続けるため、組織改革を一層推進するとともに、既存事業の費用対効果の分析による見直し・統廃合等を実施することにより全学横断的な戦略経費を確保し、重点分野に積極的な資金投入を行っております。

令和5年度は、戦略経費として「大学成長推進経費」を確保し、三重大学の教育研究の成果により社会に好影響を与える（社会的インパクト）活動に資金の投入を行いました。例えば、三重県北部地域を中心とした「半導体・デジタル」、「カーボンニュートラル」、一次産業地域を中心とした「スマート農業」、「医療分野におけるDX」、地域のニーズに即した「リカレント教育」など、地域社会から求められる重要なテーマに資金を投入し、積極的に地域共創大学としての役割を果たしています。

大学成長推進経費による4つの取組

地 域

1 地域社会の発展を促す 地域共創の推進への取組

- みえの未来図共創機構
- 地域共創展開センター
- リカレント教育センター

研 究

2 新たなシーズを生み出す 研究力強化への取組

- 卓越型リサーチセンター
- 若手研究者支援
- 研究基盤強化

教育・DX

3 大学の総合力を高める DXや部局の力を伸ばす取組

- 入試改革を含む教育改革
- DX推進
- 戦略的な部局への教員再配置

挑 戦

4 戦略的チャレンジを生む 学長・理事裁量による取組

- 若手教員の積極採用
- フェローシップ制度推進
- 評価・IR機能の強化



社会的インパクトの創出

四日市市関連の取組

半導体・デジタル未来創造センター

三重県には世界最大規模の半導体メモリ工場が立地しており、日本における半導体産業の重要拠点の1つとなっています。地域の自治体や教育機関・産業界と連携し、世界レベルのオンリーワン研究の推進と共同研究をベースとした研究環境下での半導体・デジタル分野の高度技術者育成を強化することで、地域産業の発展に貢献することを目指すため、三重大学は令和5年4月に半導体・デジタル未来創造センターを設置しました。

半導体・デジタル未来創造センター研究会(第1回)を開催

令和6年1月19日、ユマニテクプラザにおいて、三重大学・三重県・四日市市の共催で「半導体・デジタル未来創造センター研究会」(第1回)を開催しました。三重県内の半導体分野における人材育成の課題を探り、企業との連携強化を目指して、講演やパネル討論、三重県及び大学の活動紹介を行い、56名の参加がありました。



(左) 半導体・デジタル未来創造センター研究会(第1回)のチラシ、(右) パネル討論の様子

四日市CNXプロジェクト

三重県北勢地域は、半導体・自動車・石油化学などの産業が集積していますが、20世紀後半に日本の産業を牽引した石油化学工業は、2050年の脱炭素(カーボンニュートラル)社会実現に向けて産業転換が求められています。四日市CNXプロジェクトでは、三重大学と自治体、企業が一体となり、四日市市を世界から選ばれるカーボンニュートラルな先進環境都市への転換を目的とした基盤形成を目指します。

四日市CNXプロジェクト研究会を開催

令和5年度は四日市市のユマニテクプラザにて、2回の研究会を開催しました。

初めての開催となったキックオフ研究会では共同研究等の産学官連携推進を目的に、三重大学が抱える研究シーズの紹介を行いました。続く第2回では「脱炭素社会実現に向けた国の政策、委託・助成事業紹介」をテーマに経済産業省・環境省、四日市市からご講演をいただきました。各回カーボンニュートラルに関心を持たれている様々な業種の企業、自治体の関係者等、延べ170名が参加し理解を深めました。

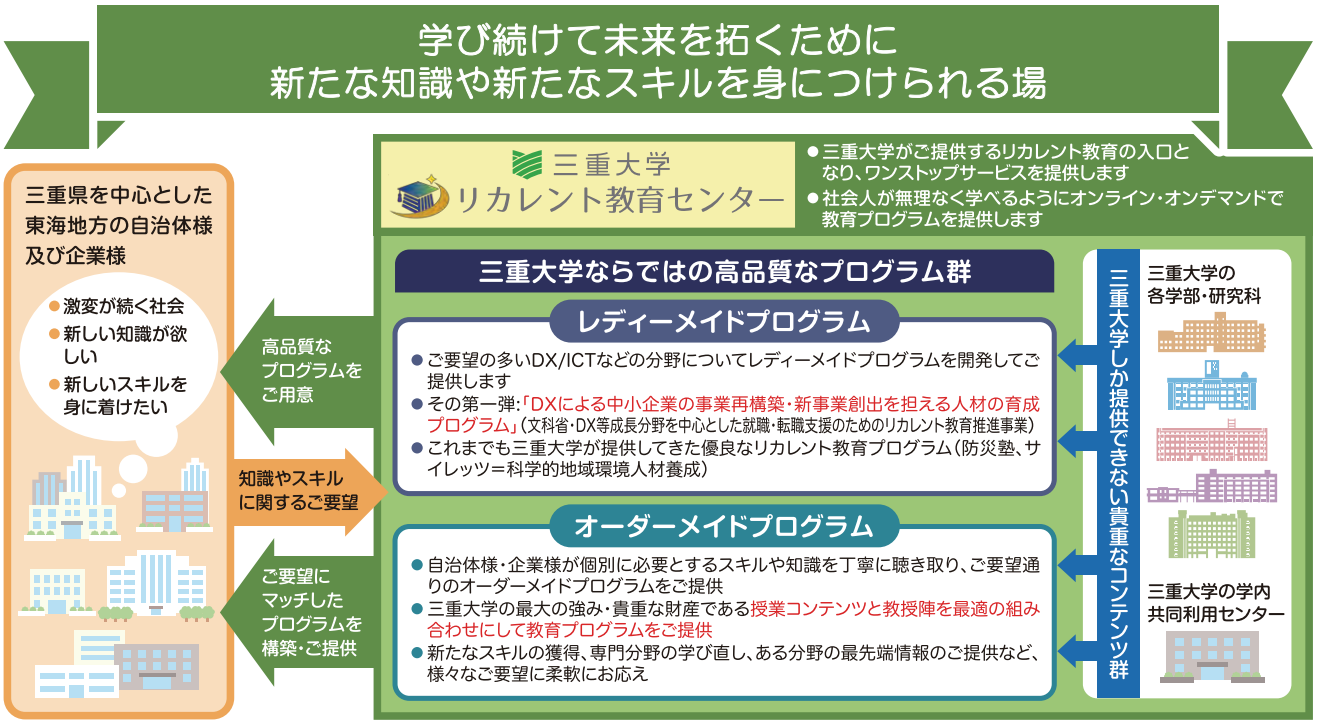


研究会会場

リカレント教育センター ～地域のリカレント教育を推進する拠点～

地域の社会人が学び続けて未来を拓く

激変する社会環境の中、企業や公共機関はこの変化への対応を求められています。一方、深刻な人手不足により新たな人材の確保が困難となっており、社員や職員の力をアップデートして新たな事業や政策立案を進める必要に迫られています。このような状況から、リスクリング・リカレント教育に対する社会からのニーズが急増してきました。三重大学では、このようなニーズに応えるため、社会人の皆さまが学び続けて未来を拓くために新たな知識や新たなスキルを身につけられる場として、リカレント教育センターを設置しました。地域の幅広い皆さまからのニーズにお応えするため、企業・公共団体が個別に必要とするスキルや知識を丁寧に聴き取り、オーダーメイドプログラムを提供するとともに、要望の多いDX/ICT分野については、レディーメイドプログラムを開発して提供しています。



DX推進人材と企画立案人材等を育成するリカレント教育

地域企業が必要とするDX人材を育成するレディーメイド型「DXリカレント教育プログラム」(文部科学省事業)を実施し、三重大学が開講する講義に加え、日本マイクロソフト株式会社、株式会社EBILAB、株式会社エスマットなどDX最先端の経験豊富な講師による教育を行いました。また、オーダーメイド型として、政策立案・企画立案に関するプログラムの開発やご要望を聴き取り本学講義を受講いただくなど、地域の皆さまのご要望に沿ったリカレント教育を実施しました。



座学に加え、グループワーク・演習・討論を取り入れた講義

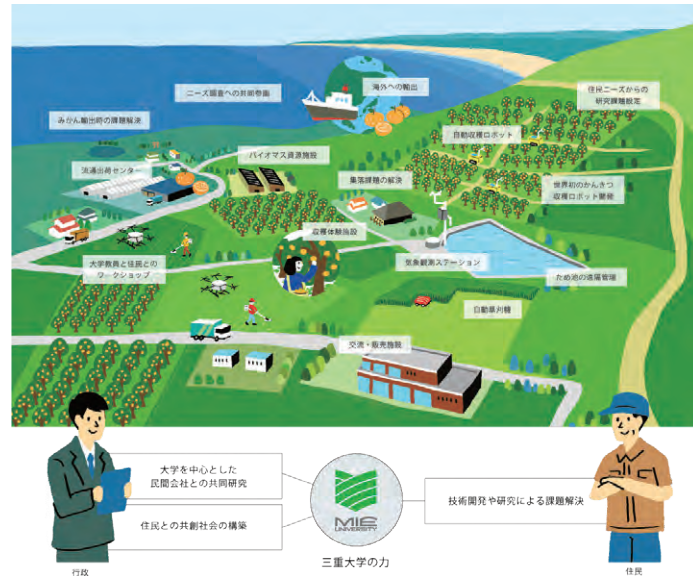
御浜プロジェクト

過疎・高齢化の中山間地域から 日本の未来を拓くスマートヴィレッジ化構想

三重大学は、御浜町の基幹産業である農業を起点として、Society5.0、SDGsの目指す次世代のスマートな社会の実現に向けて地域住民と会合を重ね、さまざまなプロジェクトに積極的に取組、それを実現させるために地域の住民と共に学びあうことで、地域社会におけるスマートヴィレッジに対するビジョンの醸成と本学における研究の新たな発展を目指します。

社会的インパクトの創出という観点からは、世界で初めてのミカン収穫ロボットの稼働を御浜町のミカン園で実現することを目指します。また、個包装とダメージ低減技術により高品質なミカンの輸出を実現します。

それらの活動のいくつかは御浜町から東紀州地域、三重県南部から全国の中山間地域への展開となるよう努めます。



共創の場形成支援プログラムへの採択

令和5年度に本学を中心とする「紀南オープンフィールド構想によるみどりのアントレプレナー共創拠点」が科学技術振興機構(JST)の共創の場形成支援プログラム(育成型)に採択されました。こちらのプロジェクトでは、多様な若者が三重県紀南地域に

集い、紀南地域をフィールドとして学ぶオープンフィールドと、自ら描いた将来像に向けて挑戦しそれを実現させるアントレプレナーの共創の場の形成を目指します。



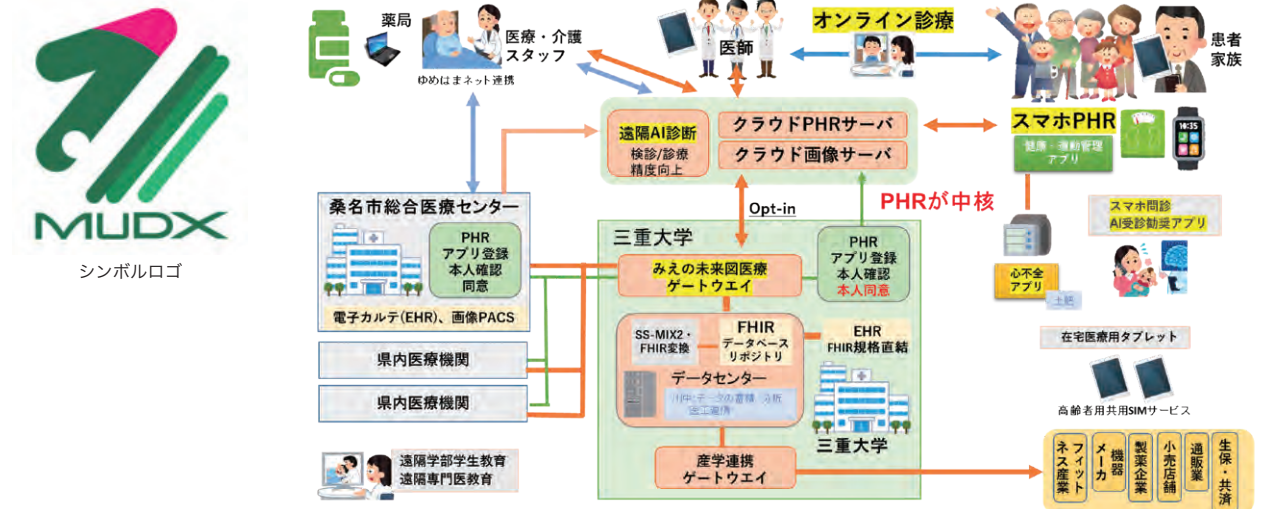
20年後の紀南地域のイメージ(紀南地区のタウン誌 からっと8月号より)

医療DXの取組 (Mie University Medical Digital Transformation: MUDX)

パーソナル・ヘルス・レコード(PHR)を活用した県域医療DX

三重大学は、自治体、医療機関、医師会等関係団体、企業などと連携して、PHRを活用したDXを推進します。県域で共通の電子カルテ情報と連携したPHRアプリを利用することで利便性を高め、患者本人が自身の健康状態を把握し病状変化に気づきやすくなり、また、家族と医療・介護スタッフとの情報共有が円滑化します。将来的にはパーソナライズされた医療・介護サービス等の提供により、生活の質の向上や疾病悪化の回避や早期発見が期待できます。医療機関間の患者紹介での情報共有は、手紙や電話、FAX、CD等により、人手と時間がかかるのが現状ですが、クラウドを活用した効率的でタイムリーな情報共有の形を模索しています。

これらの取組は医学部附属病院と桑名市総合医療センターをモデルとして県内の他病院、地域へ拡大することで、県全体の医療の質の向上と医療の効率化に寄与します。



PHRアプリを活用した患者中心の医療情報管理

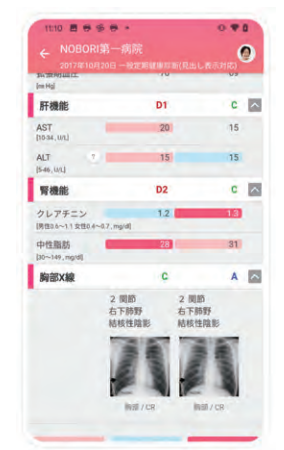
令和5年度には、附属病院と桑名市総合医療センターで、PHRアプリ『NOBORI』を導入しました。このアプリを使うと、従来は病院の電子カルテでしか見ることができなかった検査結果や画像データ、通院予定、処方内容などを、患者さんが自分のスマホで確認できるようになります。また、利用者は、自らの意思と選

択で、“ご家族”、“かかりつけ医”などへ医療情報を共有することが可能になります。

将来的には県内の医療機関へ広く展開し、連携していくことを目指しています。



アプリ活用例



アプリのイメージ図

三重大学賞

第3回三重大学賞授賞式を開催

三重大学賞は、教育活動、研究活動、国際交流活動、環境SDGs活動、地域共創活動、大学運営、スポーツ・芸術活動等において顕著な功績があった者について、その功績をたたえることにより、教職員のさらなる意欲の向上を図り、もって三重大学の活動の活性化と社会に貢献することを目的として令和3年度に制定されました。第3回となる今回は教育活動、研究活動及びその他の活動に対する自薦もしくは推薦のあった候補者について選考を行い、6名の受賞者を決定し、令和6年5月31日に授賞式を開催しました。

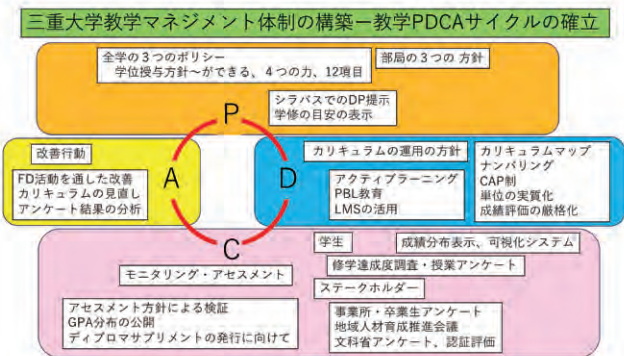


受賞者

生物資源学研究科 教授
荻田 修一



学長補佐、副学長の6年間を通して、三重大学における3つのポリシーの設定、部局の3つのポリシー設定のサポート、その評価を行うアセスメントポリシーの導入を行いました。さらに、教学体制として、履修ベースのGPAの導入、カリキュラムマップの設定、全学的ナンバリングの導入、CAP制度の導入、シラバスの学修時間記載、成績分布の表示、GPA分布の公開、学生アンケートの根拠の明確化とアンケート結果の分析、ディプロマサプリメント発行に向けた可視化システムの稼働、教学関係FD / SDの開催などを主導的に行い、三重大学の教学マネジメント体制の構築に貢献しました。

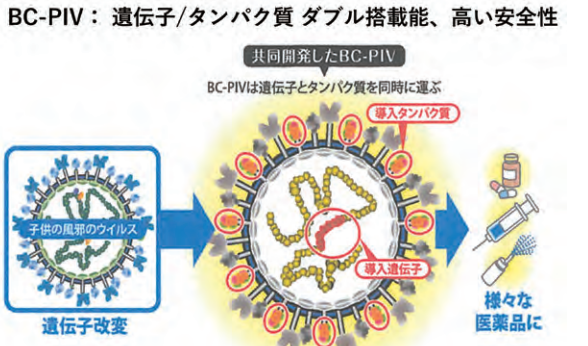


医学系研究科 教授
野阪 哲哉



未知の病原体による感染症有事への対応は国境を越えた重要な課題です。この課題に対し、ヒトパラインフルエンザ2型ウイルスという子供の感冒の原因ウイルスを遺伝子改変したハイスベックウイルスベクターであるBC-PIVを、地元ベンチャーのバイオコム㈱と共同開発しました。

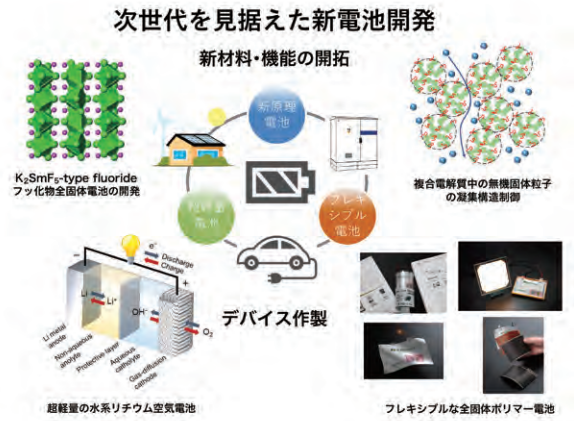
BC-PIVを用いれば、病原体の遺伝子配列情報を元に、迅速に組換えワクチンの作製が可能であり、鼻スプレーとして投与できるため、SDGs面でも次世代型です。国のワクチン・新規モダリティ研究開発事業の支援を受けて、BC-PIVの最初の社会実装プロジェクトとして、開発途上国を含めた世界の乳幼児と高齢者をRSウイルスから守ることを目指した研究開発を続けています。



工学研究科 教授
今西 誠之



平成2年に三重大学に助手として採用され、機能性セラミックスと電気化学、特にリチウム電池等の化学デバイス用電極材料や固体電解質に焦点を当てた研究を行ってきました。発表した研究論文は英語編著書を含み400報を超え、特にリチウム空気電池という新型電池で先駆的な研究を行い、米国電気化学会からBattery Division Research Awardを贈られました。電池に関わる国内外学会役員、フェロー、専門委員会委員長、国内・国際会議の実行委員長等の組織運営に携わり、研究分野の発展に努め、博士や大学教員を輩出し人材育成を通じた日本の電池産業の発展に寄与しました。



人文学部 教授
山田 雄司



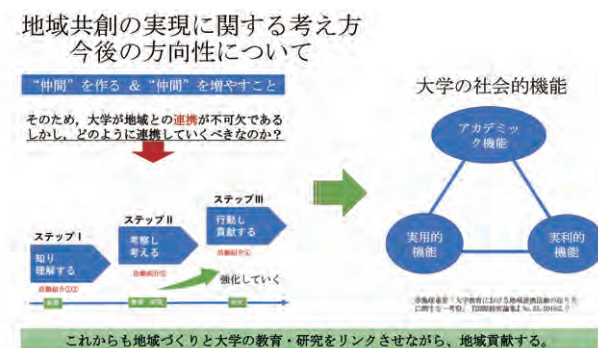
平成24年に上野商工会議所、伊賀市、三重大学の3者で「伊賀連携フィールド」という組織を作り、忍者を研究対象として伊賀に関わる取組を始めました。先駆的に「忍者・忍術学」という学問分野を作り上げ、大学院に忍者コースを創設し、国際忍者学会を設立し、学術書を出版するに至りました。研究に関しては、国内外の各種メディアでとりあげられ、三重大学と言えば忍者と言われるまでに世間から認知されるようになりました。



生物資源学研究科 教授
常 清秀



漁業の現状は厳しく、課題も多い中で、「担い手」の問題は最大の課題です。この問題の解決に、地域が抱えている課題を大学の教育と連動させ、大学生を中心に現地調査を行うことで、自ら現状を認識し、地元関係者と一緒に問題解決の方法を考える取組を行っています。このような活動は、大学と地域との連携を強化することになると同時に、大学生が地道な調査活動を通じて、地域を「知る・理解する」ことから始まり、最終的には、地域のためにアクションを起こす「仕組み作り」にも貢献しています。

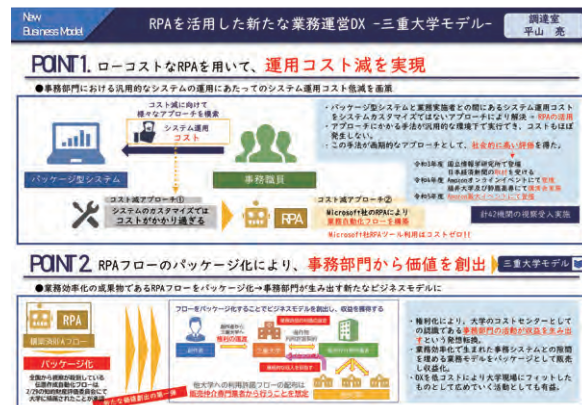


財務部財務管理チーム 調達室長
平山 亮



令和元年度よりRPAの構築に取組、支払伝票作成業務について構築したRPAによって業務自動化を実現しました。これにより、令和4年度には年間2,000時間以上の業務削減効果を生み、令和5年度にはAmazon最大のイベントにて国立大学法人として初の登壇を行い、当該業界における高い評価を得ました。

今後は構築したRPA フローをパッケージ化し、他大学へフローを有償提供することによって、これまでコストセンターとしての位置付けであった事務部門において、事務業務効率化のノウハウという価値を創出し、それが大学に収益をもたらすという新たなステージを切り開くことが期待されます。これらの取組は三重大学に限らず将来の国立大学法人事務部門の可能性を広げる活動になると考えられます。



IV 活動実績



教育

令和5年度「大学・高専機能強化支援事業」に選定

三重大学は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が公募した「令和5年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」に申請し、令和5年7月21日付けで選定されました。

本事業は、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、国が基金を創設し、機動的かつ継続的に大学への支援を行うもので、三重大学はこのうち、既設の情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員等による体制強化を図る取組を対象とする「一般枠」に選定されました。

三重大学では、これまで大学院工学研究科及び工学部を中心とし

て、高度情報専門人材の育成を行ってきた実績があります。さらに、より多くの高度情報専門人材を三重大学から輩出すべく、本事業を活用して、大学院工学研究科情報工学専攻及び工学部総合工学科情報工学コース等のデジタル分野に関する教育研究機能の体制強化を図る取組を予定しています。

「三重の力を世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学」をキーワードに、これらの取組を通じて、新しい時代で活躍できる人材を育成するとともに、大学の社会的責任を果たしていきます。

「三重大学アカデミックフェア2023」を開催

令和5年11月23日、三翠ホールにて「三重大学アカデミックフェア2023」を開催しました。



会場の様子

アカデミックフェアは、三重大学の学生の学習や研究の成果、地域や高大連携、課外活動、支援活動等の実践について、本学関係者をはじめ、学内外の方々に対して広く紹介する機会として毎年開催しています。今回は対面での実施となり、企業の方や高校生を含む学内外の340名の参加となりました。

第1部の特別企画シンポジウムでは『三重大学の研究多様性 一点と点をつなごう』をテーマとし、各学部・研究科の代表の学生が、それぞれの研究発表を行うとともに、視聴者からの質問を交えて活発なディスカッションを行いました。

続いて行われた第2部の個別研究発表では計78件の発表を行い、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定校の高校生も発表するなど、多様な立場の方が参加しました。

参加者の皆さまからは「対面ならではの良さや他学部の学生の研究内容を知ることが出来て良い機会であった」との声がありました。

三重大学360° VRキャンパスツアーを公開

三重大学ホームページの「高校生・受験生応援サイト」にて、自然豊かなキャンパスや各学部の建物をバーチャルで見学できる「三重大学360° VRキャンパスツアー」を公開しました。

食堂や図書館、さらに一部の学部では、普段は入れない研究室や実験施設の内部も公開中です。視点を自由に動かして見学ができるほか、それぞれに解説文や関連写真、動画などを付けており、大学内を実際に歩いて見学しているような感覚で、視聴することが可能です。

VRキャンパスツアーの視聴については、パソコン、各種タブレット、スマートフォンに対応しており、さらにスマートフォンを装着できるVRゴーグルがあれば、VRモードでよりリアルに体感できます。



高校生・受験生応援サイト
<https://www.mie-u.ac.jp/admission/index.html>

三重大学 360°VR キャンパスツアー
<https://www.vr-tour.ac.mie-u.ac.jp/>



4年ぶりに全学部で来場型オープンキャンパスを開催

令和5年8月10日、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響で令和2年度からオンライン企画が中心となっていたオープンキャンパスを、4年ぶりに全学部において来場型で開催しました。当日は朝早くから多くの高校生や保護者の方が来場し、全体で3,700人以上（オンライン含む。）の参加がありました。

各学部では学部・学科紹介のほか、模擬授業や在学生による学生生活紹介、研究紹介展示、個別相談コーナーなど多彩な企画が実施されました。その他にも、全学企画としてキャンパスツアーやリアル謎解きゲームを実施しました。

食堂ではオープンキャンパス特別メニューとして「三重大学カレー」を提供したほか、学内2か所でキッチンカーも営業し、どちらも大変盛況でした。



参加者で賑わうメインストリート



リアル謎解きゲーム



模擬授業の様子



練習船など附属教育研究施設の紹介



附属病院紹介

令和5年度学位記授与式特別企画フェアウェルパーティーを開催

令和6年3月25日、令和5年度学位記授与式後、卒業生を対象としたフェアウェル企画を開催しました。卒業生のうち、令和2年度に入学した学生は、新型コロナウイルス感染症拡大により入学式の実施が叶わず、その後もキャンパスへの登校や活動を制限せざるを得ない苦しい時期が長く続きました。

そんな日々を乗り越え、社会に羽ばたく卒業生に対し、少しでも思い出に残る式典となればとの想いから、学生を支援するチームをはじめ、在学生、地元企業の方々の協力のもと、本企画を開催しました。

企画としては、軽食を楽しむことができるフェアウェルランチ企画、多くのキッチンカーが並ぶストリート、在学生によるミニライブなどが催され、卒業生たちは楽しんで参加し、笑顔が溢れました。また、大学構内にはフォトスポットや写真メッセージの展示や

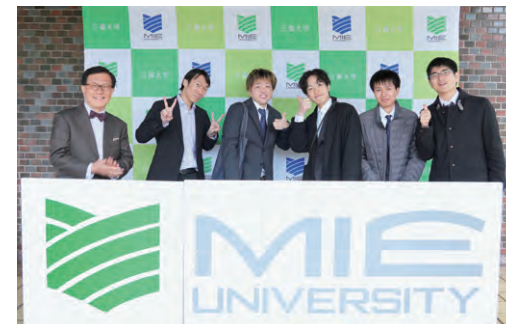
上映などがあちこちで行われ、記念に写真撮影をする姿が見られました。



パーティー会場の模様



特定の学位記の前で
伊藤正明学長と一緒に記念撮影



三重大学フォトスポットの前で記念の一枚



在学生や職員から寄せられた
お祝いメッセージ

研究・社会貢献

安心・安全を保障する神事・産業・医療用大麻品種を開発し、日本における大麻研究開発・分析拠点に

三重大学では、GHQによる規制により衰退した日本の大麻農業・産業を復活させるために、麻薬成分が基準以下の「安全・安心な新たな日本大麻品種」を開発し、それらを農業・産業・医療利用するための基礎・応用研究に取り組んでいます。

久居農林高校と連携し伝統的な精麻用大麻栽培用農機具を復元

神事で使用される神具の多くは、国内でこわずかとなっている大麻農家が栽培した大麻が使われています。その大麻農家が栽培の際に用いる播種機や中耕機などの農機具は、現存数が限られるため大変貴重なもので、代替品がありません。

三重大学と三重県立久居農林高等学校(以下、「久居農林高校」)は、三重県内での大麻農家の協力を得ながらこの貴重な農機具の再現・改良に連携して取り組んでいます。

令和6年2月15日に行われた三重大学定例記者懇談会では、共同で復元した大麻栽培用の播種機と中耕機をお披露目しました。本学は今後も久居農林高校の生徒たちとともに、神事用大麻栽培の農具を継承し、さらに改良を加えて、神事・産業用大麻栽培の復興・活性化に寄与し、取組を続けてまいります。



製作した播種機と中耕機を披露する久居農林高校の生徒さん

Topics

神事・産業・医療用大麻研究センターの設立

三重大学は、令和6年6月1日に、「カンナビス研究基盤創生リサーチセンター」(戦略的リサーチコア〈重点型領域〉)及び地域共創展開センター「神事・産業・医療用大麻研究プロジェクト」を融合し、新体制として「神事・産業・医療用大麻研究センター」を設立しました。大麻産業は世界的にも急成長を遂げ、グリーンラッシュと呼ばれており、日本でも神事・伝統文化に留まらず、産業や医療への活用が期待されます。今後、本センターでは産学官連携体制を構築し、安心・安全に我が国における大麻文化のムーブメントを誘起していきたいと考えています。



定例記者発表の様子

中部国際空港株式会社と産学連携に関する包括協定を締結

令和6年2月22日(ニン・ニン・ニンで忍者の日)、中部国際空港にて、三重大学と中部国際空港株式会社との産学連携に関する包括協定の調印式を行いました。

中部国際空港株式会社は、平成30年からこの地域の資源である「サムライ」と「忍者」を活用して観光振興を行う「サムライxNINJA

空港プロジェクト」を展開しており、本学人文学部の山田雄司教授が「忍者」に関する監修を行っています。また中部国際空港を会場として、本学の国際忍者研究センターが事務局を務める国際忍者学会の総会を開催した経緯があり、更なる連携強化のため今回の協定締結に至りました。

協定調印式では、出席者全員が忍者に扮して登壇し、本学の伊藤正明学長と中部国際空港株式会社の犬塚力代表取締役社長が協定書に署名を行いました。



(左から) 三重大学 伊藤正明学長、中部国際空港株式会社 代表取締役社長 犬塚力氏

調印後は、服部半蔵忍者隊や空港スタッフも登壇し、盛大に勝どき関を上げました。

今後は、人材育成などの幅広い分野で連携を深め、中でも観光分野における教育・研究の強化に取り組んでまいります。



調印式の様子

先端的・独創的な研究から新たな知の創出を目指すリサーチセンター

三重大学では多様な研究グループに支援を行うことで、世界トップレベルの先端研究をはじめ、社会課題の解決やイノベーションの創出に資する独創的研究の推進を目指したりサーチセンター制度を実施しています。

リサーチセンターは、「卓越型リサーチセンター」と「重点リサーチセンター」の2階層で構成し、認定した研究グループに対する支援を通じて、研究の更なる活性化、先端研究の拠点化や地域イノベーションの推進を目指します。

卓越型リサーチセンター

令和5年4月以降、世界トップレベルの卓越した先端研究グループを支援することで優れた研究成果をあげることを目的として、「エネルギー材料統合研究センター」と「半導体の結晶科学とデバイス創製センター」の2つを設置しました。

重点リサーチセンター

「将来的に卓越型リサーチセンターを目指せる先端研究」、「産学官が共創して地域課題の解決を目指す研究」、「地域に根差したオン

リーワン研究」のいずれかの研究グループを支援することで優れた研究成果をあげることを目的として、令和5年4月に9つを設置しました。

Topics

「卓越型リサーチセンター」と「重点リサーチセンター」は、令和6年4月、「三重大学戦略的リサーチコア」の“卓越領域”と“重点領域”として組織改編され、活発な研究活動を展開しています。令和6年度三重大学戦略的リサーチコア一覧はP.57に掲載しています。



四日市市と「JR四日市駅前における三重大学新教育研究拠点の設置に向けた検討着手の連携協定」を締結

令和6年2月16日、三重大学と四日市市は、三重大学がJR四日市駅前における新教育研究拠点の設置に向けた検討に着手するにあたり、相互に連携・協力するための連携協定を締結しました。



(左から) 四日市市 森智弘 市長、三重大学 伊藤正明 学長

この連携協定は、四日市市が進めているJR四日市駅前への大学設置に関して、四日市市からの設置要望を受け、本学新拠点の設置の可能性について両者で検討及び協議を始めるために結ばれたものです。

令和6年度末を目途に、新拠点の設置に向けた検討の結論を出すよう進めています。

(参考)連携協定の主な内容

- ・新拠点の設置に向けた具体的な検討を開始し、必要に応じて協議を行う。
- ・令和6年度末を目途に、新拠点の設置に向けた検討の結論を得よう努める。
- ・検討及び協議にあたり、相互に連携・協力する。

「三重大学地域共創展開センターシンポジウム『地域共創大学』三重大学の取組～地域課題解決に向けたプロジェクトについて～」を開催

令和5年9月21日、桑名市柿安シティホールにて、「三重大学 みえの未来図共創機構 地域共創展開センターシンポジウム『地域共創大学』三重大学の取組み～地域課題解決に向けたプロジェクトについて～」を開催しました。

本シンポジウムは、三重大学が進める地域共創展開センターのプロジェクトを地域の関係者に紹介し、新たな産学官共創プロジェクトの創発に向けたニーズを掘り起こすことを目的として開催したもので、開催地である桑名市の伊藤徳宇市長や桑名市総合医療センターの竹田寛理事長をはじめ、自治体や企業関係者等を中心に約200名の参加がありました。

5つのプロジェクトのPL(プロジェクトリーダー)による講演、

ポスターセッション、PLと参加者との情報交換会などが行われ、自治体や企業関係者等とのさらなる連携強化の場となりました。



会場の様子

施設・環境

「地域共創プラザ」オープン

令和5年5月8日、地域共創に向けた新たな施設である「地域共創プラザ」をオープンしました。鉄筋2階建て、総工費約5.7億円をかけて建築し、令和4年4月に着工後、令和5年3月末に完成しました。

当日は、オープニングセレモニーを開催し、学長や理事、三重大学生協学生委員会委員長、ほか学内から多くの教職員、学生が出席しました。出席者によるテープカットの後、「地域共創プラザ」の中に設置された新しい第一食堂が早速オープンし、新しい食堂を楽しむに駆けつけた学生で大変に賑わいました。

この「地域共創プラザ」には、食堂スペースに加えて、地域共創に向けたイベント等を開催するためのスペースや、地域貢献に取り組む学生がミーティング等に活用できるスペースを設けました。

また、建築にあたっては、総工費約5.7億円のうち2.3億円について三重大学振興基金を活用しました。

三重大学では、「地域共創プラザ」において、地域共創に向けた多様な企画を展開するとともに、本学をパートナーとされる企業や近隣自治会をはじめ、地域の皆さまに広く活用していただけるよう取り組んでいきます。加えて、今後も引き続き、食堂スペースに設置した大型のデジタルサイネージで、地元企業のプロモーションも行っていきます。



テープカットの様子



挨拶する伊藤正明学長



1階食堂の様子

「クラブハウス」オープン



クラブハウス(ネーミングライツ事業契約により、現愛称「クラブハウス-SINFONIA-」)

令和6年1月15日、音楽系のクラブやサークルの活動拠点「クラブハウス」がオープンし、2月15日には完成記念のイベントを開催しました。

管弦楽団や吹奏楽団、ギターマンドリンクラブなど、三重大学には15の音楽系クラブ・サークルがあり、約650人の学生が所属していますが、大きな音を出せる場所が限られていたため、新たな拠点を求める声が以前からあがっていました。

それを受け、昭和45年築の鉄筋コンクリート2階建ての旧第1食堂を、三重大学振興基金を活用しながら約2.6億円かけて改修し、15～80人を収容できる5つのホール、個人練習ができる8つの個室などを整えました。



完成記念イベントの様子

三重大学新正門の開通式を開催

令和5年7月19日、三重大学新正門の開通式が行われました。令和4年8月から開始した正門周辺の工事が遂に完成し、国道23号線に面した新正門が本学の新しい顔となります。

伊藤正明学長から、キャンパス整備における長年の課題であった交通の安全性確保を実現するため、国道23号線側に正門を配置し、歩行者と自転車のそれぞれの専用道を新設した経緯が披露され、これから、この新しい正門が皆と共に歩み、より一層の発展を目指すための象徴となり、親しまれるものになることを期待すると挨拶がありました。

新正門前の新しい広場がこれまでにない空間の広がりを感じるように、これからの大学の未来へと続く道が力強いものだと感じられる式典となりました。



「三重大学」
銘板の除幕式



三重大学新正門

イルミネーション点灯式を開催

令和5年12月6日、地域共創プラザのシンボルツリー前にてイルミネーション点灯式を開催しました。

コロナ禍を経て、キャンパスライフが少しずつ戻りつつある中、困難を乗り越えてきた学生たちの頑張りに敬意を表して、キャンパスをイルミネーションで彩りました。

環境ISO学生委員会による司会進行のもと、アンサンブルサークル「ぶるさあ。」や「三重大学応援団」、アカペラサークル「Pioneer」、ジャグリングサークル「ジャグリアーノ！」によるパフォーマンスも行われ、またカフェサークル「Le Lien」の珈琲も振舞われるなど、会場は大盛り上がりとなりました。



イルミネーションで彩られたシンボルツリー

施設・環境

環境活動についての取組

科学的地域環境人材(SciLets)育成事業

地域の中核的拠点である三重大学は、大学の機能強化戦略の1つとして、主に社会人を対象とした教育プログラムである「科学的地域環境人材(SciLets：サイレッツ)育成事業」を実施しています。

本事業は、多忙な社会人に対応できるようインターネットで受講するビデオ講義方式を採用し、e-ラーニングシステムによる理解度確認テストにより環境教育要件を満たした受講者を「アナリスト」として認定しています。さらに環境共同研究などの環境実践要件を満たした受講者を「エキスパート」として認定しています。

本事業の受講者数は、令和5年度に245人の申し込みがあり、令和6年3月31日時点で延べ913人の社会人の方に受講いただきました。地域に必要とされる「環境人材」を育成し、環境保全と地域振興に貢献しています。



MIEUポイント

三重大学は、平成24年から三重大学独自の取組である「MIEUポイント」を実践しています。

「MIEUポイント」とは、学生・教職員による自主的環境活動の取組を見える化(ポイント化)し、インセンティブ(獲得ポイントを環境配慮製品などに交換)を付与する制度です。パソコン・スマートフォンを活用し、手軽に参加できる仕組みを構築しています。

MIEUポイントの「MIE」は三重大学の「MIE」、「U」は「University」の意味と、「You」の意味「がんばる“あなた”」を表しています。

全学で取り組むMIEUポイントの活動は令和2年1月に公益財団法人日本環境協会が主催する「エコマークアワード」において奨励賞を獲得しました。



スマートキャンパス

三重大学は、平成23年より温室効果ガス排出量の大幅な削減を目的とした「スマートキャンパス事業」を実施しています。

本事業では、創エネ設備(風力発電、太陽光発電、ガスコージェネレーション)、省エネ設備(デシカント空調、LED照明)及び蓄エネ設備(蓄電池)を導入しました。キャンパスのエネルギーを総合管理するエネルギーマネジメントシステム(EMS)により、各機器のデータ、過去の運転傾向、天気予報データなどを解析し、導入した設備の最適運用を図っています。

また、本事業の実施で得られた省エネルギーに関する知見等について、学内外の学生、企業及びエネルギー関連組織体などへの説明会(スマートキャンパスツアー)を通して広く地域に還元しています。



環境ISO学生委員会

三重大学の学生は、日頃から自然環境や生活環境に意識を持った活動を積極的に行っています。中でも、環境マインド向上を活動理念とし、学生が主体となって活動を行う組織が、三重大学環境ISO学生委員会です。

環境ISO学生委員会は、ごみ減量化の提案や活動・学内の古紙再生利用・卒業生からの家電製品や家具の再利用といった3R活動、キャンパス内の緑化・花壇の整備などの緑化活動、そして放置自転車対策活動などにも取り組んできました。学外では、大学に隣接する海岸清掃や小学校への環境学習を通して地域を巻き込んだ環境活動を展開しています。

これらの活動は、学内では掲示板や広報誌を通して、学外ではホームページや各種イベントでの活動紹介を通して学生や地域の方々に発信しています。

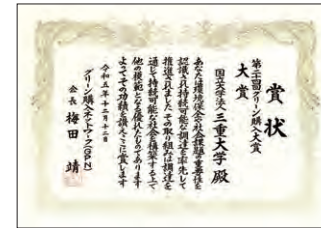


大学初の2度目のグリーン購入大賞「大賞」を受賞

三重大学は、グリーン購入ネットワーク(GPN)が主催する「第24回グリーン購入大賞」において『大賞』を受賞し、令和5年12月12日にコングレスクエア日本橋(東京都中央区)で、表彰式が開催されました。

第17回のグリーン購入大賞の受賞に続き、大学としては初となる2度目の受賞です。

このグリーン購入大賞は、積極的にグリーン購入の普及に取組、多く



第24回グリーン購入大賞「大賞」賞状



受賞者との集合写真

学長がSDGsとCNの推進に向けた授業用ビデオ講義で学生にエールを発信

三重大学では、令和5年から全学生を対象とした共通教育カリキュラムにおいて、SDGsとカーボンニュートラル(CN)を学ぶ「カーボンニュートラルとSDGs」のビデオ・オン・デマンド講義を実施しています。

講義の冒頭では、伊藤正明学長から本学が取り組むSDGsとCNについて紹介し、授業を通して学生自身の勉学と社会活動に役立てることへの期待とエールを発信しています。

本学は、大学基本理念のもと、すべての構成員がSDGs(持続可能な開発目標)の趣旨を理解し、環境先進大学としての取組をさらに強化することで、カーボンニュートラル社会の形成などに向けた

環境の諸課題を地域と共に探究し、新しいコミュニティづくりの一翼を担う地域共創大学として、持続可能な社会の構築に寄与しています。



伊藤正明学長からの挨拶

「三重大学環境・SDGs座談会2023」を開催



座談会参加者一同

令和5年8月10日、「ダイバーシティ&インクルージョンな視点に基づくカーボンニュートラル(CN)社会に向けた取組」をテーマとして、「三重大学環境・SDGs座談会2023」を開催しました。

今回の座談会には、伊藤正明学長、西岡慶子理事、金子聡副学長、三重トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長 竹林憲明氏、中部電力パワーグリッド株式会社 執行役員三重支社長 速水敏浩氏、学生、留学生の12名が参加しました。

企業の方々から「CN社会の実現に向けての取組」や「企業が求める人材像の変化」についてお話をいただき、その後参加者全員で意見交換を行いました。

最後に大学や企業の方々から学生、留学生へのメッセージをいただき、50年後、100年後も美しい地球で人間の営み続けるためには今、何をすべきかを考えるよい機会となりました。

国際交流

三重大学長がチェンマイ大学(タイ)へ表敬訪問

令和5年10月9日、三重大学の伊藤正明学長がチェンマイ大学(タイ)のSribanditmongkol, Pongruk学長を表敬訪問しました。

三重大学とチェンマイ大学は30年以上の交流があり、本学にとってチェンマイ大学は研究においても学生交流においても重要な海外協定校の1つです。特に近年は工学や看護の分野での交流が盛んです。

この度の訪問で両学長及び関係者において、意見交換を行い、今後も他の領域を含めたさらなる交流を発展させていくことを確認しました。



表敬訪問の様子

令和5年度学生海外チャレンジ応援事業の実施

三重大学では、本学独自の学生応援事業として、世界に飛び出して、学業の達成やキャリア形成のための活動にチャレンジする学生の思いを応援する「学生海外チャレンジ応援事業」を行っています。自分の専門の学修やキャリア形成に欠かせないと思う、思いの詰まった海外渡航計画を作って申請してもらい、採用者には渡航先及び滞在日数に応じて最大50万円の奨学金が支給されます。令和5年度は30名の学生が採用され、14か国・地域※への渡航を実現させました。

※アメリカ、イギリス、インドネシア、オーストラリア、スペイン、タイ、ドイツ、フィリピン、フランス、ブルガリア、ベトナム、ペルー、ラオス、韓国



インドネシア



フィリピン



ベトナム



ラオス

国際交流DAYS「My Home University ～私の大学紹介～」を開催

令和5年12月12日、15日、21日に、「My Home University ～私の大学紹介～」を開催し、多くの学生・教職員が参加しました。

初日には、パリエ芸大学(フランス)、リヨン政治学院(フランス)、 Lund大学(スウェーデン)の3校、2日目には、延辺大学(中国)、パジャジャラン大学(インドネシア)の2校、3日目には、ホー

チミン市師範大学(ベトナム)、タマサート大学(タイ)の2校について、現在三重大学に交換留学中の留学生が紹介を行いました。

留学生からはそれぞれの大学の魅力について、建物・学食・寮などのキャンパスの様子や、行事・サークル活動といった様々な切り口からたくさんの写真を織り交ぜて紹介がありました。日本の大学との比較もあり、参加者は観光案内書やインターネットからは得られない情報に興味深く聞き入っていました。

発表後には、活発な質疑応答があり、とくに留学を希望する学生には大いに刺激になったようでした。



留学生が母国の大学を紹介する様子

第29回Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムへ学生が参加

令和5年12月21日～12月23日に、メージョー大学(タイ)にて第29回Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムが開催されました。

このセミナー&シンポジウムは、三重大学、チェンマイ大学(タイ)、江蘇大学(中国)、IPB大学(インドネシア)、広西大学(中国)、メージョー大学(タイ)の6大学が交代でホスト校を務め毎年開催しています。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、三重大学はオンラインでの参加となりましたが、令和5年度はタイで対面参加し、4カ国8大学から100名を超える学生・教職員が集まりました。本学からは、教職員4名・学生5名の計9名が参加しました。

当日までにまとめた自分の研究を英語で発表だけでなく、現地で参加学生とグループになり、決められたテーマに沿った内容の発表を行うなど、様々なアクティビティを通して交流を深め、シンポジウム終了後も連絡を取り合うなど、最高の仲間を見つけることができたようでした。

参加した学生は、他の参加大学の学生と色々な交流ができ、大変貴重な経験になったと充実した様子で語ってくれました。



Topics

研究力を向上し、国際交流を活性化させる「MIE-U 国際交流協定校外国人若手教員受入れプログラム」

三重大学と国際交流協定を締結している海外大学から、年間2名の外国人若手教員を受け入れ、本学で教育・研究活動を行う「MIE-U 国際交流協定校外国人若手教員受入れプログラム」を新規に立ち上げ、令和6年5月より受け入れを開始しました。

本プログラムは、海外の協定大学から若手教員を積極的に受入れることにより、本学の国際化を強化、研究力を向上し、学部・研究科ビジョン2030の達成に向けて取組を加速させると共に、協定大学との関係性を深め、国際交流を活性化させることを目的としています。

本プログラムにより、ダイバーシティの促進や、外国人教員と本学学生との交流、本学との国際共同研究の推進などが

期待されます。

将来的に、優秀な留学生の大学院での受入れを定着化し、これからの本学の原動力となる地域の成長・発展を支える人材の育成・獲得を目指します。



辞令交付の様子

地域医療・先進医療

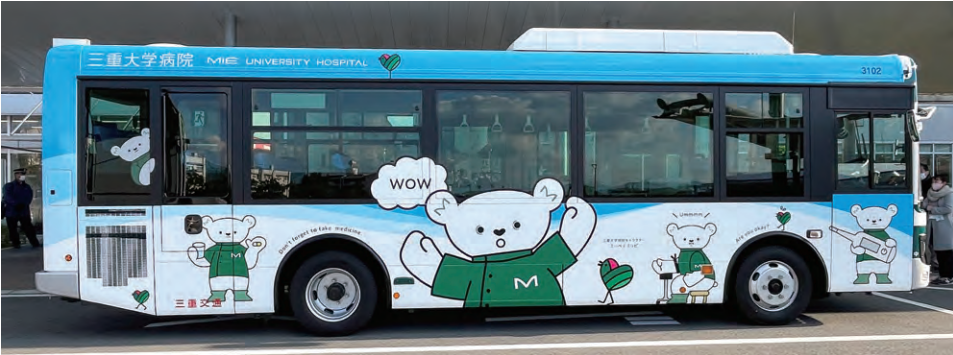
経営状況

医学部附属病院は、重要経営指標である新入院患者数・手術件数等はコロナ禍で落ち込みましたが、令和4年度から徐々に脱コロナを掲げ、令和5年度はコロナ前の体制へ戻すことで回復し、急性期病院の役割を果たしています。



医学部附属病院と津駅を直通で結ぶ「みえブルーライン」の運行が開始

令和6年1月4日より、医学部附属病院と津駅を直通で結ぶ「みえブルーライン」の運行が開始されました。
バスのメインカラーは、患者さんが穏やかな気持ちで過ごしていただけるように「青」を基調とし、附属病院のマスコットキャラクターである「ミーベとミッピー」が大きく描かれ、とても親しみやすいデザインとなっています。診察券を提示すれば、運賃は病院負担となるなど、患者サービスの向上に向けた取組を引き続き実施していきます。



次世代CT「フォトンカウンティングCT」の導入

令和5年8月、医学部附属病院は、三重県内初、国内で7台目となる次世代CT「フォトンカウンティングCT」を導入しました。フォトンカウンティングCTは従来装置と比べて空間分解能が約10倍で、画像ノイズも大幅に低減されます。また、患者さんへの被ばく量の低減や診断能の向上が期待でき、より最良な医療の提供につながることから、導入を決定しました。

また、附属病院では、フォトンカウンティングCTによる超高精細で膨大な画像データを保存・処理し、院内全ての電子カルテ端末で参照できる独自のシステムを構築しました。このように、外来・入院を問わず、全診療科で、フォトンカウンティングCTによる高精細画像を診療に活用できるシステムは、世界初となります。

フォトンカウンティングCTにより、細い血管の狭窄や動脈硬化を診断できるだけでなく、がんの状態をより正確に評価できるため、附属病院における医療の質の向上及び産学連携の研究開発を推進していくことを目指します。



本邦初の単孔式ロボットを使用した「胸を切らない肺がん手術」に成功

令和6年1月、医学部附属病院は、最新の手術支援ロボット(DaVinci SP)を導入し、日本で初めてアームが1本のみの単孔式内視鏡手術支援ロボットを用いて、胸を切らない肺がん手術に成功しました。

患者の体に小さな穴を開けて行う手術支援ロボットを使用した手術は傷が小さく、従来の開胸・開腹手術に比べ患者への負担が大きく軽減されます。術後の痛みの軽減や、回復も早いため、入院期間も短くなるといったメリットがあります。

今後も最善のロボット支援手術を提供できるよう、診療科横断的に運営し体制を整えていくことで、根治だけでなく、患者が早期に社会復帰ができるように取り組んでまいります。



©2024 Intuitive Surgical

医学部附属病院の様々な情報をお伝えする公式ブログ「Online MEWS」

医学部附属病院では、診療をはじめとする様々な情報を皆さまによりわかりやすく、親しみやすく、またタイムリーにお伝えすることを目的に、令和5年5月1日より附属病院公式ブログ「Online MEWS（オンラインミューズ）」の配信を開始しました。最新の診断や治療、疾患、診療科・部門、附属病院が得意とするチーム医療、いろいろな取組、先端の研究、スタッフ、たまにほっこりするような話題などを取り上げています。ぜひご覧ください。

公式ブログ「Online MEWS」
<https://mews.hosp.mie-u.ac.jp/>



Topics

救急医療の体制強化について

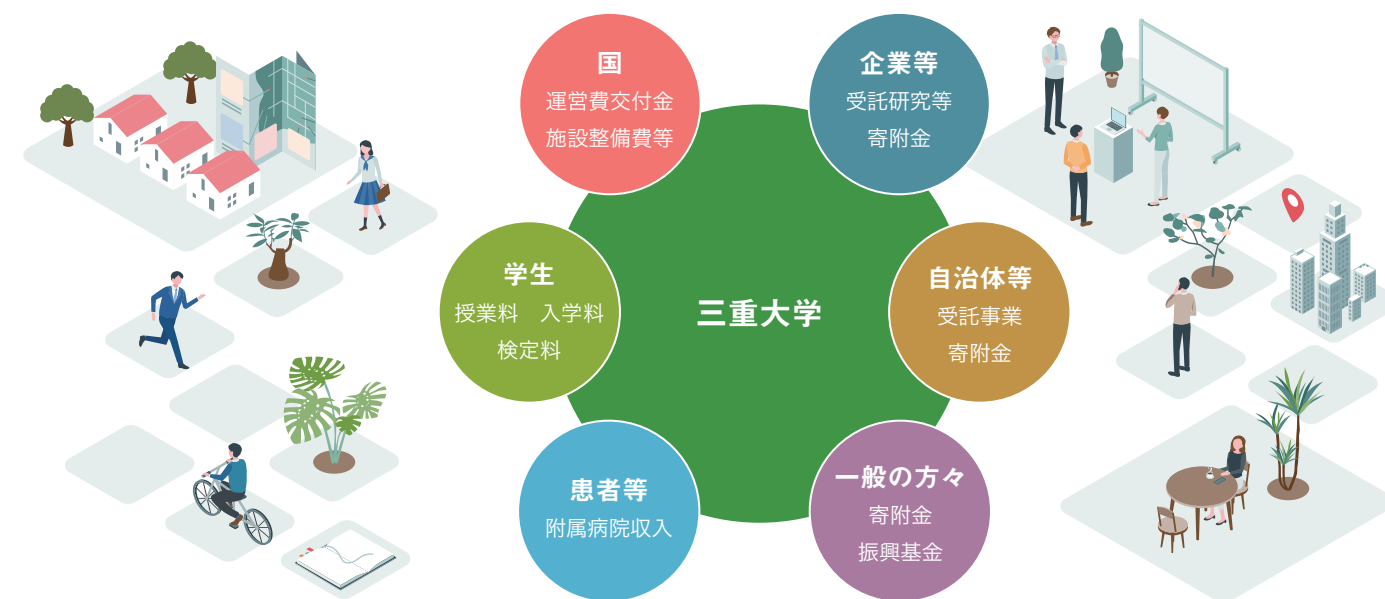
医学部附属病院は、令和6年4月に高度救命救急センターの指定を受け、①大学病院として最先端医療の提供、②安定した地域医療体制の確立、③仲間を育成の3つの理念をもとに、さらなる救急医療の体制強化に努めています。同じく、令和6年4月より、長年にわたる地域救急の逼迫を受け、入院や手術を要する救急患者を受け入れる「二次救急」において津市の輪番体制にすべての曜日でバックアップをしています。今後も市内の病院と連携し地域医療課題の解決に取り組んでまいります。



V 財務情報

国立大学法人会計の財源（収入源）

多様な収入源をもとに大学を運営



運営費交付金、施設整備費等

大学の教育・研究のための建物や設備に使用しています。

● 新正門



受託研究費等、寄附金

様々な研究を推進するため、企業等と共に活動しています。



授業料、入学科、検定料

学生の修学支援のために使用しており、リカレント教育にも力を入れています。



受託事業、寄附金

産学官が連携することで、地域創生活動にも取り組んでいます。



附属病院収入

地域に根差した医療を実現するため、建物や医療機器に使用しています。



寄附金、振興基金

寄附目的に沿って、様々な取組に使用しています。

● 振興基金財源を用いてクラブハウス改修



三重大大学の令和5年度決算概要

国立大学法人は、「国立大学法人会計基準」に基づいて毎年度財務諸表を作成し、財政状態や運営状況などの財務情報を公表しています。

貸借対照表(B/S) (令和6年3月31日)

貸借対照表は、年度末(3月31日)時点の大学の財政状態(資産、負債及び純資産の状況)を表します。

(百万円)			
	R4	R5	増減
資産の部			
固定資産 A	59,095	62,460	3,364
土地	11,807	11,813	5
建物等	33,264	31,888	△1,375
機械備品(船舶含む)	5,657	10,761	5,103
図書	4,005	3,991	△13
美術品・收藏品	22	22	0
車両運搬具	11	7	△4
建設仮勘定	503	326	△177
無形固定資産	101	83	△18
投資その他の資産	3,721	3,565	△155
流動資産 B	16,505	17,560	1,054
現金・預金	8,942	9,510	568
未収入金	6,771	7,042	271
(うち附属病院収入)	(4,961)	(5,733)	(772)
(うち 受託研究 他)	(1,810)	(1,308)	(△501)
その他	792	1,007	215
合計 C(A+B)	75,601	80,020	4,419

(百万円)			
	R4	R5	増減
負債の部			
固定負債 D	20,762	23,983	3,220
長期繰延補助金等	751	660	△90
借入金	18,999	18,636	△362
リース債務	532	4,116	3,584
その他	479	569	89
流動負債 E	13,480	15,070	1,589
運営費交付金債務	20	3	△17
寄附金債務	3,798	4,035	237
前受受託研究費等	1,138	1,651	512
借入金	1,828	1,988	159
未払金	5,382	5,752	370
その他	1,311	1,638	326
負債 F(D+E)	34,243	39,053	4,810
純資産の部			
資本金	17,420	17,420	0
資本剰余金	8,576	8,107	△469
利益剰余金	15,361	15,439	78
(うち目的積立金)	(6,078)	(5,428)	(△650)
純資産 G	41,357	40,966	△391
合計 H(F+G)	75,601	80,020	4,419

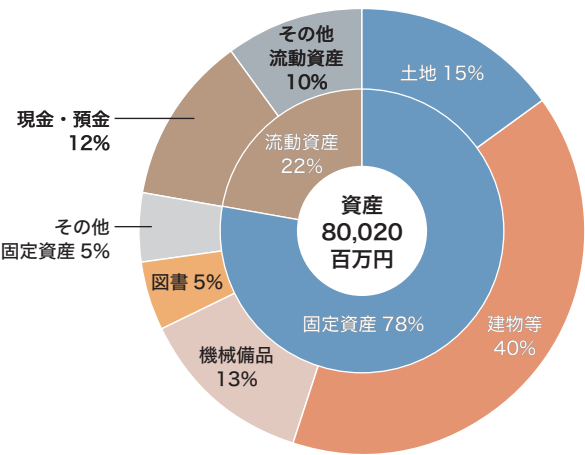
損益計算書(P/L) (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

損益計算書は、一事業年度(4月1日～ 3月31日)における大学の運営状況(費用、収益の発生による損益状況)を表します。

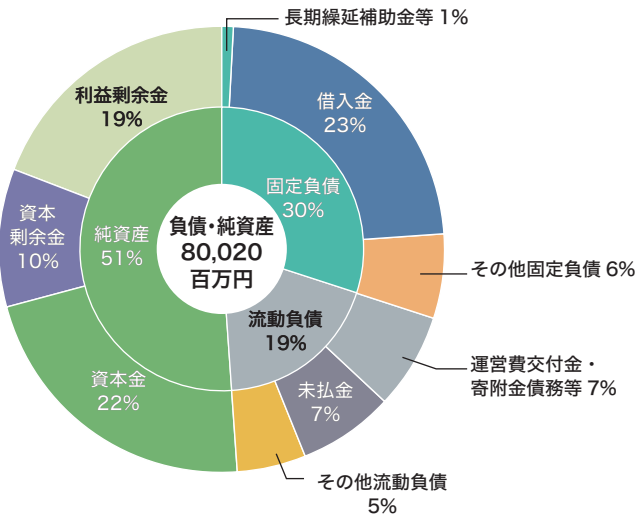
(百万円)			
	R4	R5	増減
経常費用 I	46,679	49,740	3,061
教育経費	1,581	1,762	181
研究経費	1,637	1,631	△5
診療経費	18,847	20,818	1,970
教育研究支援経費	332	415	83
受託研究費等	1,814	1,945	130
人件費	21,307	21,842	535
一般管理費	1,096	1,251	154
財務費用	61	72	11
経常利益 K(J-I)	1,739	638	△1,100
臨時損失 L	22	76	54
当期総利益 O(J+M+N-I-L)	9,282	807	△8,475
合計 P(I+L+O)	55,983	50,623	△5,360

(百万円)			
	R4	R5	増減
経常収益 J	48,418	50,378	1,960
運営費交付金収益	10,982	11,011	29
授業料等収益	4,342	4,339	△2
附属病院収益	27,201	29,702	2,501
受託研究等収益	1,810	2,029	219
寄附金収益	1,160	1,101	△58
補助金等収益	2,174	1,454	△720
施設費収益	126	103	△22
雑益	620	635	14
臨時利益 M	7,455	22	△7,433
積立金取崩額 N	109	222	113
合計 Q(J+M+N)	55,983	50,623	△5,360

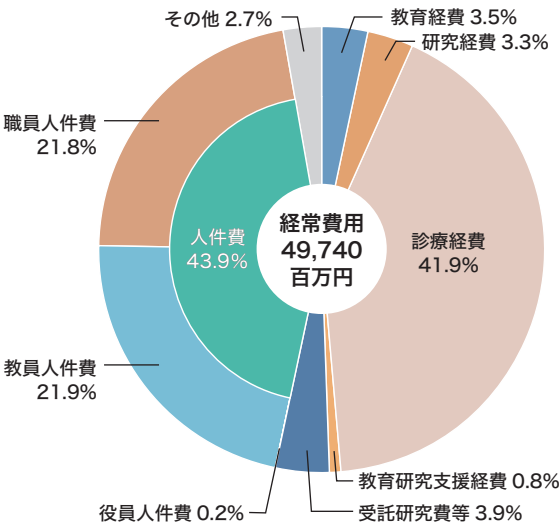
資産の構成内訳



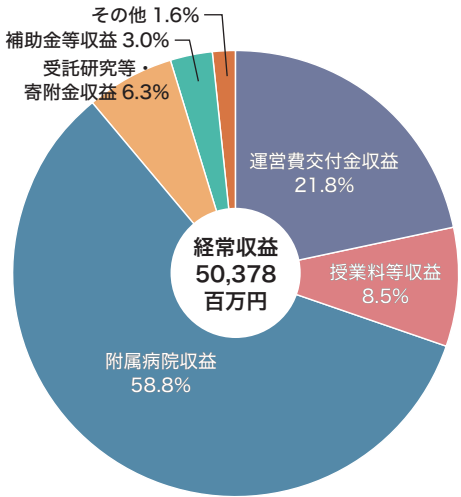
負債・純資産の構成内訳



経常費用の構成内訳

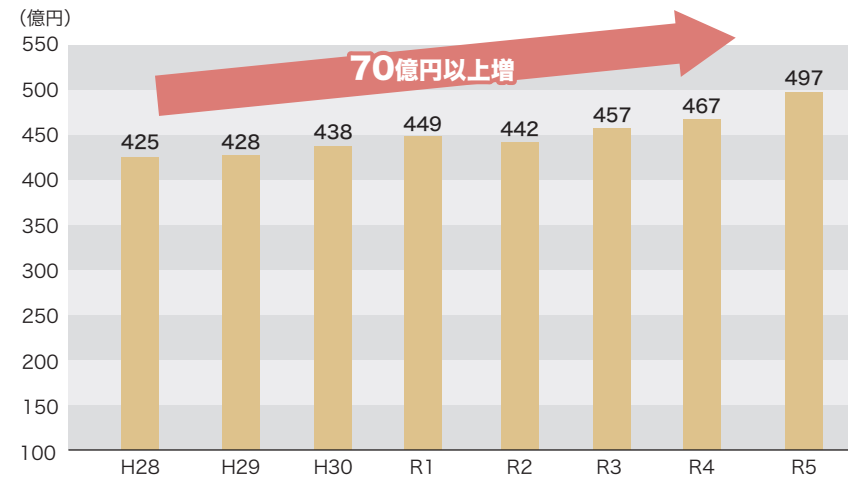


経常収益の構成内訳



経常費用の推移

■ 経常費用の推移

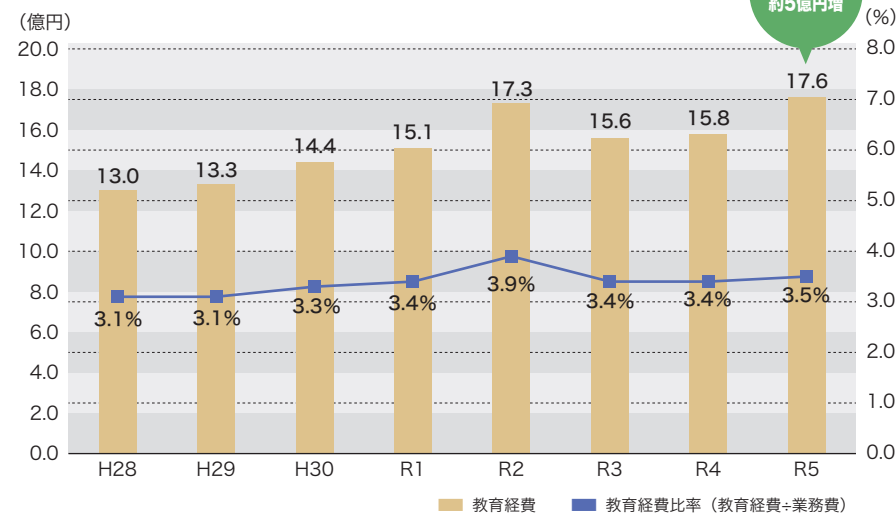


！ ポイント

第3期中期目標期間が開始したH28年度以降、経常費用は70億円以上増加しています。

主な、費用の推移を下のグラフで紹介します。

！ 教育経費比率の推移



！ ポイント

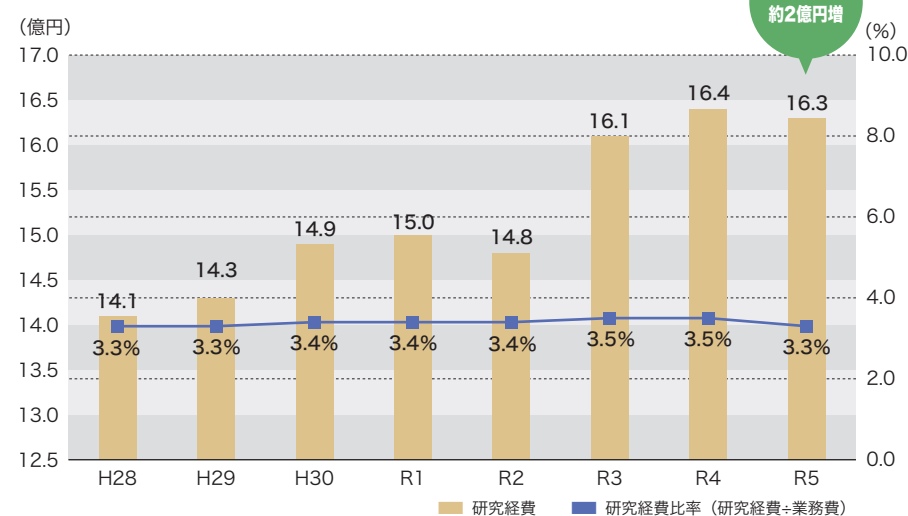
学生の教育にかかる教育経費について、大きな事業があった年度は経費が増えるため、年度により大きな変動があるものの、H28年度から約5億円増加しています。

R5年度は、教育目的の旅費や光熱水料が増加したため、R4年度よりも1.8億円増加しています。

なお、教育経費比率について、数値が高いほど、学生の教育にかかる教育経費が大きいことを示します。

※R4年度の病院を有する同規模大学の平均値：4.1%

！ 研究経費比率の推移



！ ポイント

研究にかかる研究経費について、大きな事業があった年度は経費が増えるため、年度により大きな変動があるものの、H28年度から約2億円増加しています。

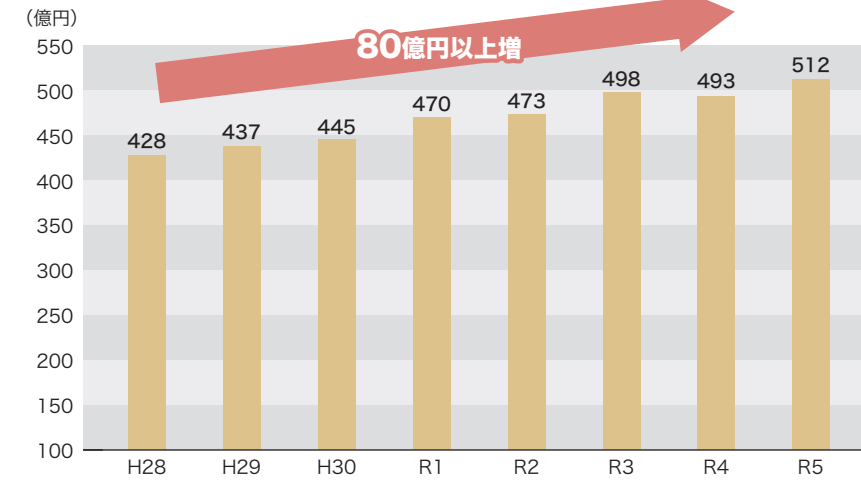
R5年度は、光熱水料が減少したためR4年度よりも0.1億円減少しています。

なお、研究経費比率について、数値が高いほど、教員の研究にかかる研究経費が大きいことを示します。

※R4年度の病院を有する同規模大学の平均値：4.2%

収入の推移

■ 収入の推移 ※借入金除く



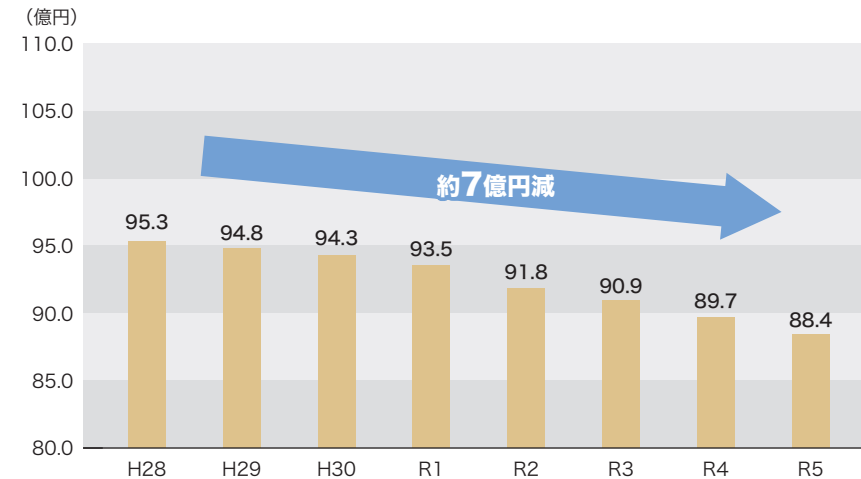
！ ポイント

第3期中期目標期間が開始したH28年度以降、収入は80億円以上増加しています。

施設整備費などの補助金措置等があった年度は、収入が大きくなります。

主な、収入内訳の推移を下のグラフで紹介します。

！ 基盤的運営費交付金の推移



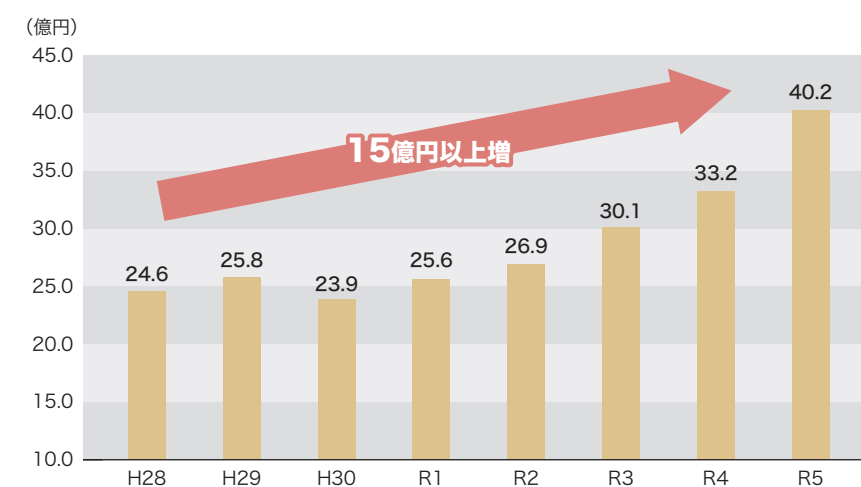
！ ポイント

国から交付される資金である運営費交付金は、法人化以降、年々削減されており、H28年度から約7億円削減されています。

R5年度は、R4年度よりも1.3億円の減少となっています。

そのため、業務費の支出見直しの他、外部資金等の確保による自己収入の増収に努める必要があります。

！ 産学連携等研究収入及び寄附金収入等の推移



！ ポイント

産学連携等研究収入及び寄附金収入等は全体で見ると増加傾向にあり、H28年度から15億円以上増加しています。

R5年度は、R4年度よりも7億円の増加となっています。

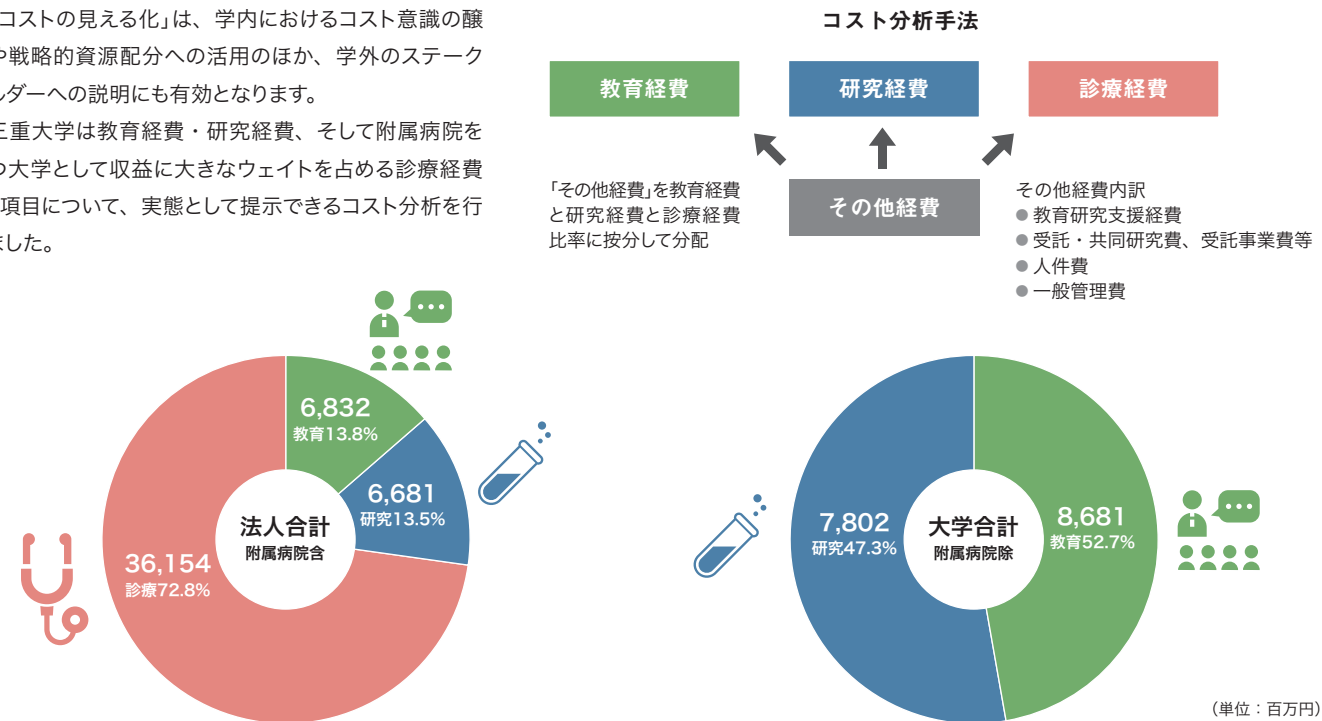
運営費交付金が年々削減されていく中で、自己収入の確保において、外部資金の獲得はとても重要です。

県内企業を積極的に訪問したり、公開セミナーを開催するなど、外部資金の獲得拡大に取り組んでいます。

コストの見える化

「コストの見える化」は、学内におけるコスト意識の醸成や戦略的資源配分への活用のほか、学外のステークホルダーへの説明にも有効となります。

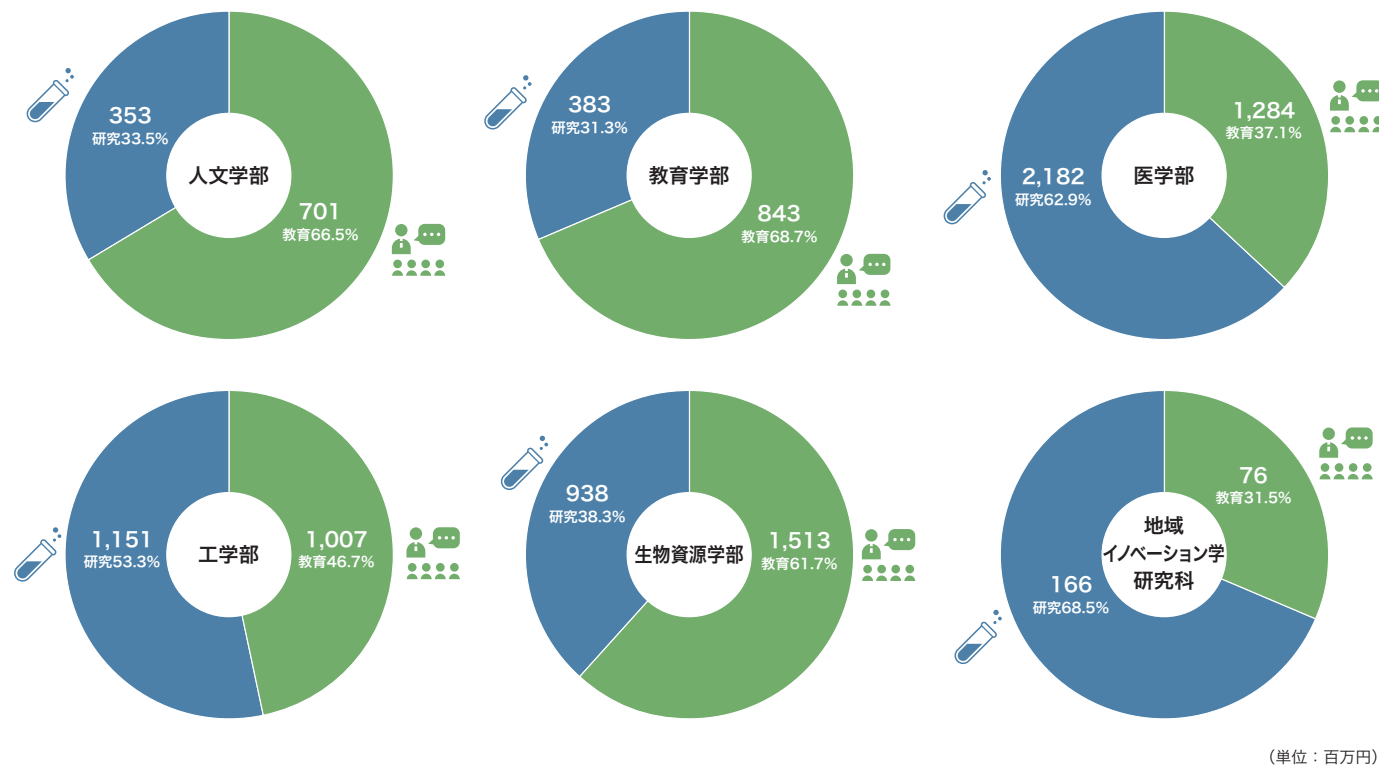
三重大学は教育経費・研究経費、そして附属病院を持つ大学として収益に大きなウェイトを占める診療経費の3項目について、実態として提示できるコスト分析を行いました。



コストの見える化における補足

- ・財務諸表「附属明細書（19）開示すべきセグメント情報」における数値をもとに計算しています。
- ・コスト分析手法に基づき計算しているため、公開している損益計算書等の数値とは異なります。
- ・「大学合計」は、附属病院セグメントを除いた数値で再計算しているため、「法人合計」の教育・研究経費の数値と異なります。

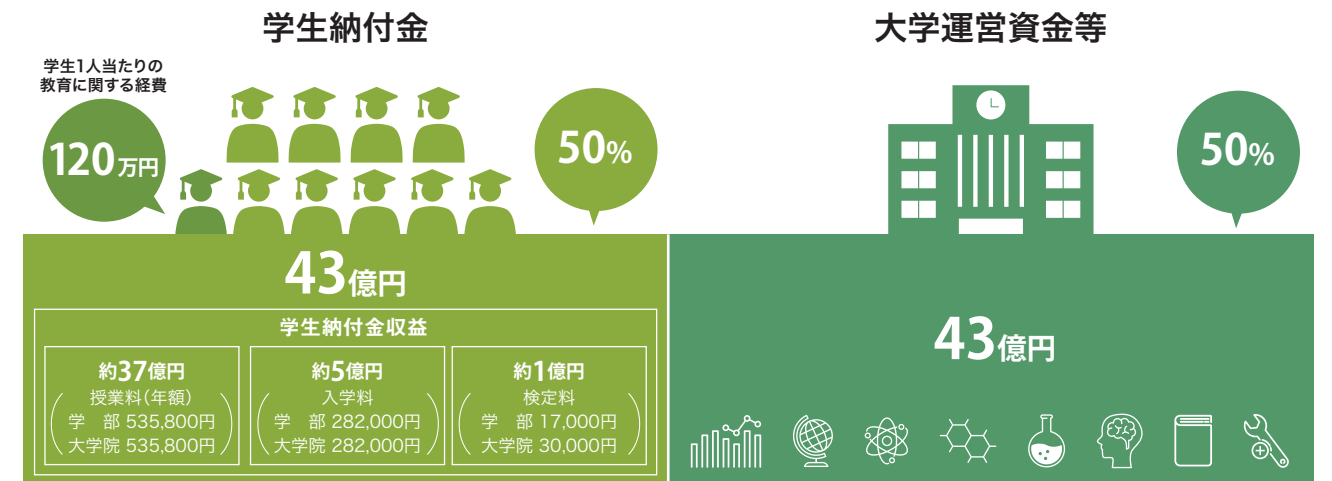
各学部等のコスト



教育に要する経費

令和5年度における学生教育に要する経費は総額約86億円であり、学生1人当たりに換算すると約120万円となります。〈学生数：7,239人(令和5年5月1日現在)〉

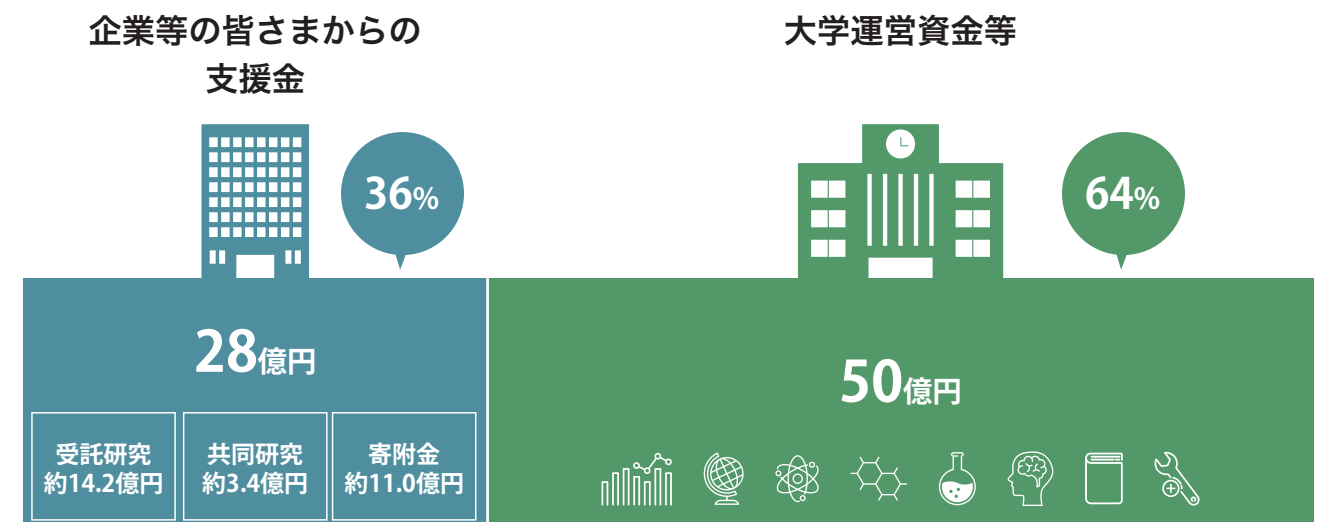
この学生教育に要する経費は、学生の皆さまからお預かりする学生納付金収益約43億円に加え、運営費交付金等の大学運営資金や各種補助金等からの収益により学生への教育を実施しています。



研究に要する経費

令和5年度における研究活動に要する経費は総額約78億円です。

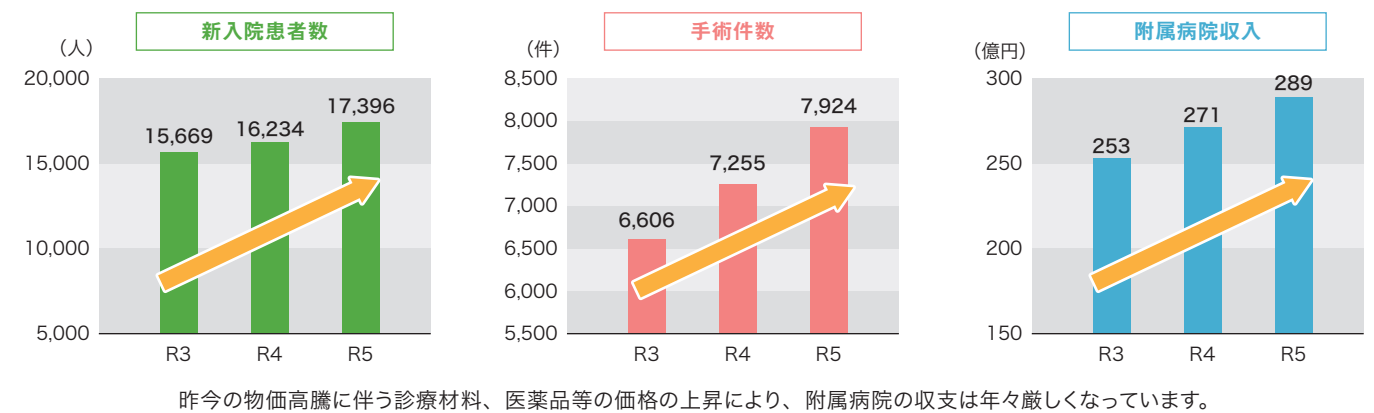
この研究活動に要する経費は、企業等の皆さまからご支援いただいた収益約28億円と、運営費交付金等の大学運営資金や各種補助金等からの収益約50億円でまかっています。



受託研究や寄附金等の受入額は約28億円あり、大学の研究促進に向け受託研究等の増が不可欠です。

診療に要する経費

令和5年度における診療活動に要する経費は総額約361億円です。
この診療活動に要する経費は、患者の皆さまからお支払いただいた附属病院収入約289億円に加え、運営費交付金や補助金等を用いて運営しています。
新入院患者数、手術件数、附属病院収入の増減は下表のとおりであり、年々増加傾向にあります。今後も地域に根差す総合病院としての役割を果たしてまいります。



ネーミングライツ事業

新たな収入源の確保に向け、ネーミングライツ事業にも取り組んでいます。三重大大学の教育研究施設へ企業等の愛称を付与することができます。

愛称：光精工ラーニングcommons

施設名等：環境・情報科学館2階 ラーニングcommons

命名権者：光精工株式会社



愛称：共教Place HIKARI et (ヒカリエ)

施設名等：共通教育校舎190番教室

命名権者：株式会社光機械製作所



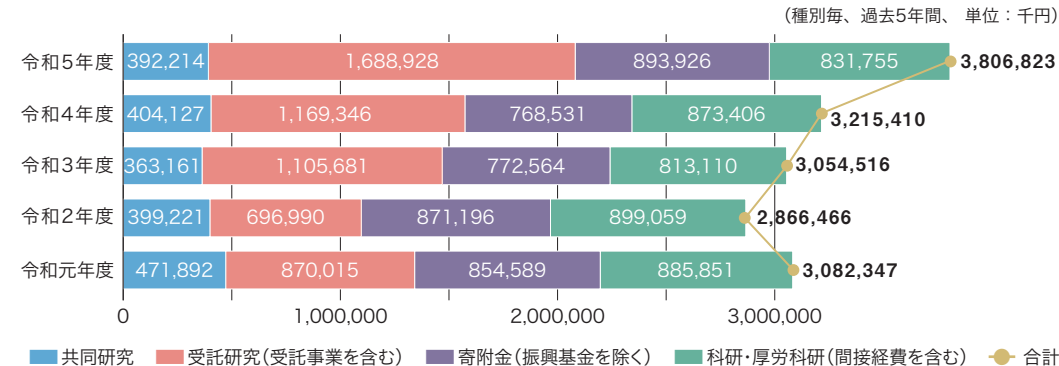
外部資金等の獲得状況

多彩な最先端の研究を充実させ、社会に成果を還元

三重大大学では、多様な独創的

応用研究の充実、萌芽的・国際的研究課題に鋭意に取組、研究成果を積極的に社会に還元することを目指しています。

今後も様々な課題を地域と共に探究し、その成果を還元して地域の発展を導き、地域共創大学として発展してまいります。引き続き、皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。



令和5年度民間企業との共同研究等受入れ件数

区 分	件 数
民間等との共同研究	319
受託研究	178
奨学寄附金	1,080
合 計	1,577

令和5年度科学研究費助成事業採択状況

(単位：千円) (千円未満四捨五入)

種 別	件 数	金 額
新学術領域研究	2	19,500
学術変革領域研究(A)	2	6,900
基盤研究(A)	2	13,500
基盤研究(B)	33	125,500
基盤研究(C)	268	253,950
挑戦的研究(開拓)	1	12,000
挑戦的研究(萌芽)	6	9,600
若手研究(若手研究(B)を含む)	74	67,450
研究活動スタート支援	5	4,300
特別研究員奨励費	2	1,500
奨励研究	6	2,600
国際共同研究強化(A)	3	9,600
国際共同研究強化(B)	3	6,300

直接経費のみ計 (件数) 407件 (金額) 532,700千円

共同研究・受託研究の受入手続き

共同研究

企業等の研究者と大学の教員が、対等の立場で共通の研究課題に取り組み、優れた研究成果を生み出そうとするものです。次の2つのタイプがあります。

1 企業等の研究者(共同研究員)を受け入れて行う研究

2 企業等及び大学において、共通の課題を分担し行う研究

※いずれのタイプにおいても研究経費を大学に収めていただく必要があります。

研究期間	知的財産権の取扱い	税制上の優遇措置
研究期間は概ね5年を上限としますが、それ以上にわたる契約も可能です。	共同研究契約に基づき、共同研究に対する寄与度に応じて決定します。	特別試験研究費税額扣除制度によって、企業等が支出した研究費の一定額が法人税の対象から控除されます。

納入いただく経費

- 直接経費(研究費)
- 研究員料※1:年額44万円(6ヵ月以内の場合は22万円)
- 間接経費※2:直接経費の30%

※1:研究員(企業等に在職のまま大学に派遣される人)を本学に受け入れることにより必要となる経費 ※2:直接経費以外に必要となる、研究支援部門及び共同利用施設の維持・管理経費及び今後の産学官連携活動の発展に向けた戦略的経費

受託研究

大学が企業等から委託を受けて研究を行い、研究成果を報告します。

委託

報告

知的財産権の取扱い	税制上の優遇措置
基本的に大学に帰属しますが、委託者のご要望により大学の知的財産権の一部を委託者に譲与することができます。	特別試験研究費税額扣除制度によって、企業等が支出した研究費の一定額が法人税対象から控除されます。

納入いただく経費

- 直接経費(研究費)
- 間接経費:直接経費の30%

共同研究の詳細はこちら

受託研究の詳細はこちら

共同研究
https://kenkyu.crc.mie-u.ac.jp/joint_research/

受託研究
https://kenkyu.crc.mie-u.ac.jp/contract_research/

VI

資料編

沿革.....	51
学部・大学院（専攻・講座）／教育研究施設等.....	53
各種資料.....	58
職員数.....	58
学生の定員及び現員、教育学部附属学校の定員等.....	59
奨学生数.....	60
令和6年度入学志願者数及び入学状況等.....	61
令和5年度卒業者数・修了者数・学位授与数.....	62
令和5年度就職状況.....	63
令和5年度産業別・地域別・都道府県別就職状況.....	65
外国人留学生数(学部・研究科等別)、 令和5年度国際交流事業一覧（経費助成対象）.....	66
国際交流.....	67
附属図書館.....	69
附属病院.....	70
地域との相互友好協力等に関する協定.....	71
公開講座等.....	72
部局等配置図.....	73
厚生保健施設等、土地・建物.....	77
部局等所在地.....	78
位置図、本学への交通案内.....	79





登録有形文化財 三重大学三翠会館

国立学校設置法(昭和24年法律第150号)の公布により、三重大学設置

- 三重県立大学 (昭25.3)

1989
平成元年

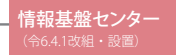
2004
平成16年

2024
令和6年

-

三重大大学 三翠ホール

国立大学法人三重大学へ移行



学部・大学院（専攻・講座）／教育研究施設等

人文学部・大学院人文社会科学研究科

人文・社会科学の教育及び研究を通じて、地域文化の発展に寄与するとともに、人間と社会の在り方を根底から探究し、問題の解決に主体的に取り組む人材を育成します。



人文学部（2学科・6コース）		
	学 科	コ ー ス
学 部	文化	文化資源学、国際言語文化学、社会・文化行動学
	法律経済	法政、経済経営、公共政策
大学院人文社会科学研究科（2専攻）		
	専 攻	
修士課程	地域文化論	
	社会科学	

教育学部・大学院教育学研究科

多様な分野からなる総合的な学部としての特長を生かし、人文・社会・自然科学を基礎とした発達や教育に関する深い専門性と職業人として十分な資質を備えた人材を育成します。



教育学部（1課程・13コース）		
	課 程	コ ー ス
学 部	学校教育教員養成	国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術・ものづくり教育、家政教育、英語教育、特別支援教育、幼児教育、学校教育
大学院教育学研究科（1専攻・2コース）		
	専 攻	コ ー ス
専門職学位課程	教職実践高度化	・学校経営力開発 ・教育実践力開発

附属教育研究施設	
名 称	設置目的及び研究部門等
教育学部附属 教職支援センター	教員養成教育及び教師教育についての支援業務及び調査・研究の成果に基づく指導（教員養成支援部門、学校連携支援部門、研修開発支援部門、総合支援室）を行います。

大学院医学系研究科・医学部

確固たる使命感と倫理観をもつ医療人を育成し、豊かな創造力と研究能力を養い、人類の健康と福祉の向上につとめ、地域及び国際社会に貢献します。



大学院医学系研究科（博士課程：1専攻・2講座、産学官連携講座、寄附講座） （修士課程：1専攻・2講座、産学官連携講座、寄附講座） （博士前期課程：1専攻・3領域） （博士後期課程：1専攻・1領域）			
	専 攻	講 座	教育研究分野
博士課程・修士課程	生命医科学 （博士課程）	基礎医学系	組織学・細胞生物学、発生再生医学、生化学、幹細胞発生学、分子生理学、修復再生病理学、腫瘍病理学、統合薬理学、分子病態学、感染症制御医学・分子遺伝学、免疫学、医動物・感染医学、環境分子医学、公衆衛生・産業医学・実地疫学、法医法科学、医学医療教育学、免疫制御学、動物機能ゲノミクス、遺伝子病態制御学、細胞生物学・再生医療学
		臨床医学系	循環器・腎臓内科学、血液・腫瘍内科学、消化器内科学、呼吸器内科学、代謝内分泌内科学、神経病態内科学、リウマチ膠原病内科学、家庭医療学、精神神経科学、小児科学、皮膚科学、放射線医学、肝胆膵・移植外科学、消化管・小児外科学、胸部心臓血管外科学、乳腺外科学、産科婦人科学、脳神経外科学、運動器外科学・腫瘍集学治療学、泌尿器外科学、眼科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、口腔・顎顔面外科学、形成外科学、麻酔科学、救急集中治療医学、リハビリテーション医学、臨床薬理学、臨床検査医学、ゲノム医療学、総合診療医学、病態解析内科学、新生児学、成育医学、健康増進・予防医療学、臨床がんゲノム学、感染制御・感染症危機管理学
	医科学 （修士課程）	（産学官連携講座）臨床創薬研究学	臨床創薬学
		（産学官連携講座）システムズ薬理学	システムズ薬理学
		（産学官連携講座）個別化がん免疫治療学	個別化がん免疫治療学
		（寄附講座）認知症医療学	認知症医療学
		（寄附講座）先進医療外科学	先端的外科技術開発学
		（寄附講座）スポーツ整形外科学	スポーツ整形外科学
		（寄附講座）先進画像診断学	先進画像診断学
		（寄附講座）先進がん治療学	先進がん治療学
		（寄附講座）先進血液腫瘍学	先進血液腫瘍学
		（寄附講座）地域支援神経放射線診断学	
		（寄附講座）脊椎先端治療学	
		（寄附講座）公衆衛生・感染症危機管理学	公衆衛生・感染症危機管理学
		（次世代のがんプロフェッショナル養成プラン）	放射線腫瘍学
	専 攻	領 域	教育研究分野
博士前期課程	看護学	基盤看護学	看護教育学、看護管理学、実践基礎看護学
		実践看護学	がん看護学、成人看護学、母性看護・助産学、小児看護学、老年看護学
		広域看護学	精神看護学、在宅看護学、地域看護学
博士後期課程	看護学	看護学	看護教育学、実践基礎看護学、成熟期看護学、母子看護学、精神・ストレス健康科学、地域看護学
医学部（2学科）			
	学 科		
学	医学		
部	看護学		

学部・大学院（専攻・講座）／教育研究施設等

大学院工学研究科・工学部

工学の専門分野を教授することを通じて、知的理解力・倫理的判断力・応用的活用力を備えた人材を育成するとともに、科学技術の研究を通じて、自然の中での人類の共生、福祉の増進、及び社会の発展に貢献することを目指します。



大学院工学研究科（前期課程：5専攻・16講座、後期課程：2専攻・5講座）			
	専 攻		講 座
博士 前期課程	機械工学	ロボティクス・メカトロニクス、機能創成プロセス、機械物理学、環境エネルギー	
	電気電子工学	電気システム工学、情報通信・フォトンクス、量子・光ナノエレクトロニクス	
	応用化学	物理化学、無機分析化学、有機化学、生命化学	
	建築学	建築学	
	情報工学	コンピュータサイエンス、情報ネットワーク工学、知能システム工学、人間情報学	
博士 後期課程	材料科学、システム工学	材料物性、材料化学、電気情報システム、設計システム、循環システム設計	
工学部（1学科・5コース・16講座）			
	学 科	コース	講 座
学 部	総合工学	機械工学	ロボティクス・メカトロニクス、機能創成プロセス、機械物理学、環境エネルギー
		電気電子工学	電気システム工学、情報通信・フォトンクス、量子・光ナノエレクトロニクス
		応用化学	物理化学、無機分析化学、有機化学、生命化学
		建築学	建築学
		情報工学	コンピュータサイエンス、情報ネットワーク工学、知能システム工学、人間情報学

大学院生物資源学研究科・生物資源学部

自然と人類の共存を図り、生物資源の適切な開発と利用を追求する学問を確立し、その基礎的、応用的な科学技術を教授・研究することによって、独創性と専門性を兼ね備えた人材養成を目指します。



大学院生物資源学研究科（前期課程：3専攻・9講座、後期課程：3専攻・6講座）			
	専 攻		講 座
博士 前期課程	資源循環学		農業生物学、森林資源環境学、国際・地域資源学
	共生環境学		地球環境学、環境情報システム工学、農業土木学
	生物圏生命科学		生命機能化学、海洋生命分子化学、海洋生物学
博士 後期課程	資源循環学		資源循環システム科学、国際資源循環科学
	共生環境学		気象・地球システム学、環境・生産科学
	生物圏生命科学		応用生命化学、海洋生物科学
生物資源学部（1学科・4コース・6専修 令和6年度入学者より）			
	学 科	コ ー ス	専 修
学 部	生物資源	生物資源総合科学	2 年次以降は生物資源総合科学コース以外の 3 コースへ配属されます
		農林環境科学	農学、森林科学、農業工学
		海洋生物資源学	海洋生物資源学
		生命化学	生命機能化学、海洋生命化学

附属教育研究施設	
名 称	設置目的及び研究部門等
生物資源学研究科 附属紀伊・黒潮生命地域 フィールドサイエンスセンター	紀伊半島全域と黒潮流域に広がる山から海までの生態系を対象に、人間と自然との共存を目指す総合科学の実習教育・研究施設
附帯施設農場	農地生産、果樹園芸、施設栽培、農産加工、機械・圃場管理、畜産管理、教育学部技術教育コースからなる農学及び地域環境の実習教育・研究施設
附帯施設演習林	森林資源学並びに森林・地域環境保全の実習教育・研究施設
附帯施設水産実験所	海洋DXの展開、漁業生産に関するIT・AIの導入、漁業環境に関するビッグデータの活用、水産科学、海洋生物学並びに海洋環境保全の実習教育・研究施設
生物資源学研究科 附属練習船勢水丸 (教育関係共同利用拠点)	水産学・海洋生物学・海洋環境学に関する実習並びに研究調査

大学院地域イノベーション学研究科

現代の産業社会、特に三重地域圏などの地方産業界で生じている社会ニーズと大学院における教育のかい離を打破し、地方の衰退を食い止められる人材を養成するために「地域イノベーション学研究科」を設置し、「プロジェクト・マネジメントができる研究開発系人材」及び「地域にゼロから1を創造できるソーシャル・アントレプレナー人材」を育成し、地域社会に輩出します。



大学院地域イノベーション学研究科（前期課程：1専攻・3ユニット、後期課程：1専攻・1ユニット）		
	専攻	ユニット
博士 前期課程	地域イノベーション学	工学イノベーション、バイオイノベーション、社会イノベーション
博士 後期課程	地域イノベーション学	地域新創造

教育推進・学生支援機構

各部局等と連携・協働し、三重大学が掲げる教育目標の達成に向けた教育諸活動の創造、開発等を推進するとともに、学生の修学、就職、生活環境等への総合的な支援体制を構築・整備し、教育及び学生支援に係る質的向上を図り、質を保証するために必要な取組を行うことを目的としています。
・全学共通教育センター ・アドミッションセンター ・リカレント教育センター ・地域創造教育センター
・学生支援・キャリアセンター ・教育企画部門 ・大学院部門 ・資格プログラム部門

研究・社会連携統括本部

三重大学の経営戦略の下、大学全体の研究・社会連携活動を統括する組織として、組織的な研究・社会連携マネジメントを行い、研究力の強化及び産学官連携の推進を目的としています。
・研究推進部門 ・産学官連携部門 ・知財ガバナンス部門 ・研究インテグリティ部門 ・URA室

みえの未来図共創機構

地域社会とともに発展を目指す地域共創大学として、地域で展開する実践力豊かな人材の育成や研究成果の価値向上を図るとともに、社会の発展に資する諸活動を支援することを目的としています。
・地域共創展開センター ・地域圏防災・減災研究センター ・感染症みらい社会教育研究センター ・博学連携推進室

研究基盤推進機構

社会とともに発展することを目指して、多様的に展開する研究活動を支援及び推進することを目的としています。
・先端科学研究支援センター ・半導体・デジタル未来創造センター ・鯨類研究センター ・国際忍者研究センター
・神事・産業・医療用大麻研究センター ・戦略的リサーチコア

地域拠点サテライト

三重県全域を三重大学の教育研究活動の「場（フィールド）」とし、「特色ある各地域の資源」・「学生たちの若い力」・「大学の教育研究力」をもって、地域と大学が一体となって地域に秘められた可能性を発掘することで、地域・大学相互の発展を目指します。自治体・教育機関等との連携及び協力をもとに、5つの地域サテライト(北勢サテライト、松阪多気サテライト、伊勢志摩サテライト、伊賀サテライト、東紀州サテライト)を設置し、教員や学生がフィールドワーク等の実践的な教育研究活動を行っています。

附属図書館

研究支援機能、学習支援機能、地域貢献機能を3本柱とする附属図書館は、隣接する環境・情報科学館とともに、知を獲得・創出し、共有する場となります。

学内共同教育研究施設

●国際交流センター

国際交流事業及び国際教育を通じて国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、三重大学及び地域の国際化に寄与することを目的として設置され、海外大学との学術交流協定の締結、学生の海外留学、語学研修、留学生への日本語教育、就職支援、日本人学生への国際教育、部局の国際活動の支援等を行っています。

●情報基盤センター

教育システム、各種サーバーから、インターネットに接続されたキャンパスネットワークまでの多種多様な機器を管理運用することで教育、研究の支援を行います。またネットワークセキュリティの基礎を提供します。

●地球環境センター

三重大学「環境・SDGs方針」の実現を目指し、環境に関する教育・研究活動を推進し、グローバルな課題解決に貢献します。研究部門では、地域環境の問題から地球規模の課題まで包括的な研究開発を推進します。教育・人材育成部門では、環境とSDGsに関する知識と行動力を備えた持続可能な社会のリーダーのための環境教育を実施します。また、キャンパス部門では、カーボンニュートラルに資するキャンパスゼロカーボンの実現や環境マネジメントシステムの運用に取り組みます。

保健管理センター

学生及び教職員の健康の保持増進を図るための専門的業務を行い、医師・保健師・看護師及び心理カウンセラー（公認心理師）が“こころ”と“からだ”両面の相談に応じています。また、応急処置、定期及び臨時の健康診断、健康診断証明書発行などの業務を行っています。

各種資料

その他の組織・施設

ダイバーシティ・インクルージョン推進室

令和4年12月に「三重大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」を行い、併せて同推進計画及びアクションプランを策定・公表しました。これらにより、差別のない教育、研究、就労の環境を整備し、良好なワーク・ライフ・バランスを実現し、大学の意思決定において多様な構成員の意見が反映できる体制が整いました。本推進室は、学内外の機関とも連携・協力し、各種事業の実施でダイバーシティ&インクルージョン推進に貢献します。

安全・防災・危機管理室

災害などの危機事象（コンプライアンスやハラスメント関連を除く）を対象に、各部局担当者の支援の下、発生予防対策や初動対応のための情報収集・整理、対策本部活動への引き継ぎやサポートなど、学内体制の統制・維持・充実及び教育・啓発活動等の推進を図ることを目的としています。

環境・情報科学館（Mie Environmental & Informational Platform : MEIPL）

附属図書館と一体化したアカデミックコモンズ*の一角であり、「世界に誇れる環境先進大学」を目指す本学が行う、低炭素社会の構築・形成過程を発信する中心施設です。1階は環境教育や研究・地域コミュニティとの交流スペース、2階は全面がラーニングコモンズ、3階は、廊下側の壁がないオープン・スクール形式の教室（PBL 演習室）として機能しています。
※アカデミックコモンズ…ヒトやモノを含むさまざまな情報資源と交流・協働することによって、知を生み出したり、その知を共有したりする場。

数理・データサイエンス館（CeMDS）

必携ノートパソコンなどのICT（情報通信技術）機器の利活用・教育学習支援による数理・データサイエンス（DS）人材育成を行い、データサイエンス教育・人材育成による地域社会の情報技術発展への貢献を目的とします。

戦略的リサーチコア

卓越型領域

卓越型リサーチセンター

令和6年6月1日現在

番号	センターの名称	代表者名		
1	エネルギー材料統合研究センター	工学研究科	教 授	今西 誠之
2	半導体の結晶科学とデバイス創製センター	工学研究科	教 授	三宅 秀人

重点型領域

重点リサーチセンター・重点ユニット

令和6年6月1日現在

番号	センターの名称	代表者名		
1	包摂的社会に向けたレジリエントな地域社会基盤の構築に関する研究センター	人文学部	教 授	深井 英喜
2	みえ地域課題解決カリキュラムリサーチセンター	教育学部	教 授	宮岡 邦任
3	マイクロバイオーム研究センター	医学系研究科	教 授	小林 哲
4	次世代型VLPワクチン研究開発センター	医学系研究科	教 授	野阪 哲哉
5	記憶分子光解析センター	医学系研究科	教 授	竹本 研
6	次世代型プレジジョンメディシン開発センター	医学系研究科	教 授	中川 勇人
7	人間共生ロボティクス・メカトロニクスリサーチセンター	工学研究科	教 授	池浦 良淳
8	Beyond-5G/6G無線通信応用技術研究センター	工学研究科	教 授	村田 博司
9	水素エネルギー・環境研究ユニット	工学研究科	教 授	金子 聡
10	地域脱炭素バイオマス研究センター	生物資源学研究科	教 授	野中 寛
11	次世代漁業生産リサーチセンター	生物資源学研究科	教 授	松田 浩一
12	ゲノム操作・解析技術開発ユニット	生物資源学研究科	教 授	竹林慎一郎

基盤型領域

リサーチセンター

令和6年6月1日現在

番号	センターの名称	代表者名		
1	メディカルゼブラフィッシュ研究センター	医学系研究科	教 授	井上 貴博
2	腫瘍循環器学リサーチセンター	医学系研究科	教 授	今中 恭子
3	バイオエンジニアリング国際教育研究センター	医学系研究科	教 授	島岡 要
4	ゼブラフィッシュリサーチセンター	医学系研究科	講 師	島田 康人
5	線毛疾患研究センター	医学系研究科	教 授	西村 有平
6	マトリックスバイオロジー研究センター	医学系研究科	准教授	長谷川正裕
7	炎症性皮膚疾患リサーチセンター	医学系研究科	教 授	山中 恵一
8	副腎疾患リサーチセンター	附属病院	教 授	岡本 隆二
9	先天性心疾患・川崎病センター	附属病院	准教授	三谷 義英
10	ソフトマターの化学リサーチセンター	工学研究科	教 授	鳥飼 直也
11	環境エネルギー工学研究センター	工学研究科	教 授	辻本 公一
12	海藻バイオリファイナリー研究センター	生物資源学研究科	准教授	柴田 敏行

令和6年5月1日現在

部局等	区 分	学長	理事	監事	大学教員				小計	附属学校教員	その他職員	小計	合計
					教授	准教授	講師	助教					
学長・理事・監事		1	6(2)	2(1)					9(3)			0(0)	9(3)
事務局等									0(0)		177(72)	177(72)	177(72)
教育推進・学生支援機構					4	5(2)	4(1)	2	15(3)		2	2(0)	17(3)
研究・社会連携統括本部					1	1		3(1)	5(1)		2(1)	2(1)	7(2)
みえの未来図共創機構					2	1			3(0)			0(0)	3(0)
研究基盤推進機構					3	3		7	13(0)		4(2)	4(2)	17(2)
地域拠点サテライト									0(0)		0(0)	0(0)	0(0)
附属図書館						1(1)			1(1)			0(0)	1(1)
国際交流センター						1(1)	1(1)	1	3(2)			0(0)	3(2)
情報基盤センター						1		2	3(0)		3(1)	3(1)	6(1)
地球環境センター								1	1(0)			0(0)	1(0)
保健管理センター					1		1(1)		2(1)		3(3)	3(3)	5(4)
人文学部					32(7)	23(7)	4(2)	2(1)	61(17)		9(5)	9(5)	70(22)
大学院教育学研究科					4(2)	3(1)			7(3)			0(0)	7(3)
教育学部					42(7)	20(7)	2(1)	1(1)	65(16)		10(4)	10(4)	75(20)
附属幼稚園									0(0)	7(6)		7(6)	7(6)
附属小学校									0(0)	26(9)	6(5)	32(14)	32(14)
附属中学校									0(0)	27(8)		27(8)	27(8)
附属特別支援学校									0(0)	29(13)		29(13)	29(13)
大学院医学系研究科					41(9)	33(7)	12(2)	39(15)	125(33)		4(2)	4(2)	129(35)
医学部					1(1)		1(1)	10(3)	12(5)			0(0)	12(5)
附属病院					10(1)	21(1)	45(7)	147(39)	223(48)		986(774)	986(774)	1,209(822)
大学院工学研究科					39	39(2)	4(1)	14(2)	96(5)		26(7)	26(7)	122(12)
大学院生物資源学研究科					41(3)	34(6)		16(2)	91(11)		10(4)	10(4)	101(15)
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター									0(0)		19(6)	19(6)	19(6)
附帯施設農場					2	1			3(0)			0(0)	3(0)
附帯施設演習林						1			1(0)			0(0)	1(0)
附帯施設水産実験所					1	1			2(0)			0(0)	2(0)
附属練習船勢水丸						1		1	2(0)		13(1)	13(1)	15(1)
大学院地域イノベーション学研究科					7(1)	2(1)			9(2)		4(1)	4(1)	13(3)
総 計		1(0)	6(2)	2(1)	231(31)	192(36)	74(17)	246(64)	752(151)	89(36)	1,278(888)	1,367(924)	2,119(1,075)

※理事のうち2名は非常勤職員

※監事のうち1名は非常勤職員

※休職者及び育児休業者を含まない。

※附属学校教員には特別教員を含む。

※（ ）内は女性数を内数で示す。

寄附講座・産学官連携講座・寄附研究部門

部局等/講座・部門	区 分	設置数	大学教員				合計
			教授	准教授	講師	助教	
大学院医学系研究科	寄附講座	9講座	3(1)	3(1)	2(0)	5(2)	13(4)
	産学官連携講座	3講座	2(0)			1(1)	3(1)
医学部	寄附講座	9講座	6(0)			6(0)	12(0)
附属病院	寄附研究部門	5部門	1(0)		1(0)	4(1)	6(1)
合 計			12(1)	3(1)	3(0)	16(4)	34(6)

※（ ）内は女性数を内数で示す。

学生定員及び現員

※（ ）内は、外国人留学生数を内数で示す。

学部・研究科		区 分		1 年次				2 年次				3 年次			
				定員	男	女	計	定員	男	女	計	定員	男	女	計
人文学部	文化学科			92	20(1)	78	98(1)	92	29	69(1)	98(1)	102	40(1)	61	101(1)
	法律経済学科			153	75	81	156	153	78(1)	75	153(1)	173	87	82	169
	計			245	95(1)	159	254(1)	245	107(1)	144(1)	251(2)	275	127(1)	143	270(1)
教育学部	学校教育教員養成課程			200	76	130	206	200	87	118	205	200	68	131	199
	計			200	76	130	206	200	87	118	205	200	68	131	199
医学部	医学科			125	92	36	128	125	84	40	124	125	74	50	124
	看護学科			80	2	78	80	80	8	73	81	90	1	79	80
	計			205	94	114	208	205	92	113	205	215	75	129	204
工学部	機械工学科														
	電気電子工学科														
	分子素材工学科														
	建築学科														
	情報工学科														
	物理工学科														
	総合工学科			400	352(3)	59	411(3)	400	346(1)	64(1)	410(2)	430	376(6)	54(1)	430(7)
	計			400	352(3)	59	411(3)	400	346(1)	64(1)	410(2)	430	376(6)	54(1)	430(7)
生物資源学部	資源循環学科							70	36(1)	39	75(1)	73	39	36	75
	共生環境学科							70	43	27	70	73	47	25	72
	生物圏生命化学科							80	40	43	83	82	30	52	82
	海洋生物資源学科							40	27	16	43	42	29	12	41
	生物資源学科			260	147	127	274								
	計			260	147	127	274	260	146(1)	125	271(1)	270	145	125	270
合 計				1,310	764(4)	589	1,353(4)	1,310	778(3)	564(2)	1,342(5)	1,390	791(7)	582(1)	1,373(8)

大学院	人文社会科学研究科		15	6(2)	4(3)	10(5)	15	13(7)	6(1)	19(8)					
	教育学研究科		25	18	4	22	25	11	9	20					
	医学系研究科	修士課程(医科)	12	1	5	6	12	4	2	6					
		博士前期課程(看護)	11	3	3	6	11	3	10	13					
		博士後期課程(看護)	3		2	2	3	1	1	2	3		12(1)	12(1)	
		博士課程(生命医科)	45	26(3)	9(2)	35(5)	45	27(2)	11(2)	38(4)	45	37(2)	8(1)	45(3)	
	工学研究科	博士前期課程	216	192(2)	36(1)	228(3)	216	218(2)	32(3)	250(5)					
		博士後期課程	16	11(4)	2(2)	13(6)	16	10(4)	4(4)	14(8)	16	17(7)	5(5)	22(12)	
	生物資源学研究科	博士前期課程	88	68(2)	40(3)	108(5)	88	71(8)	46(4)	117(12)					
		博士後期課程	12	5(4)	9(2)	14(6)	12	9(4)	6(4)	15(8)	12	14(8)	3	17(8)	
	地域イノベーション学研究科	博士前期課程	15	5	10(2)	15(2)	15	15	6(2)	21(2)					
		博士後期課程	6	2		2	6	2	5(1)	7(1)	6	19(2)	4(1)	23(3)	
	計		464	337(17)	124(15)	461(32)	464	384(27)	138(21)	522(48)	82	87(19)	32(8)	119(27)	

教育学部附属学校の定員等

令和6年5月1日現在

種 別		区 分	総定員	学級数	在 籍 者 数						
					1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
附属幼稚園			90	4	(3 歳児) 20	(4 歳児) 22	(5 歳児) 23	—	—	—	65
附属小学校			630	18	72	91	101	99	96	97	556
附属中学校			432	12	144	142	142	—	—	—	428
附属特別 支援学校	小学部		18	3	3	3	3	3	3	3	18
	中学部		18	3	6	3	5	—	—	—	14
	高等部		24	3	8	5	7	—	—	—	20
計			1,212	43	253	266	281	102	99	100	1,101

4 年次				5 年次				6 年次				合 計			
定員	男	女	計	定員	男	女	計	定員	男	女	計	定員	男	女	計
102	41(3)	74(2)	115(5)									388	130(5)	32%	282(3)
173	109(1)	95	204(1)									652	349(2)	51%	333
275	150(4)	169(2)	319(6)									1,040	479(7)	44%	615(3)
200	81	137	218									800	312	38%	516
200	81	137	218									800	312	38%	516
125	77	55	132	125	83	42	125	125	77	46	123	750	487	64%	269
90	2	76	78									340	13	4%	306
215	79	131	210	125	83	42	125	125	77	46	123	1,090	500	47%	575
	2		2										2	100%	
	4		4										4	100%	
	2		2										2	100%	
	2(1)		2(1)										2(1)	100%	
	3		3										3	100%	
	3(1)		3(1)										3(1)	100%	
430	458(7)	63(1)	521(8)									1,660	1,532(17)	86%	240(3)
430	474(9)	63(1)	537(10)									1,660	1,548(19)	87%	240(3)
73	51	37	88									216	126(1)	53%	112
73	65	21	86									216	155	68%	73
82	39	54(1)	93(1)									244	109	42%	149(1)
42	30	15	45									124	86	67%	43
												260	147	54%	127
270	185	127(1)	312(1)									1,060	623(1)	55%	504(1)
1,390	969(13)	627(4)	1,596(17)	125	83	42	125	125	77	46	123	5,650	3,462(27)	59%	2,450(7)

												30	19(9)	66%	10(4)
												50	29	69%	13
												24	5	42%	7
												22	6	32%	13
												9	1	6%	15(1)
45	40(1)	22(3)	62(4)									180	130(8)	72%	50(8)
												432	410(4)	86%	68(4)
												48	38(15)	78%	11(11)
												176	139(10)	62%	86(7)
												36	28(16)	61%	18(6)
												30	20	56%	16(4)
												18	23(2)	72%	9(2)
45	40(1)	22(3)	62(4)									1,055	848(64)	73%	316(47)

奨学生数

令和6年3月現在

学部・研究科			区 分	在学生数	日本学生支援機構				地方公共団体 民間育英団体	合 計	在学生に対する 百分率
					給 付	第一種(無利子)	第二種(有利子)	計			
学 部	人文学部		1,101	107	144	112	363	3	366	33.2%	
	教育学部		823	77	120	81	278	13	291	35.4%	
	医学部		1,084	71	94	106	271	330	601	55.4%	
	工学部		1,759	150	224	177	551	16	567	32.2%	
	生物資源学部		1,117	96	144	110	350	10	360	32.2%	
大 学 院	人文社会科学研究科		30		1	0	1	0	1	3.3%	
	教育学研究科	修士	2		0	0	0	0	0	0.0%	
		専門	40		5	1	6	1	7	17.5%	
	医学系研究科	修士	14		0	0	0	0	0	0.0%	
		前期	25		1	0	1	1	2	8.0%	
		後期	19		1	1	2	1	3	15.8%	
		博士	203		1	1	2	0	2	1.0%	
	工学研究科	前期	493		159	7	166	3	169	34.3%	
		後期	49		4	0	4	0	4	8.2%	
	生物資源学研究科	前期	219		61	5	66	7	73	33.3%	
		後期	45		0	1	1	0	1	2.2%	
	地域イノベーション学研究科	前期	42		7	0	7	0	7	16.7%	
		後期	36		2	0	2	0	2	5.6%	
計			7,101	501	968	602	2,071	385	2,456	34.6%	

※在学生数については、令和5年5月1日現在の数値 ※合計は延べ数

令和6年度入学志願者数及び入学者数

令和6年4月1日現在

学部・研究科		区分	定員	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
学部	人文学部		245	(15) 562	(9) 751	(24) 1,313	(11) 373	(7) 442	(18) 815	(1) 109	(2) 173	(3) 282	(1) 95	(0) 159	(1) 254
	教育学部		200	344	460	804	269	346	615	79	132	211	76	130	206
	医学部		205	633	706	1,339	310	350	660	91	120	211	91	114	205
	工学部		400	(17) 1,392	(0) 295	(17) 1,687	(15) 1,050	(0) 218	(15) 1,268	(6) 384	(0) 66	(6) 450	(4) 352	(0) 59	(4) 411
	生物資源学部		260	(0) 425	(0) 416	(0) 841	(0) 304	(0) 285	(0) 589	(0) 160	(0) 140	(0) 300	(0) 148	(0) 127	(0) 275
	合 計		1,310	(32) 3,356	(9) 2,628	(41) 5,984	(26) 2,306	(7) 1,641	(33) 3,947	(7) 823	(2) 631	(9) 1,454	(5) 762	(0) 589	(5) 1,351
大学院	人文社会科学研究科		15	(4) 8	(6) 12	(10) 20	(4) 8	(6) 11	(10) 19	(2) 6	(3) 5	(5) 11	(2) 6	(3) 4	(5) 10
	教育学研究科		25	19	5	24	19	5	24	19	5	24	18	4	22
	医学系研究科	修士	12	(1) 3	(0) 4	(1) 7	(1) 3	(0) 4	(1) 7	(1) 2	(0) 4	(1) 6	(0) 1	(0) 4	(0) 5
		前期 (看護)	11	(0) 3	(0) 5	(0) 8	(0) 3	(0) 5	(0) 8	(0) 3	(0) 3	(0) 6	(0) 3	(0) 3	(0) 6
		後期 (看護)	3	(0) 0	(0) 2	(0) 2	(0) 0	(0) 2	(0) 2	(0) 0	(0) 2	(0) 2	(0) 0	(0) 2	(0) 2
		博士	45	(0) 18	(1) 6	(1) 24	(0) 18	(1) 6	(1) 24	(0) 18	(1) 6	(1) 24	(0) 18	(1) 6	(1) 24
	工学研究科	前期	216	(5) 220	(1) 40	(6) 260	(5) 215	(1) 40	(6) 255	(2) 201	(1) 39	(3) 240	(2) 192	(1) 36	(3) 228
		後期	16	(0) 6	(1) 1	(1) 7	(0) 6	(1) 1	(1) 7	(0) 6	(1) 1	(1) 7	(0) 6	(1) 1	(1) 7
	生物資源学研究科	前期	88	(1) 79	(3) 43	(4) 122	(1) 78	(3) 41	(4) 119	(1) 70	(3) 41	(4) 111	(1) 66	(3) 39	(4) 105
		後期	12	(0) 2	(0) 6	(0) 8	(0) 2	(0) 6	(0) 8	(0) 2	(0) 6	(0) 8	(0) 2	(0) 6	(0) 8
	地域イノベーション学 研究科	前期	15	(0) 8	(1) 11	(1) 19	(0) 8	(1) 10	(1) 18	(0) 5	(0) 8	(0) 13	(0) 5	(0) 8	(0) 13
		後期	6	(0) 4	(0) 0	(0) 4	(0) 4	(0) 0	(0) 4	(0) 3	(0) 0	(0) 3	(0) 2	(0) 0	(0) 2
	合 計		464	(11) 370	(13) 135	(24) 505	(11) 364	(13) 131	(24) 495	(6) 335	(9) 120	(15) 455	(5) 319	(9) 113	(14) 432

※（ ）内は、私費外国人留学生特別選抜の人数を内数で示す。

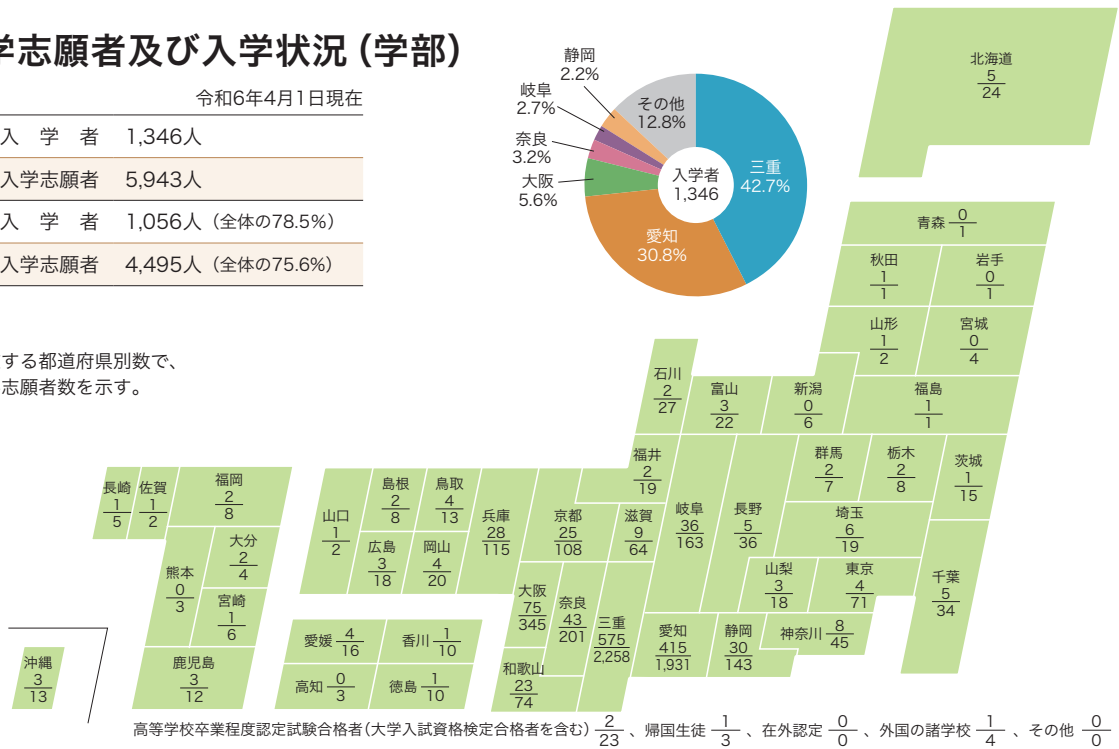
都道府県別入学志願者及び入学状況 (学部)

令和6年4月1日現在

全 体	入 学 者	1,346人
	入学志願者	5,943人
東海4県計 (三重、愛知、岐阜、静岡)	入 学 者	1,056人 (全体の78.5%)
	入学志願者	4,495人 (全体の75.6%)

※外国人留学生を除く。

図は、出身高等学校等が所在する都道府県別数で、
上段は入学者数、下段は入学志願者数を示す。



高等学校卒業程度認定試験合格者(大学入試資格検定合格者を含む) $\frac{2}{23}$ 、帰国生徒 $\frac{1}{3}$ 、在外認定 $\frac{0}{0}$ 、外国の諸学校 $\frac{1}{4}$ 、その他 $\frac{0}{0}$

令和5年度卒業者数・修了者数・学位授与数

学部

※（ ）内は、女子学生数を内数で示す。

学 部	学 科	卒業者数	
		令和5年度	累 計
人 文 学 部	文化学科	(66) 102	(5,846) 10,894
	法律経済学科	(71) 170	
	小 計	(137) 272	
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	(128) 194	(11,118) 20,070
	小 計	(128) 194	
医 学 部	医学科	(36) 133	(3,005) 7,031
	看護学科	(73) 78	
	小 計	(109) 211	
工 学 部	総合工学科	(61) 377	(1,661) 17,672
	機械工学科	(0) 3	
	電気電子工学科	(0) 5	
	分子素材工学科	(1) 3	
	建築学科	(0) 1	
	情報工学科	(0) 2	
	物理工学科	(0) 2	
	小 計	(62) 393	
	資源循環学科	(32) 67	(3,518) 8,905
	共生環境学科	(26) 72	
生物資源学部	生物圏生命化学科	(46) 81	
	海洋生物資源学科	(10) 39	
	小 計	(114) 259	
(旧農学部)		—	(222) 6,978
(旧水産学部)		—	(56) 944
①合 計		(550) 1,329	(25,426) 72,494

専攻科・別科

※（ ）内は、女子学生数を内数で示す。

専攻科・別科		修了者数	
		累 計	
専 攻 科	特別支援教育特別専攻科	(53) 74	(197) 352
	(旧)特殊教育特別専攻科	(197) 352	
	(旧)教育専攻科	(19) 78	
別 科	農業別科	(18) 609	
③合 計		(287) 1,113	
総計①+②+③		(28,694) 88,627	

医療技術短期大学部

※（ ）内は、女子学生数を内数で示す。

学 科	卒業者数	
	累 計	
看護学科	(704) 715	

大学院

※（ ）内は、女子学生数を内数で示す。

研究科	課 程	修了者数	
		令和5年度	累 計
人文社会科学研究科	修 士	(4) 9	(246) 473
教育学研究科	修 士	(1) 2	(523) 1,130
	専門職学位	(7) 20	(33) 97
医学系研究科	修 士	(2) 8	(271) 435
	博士前期	(9) 10	(48) 54
	博 士	(16) 43	(262) 1,486
	博士後期	(3) 4	(9) 10
工学研究科	博士前期	(21) 229	(520) 5,734
	博士後期	(1) 10	(46) 372
生物資源学研究科	博士前期	(32) 90	(824) 2,866
	博士後期	(2) 8	(94) 357
地域イノベーション学研究科	博士前期	(6) 21	(46) 163
	博士後期	(1) 6	(9) 42
工学研究科	修 士	—	(31) 1,164
生物資源学研究科	修 士	—	(6) 152
(旧)農学研究科	修 士	—	(12) 378
(旧)水産学研究科	修 士	—	(1) 107
②合 計		(105) 460	(2,981) 15,020

学位授与数

※（ ）内は、女子学生数を内数で示す。

修 士			博 士			
専攻分野	令和5年度	累 計	専攻分野		令和5年度	累 計
人 文 科 学	(3) 6	(142) 243	医 学	課程修了	(16) 43	(262) 1,486
社 会 科 学	(1) 3	(104) 230		論文提出	(1) 8	(114) 943
教 育 学	(1) 2	(523) 1,130	看護学	課程修了	(3) 4	(9) 10
教 職 修 士 (専門職)	(7) 20	(33) 97	工 学	課程修了	(1) 10	(46) 372
医 科 学	(2) 8	(118) 272		論文提出	(0) 1	(2) 40
看 護 学	(9) 10	(201) 217	学 術	課程修了	(3) 14	(103) 399
工 学	(21) 229	(551) 6,898		論文提出	(2) 3	(22) 118
生物資源学	(32) 90	(830) 3,018	合 計		(26) 83	(558) 3,368
学 術	(6) 21	(46) 163				
(旧)農 学	—	(12) 378				
(旧)水産学	—	(1) 107				
合 計	(82) 389	(2,561) 12,753				

※修士(工学)の累計学位授与者数は工学研究科(前期)の修了者数累計と工学研究科(修士)の累計修了者数 1,164 名(31)を足す。

※修士(生物資源学)の累計学位授与者数は生物資源学研究科(前期)の修了者数累計と生物資源学研究科(修士)の累計修了者数 152 名(6)を足す。

※修士(看護学)の累計学位授与者数は医学系研究科(前期)の修了者数累計と医学系研究科・修士(看護学)の累計修了者数 163 名(153)を足す。

令和5年度就職状況

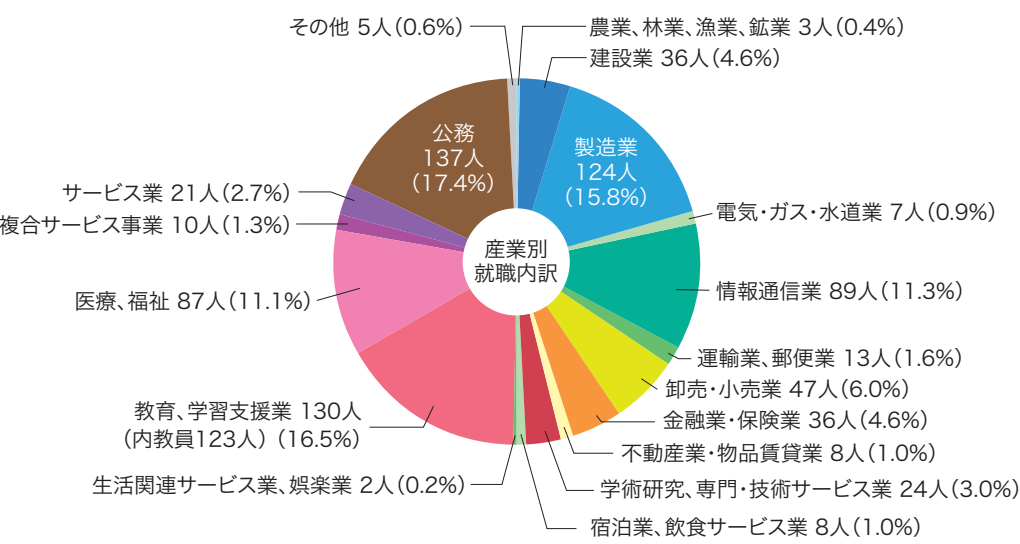
令和6年5月1日現在
※()内は、女子学生数を内数で示す。※博士課程、博士後期課程の修了者については、単位取得満期退学者を含む。

区 分 学部・研究科		卒業・ 修了者	卒業・修了者の内訳													
			進学者	臨床 研修医	その他	就職者	農業、林業、 漁業、鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・ 水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売・小売業	金融業・保険業		
学部	人文学部	文化学科	102 (66)	4 (3)		7 (4)	91 (59)		1 (1)	9 (8)	1 (1)	18 (10)	3 (3)	14 (9)	9 (5)	
		法律経済学科	170 (71)	10 (5)		12 (3)	148 (63)		3 (2)	23 (10)	2 (1)	19 (5)	5 (1)	9 (3)	19 (7)	
		計	272 (137)	14 (8)		19 (7)	239 (122)		4 (3)	32 (18)	3 (2)	37 (15)	8 (4)	23 (12)	28 (12)	
	教育学部	学校教育教員養成課程	194 (128)	11 (1)		8 (5)	175 (122)		1 (1)	3 (2)		10 (4)	1 (1)	4 (2)	4 (4)	
		計	194 (128)	11 (1)		8 (5)	175 (122)		1 (1)	3 (2)		10 (4)	1 (1)	4 (2)	4 (4)	
	医学部	医学科	133 (36)		127 (35)	6 (1)										
		看護学科	78 (73)			1	77 (73)									
		計	211 (109)		127 (35)	7 (1)	77 (73)									
	工学部	機械工学科	3				3			1				1		
		電気電子工学科	5	1			4			3		1				
		分子素材工学科	3 (1)				3 (1)			2						
		建築学科	1				1				1					
		情報工学科	2				2									
		物理工学科	2			1	1					1				
		総合工学科	機械工学コース	91 (9)	63 (5)		1	27 (4)			14 (1)		5 (1)		1	
			電気電子工学コース	94 (4)	54 (3)		2	38 (1)		4 (1)	17	1	8		1	
			応用化学コース	91 (32)	70 (26)		1	20 (6)			10 (5)		2			
			建築学コース	48 (12)	25 (5)		1	22 (7)		19 (5)		1 (1)				
			情報工学コース	53 (4)	25			28 (4)			6 (2)		16 (2)			1
	計	393 (62)	238 (39)		6	149 (23)		23 (6)	53 (8)	3 (1)	33 (3)		3	1		
	生物資源学部	資源循環学科	67 (32)	20 (5)		3 (2)	44 (25)	3 (3)	2	10 (8)		3 (1)	2 (1)	7 (3)	1 (1)	
		共生環境学科	72 (26)	22 (5)		3	47 (21)		5 (4)	8 (4)	1	4 (2)	2 (1)	2 (2)		
		生物圏生命化学科	81 (46)	39 (23)		2	40 (23)			15 (11)		2		5 (3)	2 (1)	
		海洋生物資源学科	39 (10)	23 (3)			16 (7)		1	3 (2)				3 (3)		
		計	259 (114)	104 (36)		8 (2)	147 (76)	3 (3)	8 (4)	36 (25)	1	9 (3)	4 (2)	17 (11)	3 (2)	
	合 計		1,329 (550)	367 (84)	127 (35)	48 (15)	787 (416)	3 (3)	36 (14)	124 (53)	7 (3)	89 (25)	13 (7)	47 (25)	36 (18)	
	大学院	人文社会科学研究科	地域文化論専攻(修士課程)	6 (3)	2			3 (2)					1			
社会科学専攻(修士課程)			3 (1)			1	1 (1)									
計			9 (4)	2		1	4 (3)					1				
教育学研究科		教育学専攻(修士課程)	2 (1)			2 (1)										
		教職実践高度化専攻(専門職学位課程)	20 (7)	1		1 (1)	18 (6)									
		計	22 (8)	1		3 (2)	18 (6)									
医学系研究科		医科学専攻(修士課程)	8 (2)	1			7 (2)			1						
		看護学専攻(博士課程前期)	10 (9)	1 (1)			9 (8)									
		看護学専攻(博士課程後期)	4 (3)				4 (3)									
		生命医科学専攻(博士課程)	56 (17)				56 (17)									
		計	78 (31)	2 (1)			76 (30)			1						
工学研究科		機械工学専攻	53	1			52			46	3	1				
		電気電子工学専攻	52 (1)				52 (1)			35 (1)	1	13		1		
		分子素材工学専攻	68 (15)	3		2 (1)	63 (14)			56 (13)	1	2 (1)		1		
		建築学専攻	15 (3)			2 (1)	13 (2)		6 (2)	1	1					
		情報工学専攻	25				25			10		12	1	1		
		物理工学専攻	16 (2)			1	15 (2)			8	1	4 (1)				
		計(博士前期)	229 (21)	4		5 (2)	220 (19)		6 (2)	156 (14)	7	32 (2)	1	3		
		材料科学専攻	4 (1)				4 (1)			1						
		システム工学専攻	9			1	8			1						
		計(博士後期)	13 (1)			1	12 (1)			2						
生物資源学研究科		資源循環学専攻	19 (7)	2 (1)		1 (1)	16 (5)			6		2 (1)		2 (1)		
		共生環境学専攻	22 (4)	3 (1)		1 (1)	18 (2)		1	7	2	3 (2)	1	1		
		生物圏生命科学専攻	49 (21)	2 (1)		1 (1)	46 (19)	2		26 (11)	1	3 (1)				
		計(博士前期)	90 (32)	7 (3)		3 (3)	80 (26)	2	1	39 (11)	3	8 (4)	1	3 (1)		
		資源循環学専攻	4 (3)			3 (3)	1									
		共生環境学専攻	3 (1)				3 (1)			2						
	生物圏生命科学専攻	6 (1)			1 (1)	5										
	計(博士後期)	13 (5)			4 (4)	9 (1)			2							
地域イノベーション学研究科	地域イノベーション学専攻(博士前期)	21 (6)	1		2 (1)	18 (5)			12 (4)		1		2 (1)			
	計	21 (6)	1		2 (1)	18 (5)			12 (4)		1		2 (1)			
	地域イノベーション学専攻(博士後期)	6 (2)			1 (1)	5 (1)		1	1							
	計	6 (2)			1 (1)	5 (1)		1	1							
合 計		481 (110)	17 (4)		20 (13)	442 (92)	2	8 (2)	213 (29)	10	42 (6)	2	8 (2)			

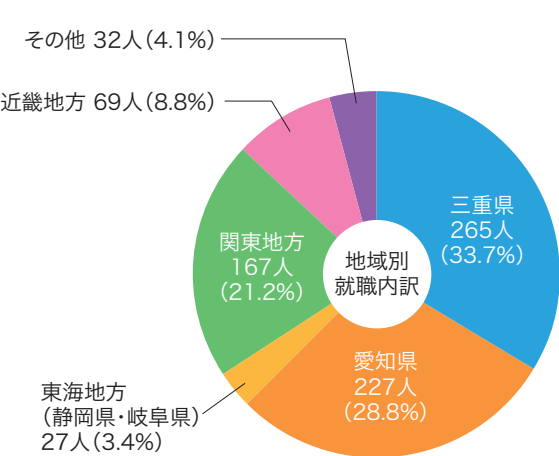
※就職者には雇用形態「1年以上かつ週30時間未満(短時間勤務)」、「1 ヶ月以上1年未満」の者も含む。

											就職先地域						
不動産業・ 物品賃貸業	学術研究専門・ 技術サービス業	宿泊業、 飲食サービス業	生活関連サービス業、 娯楽業	教育、学習支援業		医療、福祉	複合サービス事業	サービス業	公務	その他	三重県	愛知県	東海地方 (静岡・岐阜)	関東地方	近畿地方	その他	
					(内、教員数)												
4 (2)	1	2 (2)	2 (1)	4	4	4 (4)	1 (1)	2 (2)	16 (10)		16 (10)	35 (23)	4 (3)	23 (12)	8 (6)	5 (5)	
2 (2)	9 (7)	1					6 (2)	4 (2)	46 (21)		39 (16)	51 (18)	3 (1)	39 (20)	11 (5)	5 (3)	
6 (4)	10 (7)	3 (2)	2 (1)	4	4	4 (4)	7 (3)	6 (4)	62 (31)		55 (26)	86 (41)	7 (4)	62 (32)	19 (11)	10 (8)	
2 (1)	4 (4)	1		117 (80)	113 (77)	9 (9)		1	17 (13)	1 (1)	107 (82)	38 (20)	5 (3)	14 (9)	7 (4)	4 (4)	
2 (1)	4 (4)	1		117 (80)	113 (77)	9 (9)		1	17 (13)	1 (1)	107 (82)	38 (20)	5 (3)	14 (9)	7 (4)	4 (4)	
						73 (69)			4 (4)		46 (44)	21 (20)		1 (1)	7 (7)	2 (1)	
						73 (69)			4 (4)		46 (44)	21 (20)		1 (1)	7 (7)	2 (1)	
									1			2				1	
												2		2			
	1 (1)											2 (1)			1		
													1				
								1	1		1			1			
														1			
				1	1		1 (1)		2 (1)	3	8 (2)	5 (1)	1	8 (1)	2	3	
	2			1	1			4			7	17 (1)	2	5	5	2	
	1					1		2 (1)	4		9 (4)	4 (1)		6 (1)	1		
									2 (1)		1 (1)	4 (2)	2 (2)	9 (1)	6 (1)		
								3	1	1	3 (1)	11	1	10 (3)	1	2	
	4 (1)			2	2	1	1 (1)	10 (1)	11 (2)	4	29 (8)	47 (6)	7 (2)	42 (6)	16 (1)	8	
				1	1			2 (2)	13 (6)		9 (3)	8 (4)	2 (1)	15 (11)	6 (2)	4 (4)	
	3 (1)						1	2 (1)	19 (6)		6 (3)	15 (5)	2 (1)	13 (7)	9 (5)	2	
		2 (1)		4	2		1		9 (7)		12 (8)	8 (7)	2	12 (5)	5 (3)	1	
	3 (1)	2 (1)		2	1				2		1	4 (2)	2 (1)	8 (3)		1 (1)	
	6 (2)	4 (2)		7	4		2	4 (3)	43 (19)		28 (14)	35 (18)	8 (3)	48 (26)	20 (10)	8 (5)	
8 (5)	24 (14)	8 (4)	2 (1)	130 (80)	123 (77)	87 (82)	10 (4)	21 (8)	137 (69)	5 (1)	265 (174)	227 (105)	27 (12)	167 (74)	69 (33)	32 (18)	
	1 (1)								1 (1)		1 (1)	2 (1)		1 (1)			
	1 (1)										2 (1)						
	2 (2)								1 (1)		3 (2)	2 (1)		1 (1)			
				17 (6)	17 (6)			1			16 (5)				1 (1)	1	
				17 (6)	17 (6)			1			16 (5)				1 (1)	1	
						5 (2)		1			3 (1)	2 (1)		1		1	
				1 (1)	1 (1)	7 (6)			1 (1)		8 (7)					1 (1)	
				2 (1)	2 (1)	2 (2)					1 (1)	2 (2)			1		
	1			5 (2)	5 (2)	50 (15)					48 (14)			2 (1)		6 (2)	
	1			8 (4)	8 (4)	64 (25)		1	1 (1)		60 (23)	4 (3)		3 (1)	1	8 (3)	
	2										3	23	1	17	7	1	
						1		1			3	22 (1)		21	5	1	
	1							2			6 (2)	31 (5)	1	18 (5)	6 (2)	1	
	5										3	2		6 (2)	2		
								1				10	1	11	2	1	
	1							1 (1)				7 (2)	1	6	1		
	9					1		5 (1)			15 (2)	95 (8)	4	79 (7)	23 (2)	4	
	2 (1)									1	1			2 (1)		1	
				5	3			1		1	3	1		1		3	
	2 (1)			5	3			1		2	4	1		3 (1)		4	
				2 (1)	2 (1)		1 (1)		3 (1)		2 (1)	3 (2)	1	4 (1)	4 (1)	2	
	3											9	1	4 (2)	2	2	
	6 (4)			1 (1)	1 (1)			5	2 (2)		13 (4)	6 (5)	1	14 (4)	3 (2)	9 (4)	
	9 (4)			3 (2)	3 (2)		1 (1)	5	5 (3)		15 (5)	18 (7)	3	22 (7)	9 (3)	13 (4)	
				1	1						1						
				1 (1)							1 (1)			1	1		
			1	3	2			1			2			1	1	1	
			1	5 (1)	3			1			4 (1)			2	2	1	
								1	2		5 (2)	5		6 (1)	1 (1)	1 (1)	
								1	2		5 (2)	5		6 (1)	1 (1)	1 (1)	
				1	1				1 (1)	1	1	2 (1)		1		1	
				1	1				1 (1)	1	1	2 (1)		1		1	
	23 (7)		1	39 (13)	35 (12)	65 (25)	1 (1)	15 (1)	10 (6)	3	123 (40)	127 (20)	7	117 (18)	37 (7)	33 (8)	

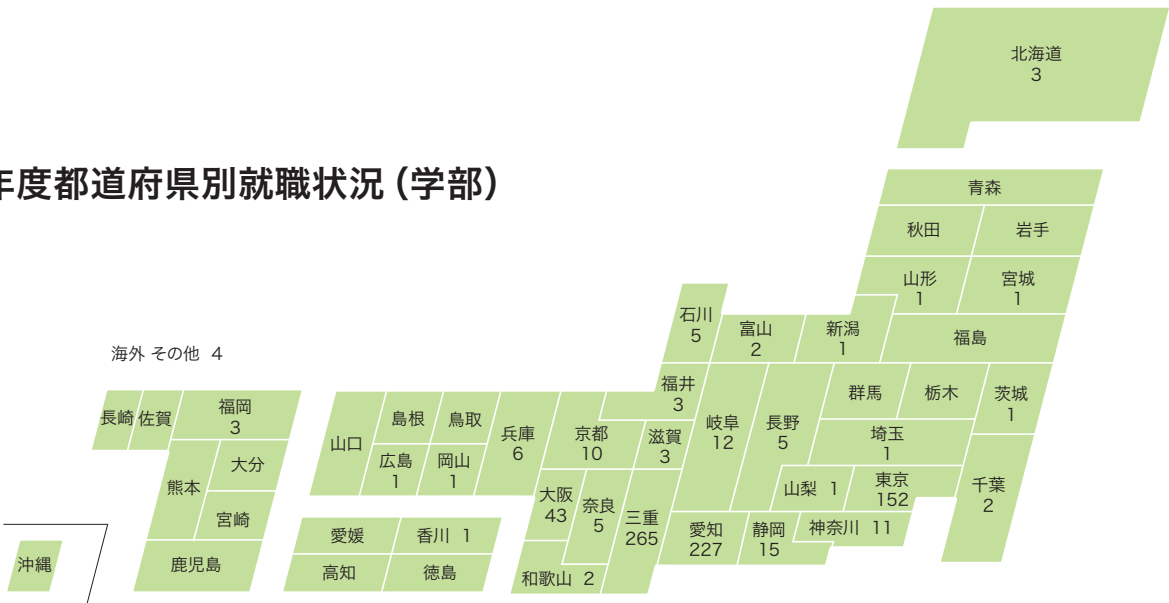
令和5年度産業別就職状況（学部）



令和5年度地域別就職状況（学部）



令和5年度都道府県別就職状況（学部）



外国人留学生数（学部・研究科等別）

学部・研究科等別内訳 ※（ ）内は、女子学生数を内数で示す。 令和6年5月1日現在

学部・研究科等	学 部		修 士		博 士		計
	正規生	非正規生	正規生	非正規生	正規生	非正規生	
人文学部・人文社会科学系研究科	10 (3)	38 (24)	13 (4)	8 (7)			69 (38)
教育学部・教育学研究科	0 (0)	5 (3)	0 (0)	0 (0)			5 (3)
医学部・医学系研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (9)	4 (3)	21 (12)
工学部・工学研究科	22 (3)	10 (4)	8 (4)	2 (1)	26 (11)	0 (0)	68 (23)
生物資源学部・生物資源学研究科	2 (1)	3 (2)	17 (7)	6 (3)	22 (6)	1 (1)	51 (20)
地域イノベーション学研究科			4 (4)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	8 (6)
国際交流センター		19 (15)		0 (0)		0 (0)	19 (15)
計	34 (7)	75 (48)	42 (19)	16 (11)	69 (28)	5 (4)	241 (117)

国別内訳 ※（ ）内は、女子学生数を内数で示す。 令和6年5月1日現在

地域・国名		学 部		大学院		国際交流センター	計
		正規生	非正規生	正規生	非正規生	非正規生	
アジア	中 国	9 (3)	28 (14)	50 (22)	12 (10)	5 (5)	104 (54)
	韓 国	13 (4)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	21 (11)
	インドネシア			15 (4)		1 (0)	16 (4)
	ベトナム	8 (0)		2 (1)		6 (6)	16 (7)
	マレーシア	2 (0)	5 (3)	6 (5)			13 (8)
	台湾		5 (2)		1 (1)	2 (1)	8 (4)
	バングラデシュ			5 (2)	2 (1)		7 (3)
	タイ			4 (3)	1 (1)	1 (1)	6 (5)
	フィリピン			5 (3)			5 (3)
	カンボジア	2 (0)		1 (1)			3 (1)
	ミャンマー			1 (1)			1 (1)
	スリランカ		1 (1)				1 (1)
アフリカ	ガーナ			5 (1)			5 (1)
	ザンビア			4 (1)			4 (1)
	アルジェリア			2 (0)			2 (0)
	エジプト			2 (1)			2 (1)
	モロッコ		1 (0)				1 (0)
	ベナン共和国			1 (0)			1 (0)
	コンゴ				1 (0)		1 (0)
	ケニア			1 (1)			1 (1)
	モザンビーク			1 (0)			1 (0)
	タンザニア			1 (0)			1 (0)
ヨーロッパ	ドイツ		8 (7)			1 (0)	9 (7)
	フランス		3 (2)		1 (0)		4 (2)
	ブルガリア			1 (0)			1 (0)
	クロアチア					1 (1)	1 (1)
	スペイン				1 (0)		1 (0)
	スウェーデン		1 (0)				1 (0)
	イギリス				1 (1)		1 (1)
	シリア			1 (0)			1 (0)
中東	メキシコ			1 (0)			1 (0)
中南米	オセアニア			1 (0)			1 (0)
合 計		34 (7)	56 (33)	111 (47)	21 (15)	19 (15)	241 (117)
			90 (40)		132 (62)	19 (15)	

国・地域数	32	正規生	145 (54)	非正規生	96 (63)
-------	----	-----	----------	------	---------

令和5年度国際交流事業一覧（経費助成対象）

学部・研究科等	事業名	対象国・地域	申請代表者
全学共通教育センター	国際理解実践（シェフィールド大学国際理解研修）	英国	サコラスキー ジェシー
人文学部	タイフィールドスタディー 国際NGOの活動を通してみるタイの現状と日本 ―	タイ	綾野 誠紀
教育学部	オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施	ニュージーランド	荒尾 浩子
	言語と文化への理解を深める海外研修「海外教育実地研究B」の実施	台湾	服部 明子
	海外での教育実習を見据えた日本人学校での教育体験	マレーシア	宮岡 邦任
医学系研究科	看護学科／看護学専攻 2023年度国際交流	ドイツ	谷村 晋
工学研究科	ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツィニング・プログラムの実施（継続令和5年度）	ベトナム	森 香津夫
	7研究領域国際シンポジウムの開催と国際化教育プログラムの推進	ドイツ、インド、タイ、中国、イタリア、英国、フランス、インドネシア、米国、バングラデシュ	森 香津夫
生物資源学研究科	海外協定校における実験実習の実施	マレーシア	中島 千晴
地域イノベーション学研究科	第15回地域イノベーション学に関する国際ワークショップの開催と交流事業	台湾、タイ、ベトナム	諏訪部圭太
国際交流センター	海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解（日本語ディスカッション2023）	全協定校	福岡 昌子
	北京外国語大学：語学研修&フィールドスタディ2023（オンライン）	中国	福岡 昌子
	三重大学海外フィールドスタディ2023	ベトナム	松岡知津子
	サウスカロライナ大学語学・異文化理解研修	米国	正路 真一

国際交流

令和5年度外国人研究者受入れ数

外国人研究者	15名
--------	-----

大学間協定（24カ国・地域, 73大学・機関）※（ ）内は、学部間協定の締結日を示す。令和6年4月1日現在

大学名	国名	協定締結日	
		一般協定	学生交流の実施に関する覚書
江蘇大学	中国	1986.01.15	1995.09.29
チェンマイ大学	タイ	1989.08.22	1996.01.31
タスマニア大学	オーストラリア	1996.04.01	1996.04.01
バレンシア工科大学	スペイン	1997.07.04	2003.01.10
広西大学	中国	1999.02.22（1995.04.21：生）	1999.02.22（1995.12.19：生）
カセサート大学	タイ	1999.12.23	2000.07.24
コンケン大学	タイ	2000.07.17（1994.08.25：医）	2000.07.17
フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン=ニュルンベルク	ドイツ	2001.03.16	2001.03.16
東国大学校	韓国	2002.12.16	2004.03.24
梨花女子大学校	韓国	2002.12.17	2004.03.23
西安理工大學	中国	2003.08.28	2003.08.28
スラナリー工科大学	タイ	2003.10.18（2000.09.08：生）	2003.10.18
バン格拉デシュ農業大学	バン格拉デシュ	2004.03.15	2004.03.15
天津師範大学	中国	2004.11.20（2003.03.15：教）	2004.11.20（2003.03.15：教）
ノースカロライナ大学ウィルミントン校	米国	2005.12.21	2005.12.21
江南大学	中国	2006.02.13（1998.03.30：生）	2006.02.13（1998.03.30：生）
IPB大学	インドネシア	2006.09.24（2001.09.24：生）	2006.09.24（2001.09.24：生）
スリウィジャヤ大学	インドネシア	2007.11.06	2007.11.06
タマサート大学	タイ	2008.01.15（2004.02.27：生）	2008.01.15（2004.02.27：生）
南京工業大学	中国	2008.07.07	2008.07.07
ハイドェルベルク大学	ドイツ	—	2008.12.12
河南師範大学	中国	2008.12.15（2005.10.26：教）	2008.12.15（2005.10.26：教）
世宗大学校	韓国	2009.02.10	2009.02.10
メージョー大学	タイ	2009.03.31	2009.03.31
外国貿易大学	ベトナム	2009.05.26	2009.05.26
ホーチミン市師範大学（教育大学）	ベトナム	2009.07.28	2009.07.28
上海海洋大学	中国	2009.09.24（1995.10.16：生）	2009.09.24（1996.10.24：生）
タシケント国立法科大学	ウズベキスタン	2010.03.22	2010.03.22
内蒙古工業大学	中国	2010.03.31（2000.03.08：工）	2010.03.31（2000.11.13：工）
ハルオレオ大学	インドネシア	2010.07.23	2010.07.23
ハワイバシフィック大学	米国	2010.09.13	—
シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	2010.10.04（2008.12.24：医）	2010.10.04（2008.12.24：医）
延辺大学	中国	2010.10.15	2010.10.15
サボア・モンブラン大学	フランス	2010.11.04	2010.11.04
ルール大学ボーフム	ドイツ	2011.03.28	2011.03.28
ジャウメ1世大学	スペイン	2011.04.14	2011.04.14
カーディフ大学	英国	2011.07.15	2011.07.15
安徽農業大学	中国	2011.10.25（2008.10.21：生）	2011.10.25（2008.10.21：生）
ライプツヒ大学	ドイツ	—	2012.02.07
バジャラン大学	インドネシア	2012.02.24	2012.02.24
タチ大学	マレーシア	2012.05.24（2010.08.02：工）	2012.05.24
ブトラマレーシア大学	マレーシア	2012.08.08（2006.09.19：生）	2012.08.08
雲南大学	中国	2012.08.20	2012.12.25
北京外国語大学	中国	2012.09.21（2012.03.23：人）	2012.09.17
セントラル・ランカシャー大学	英国	2017.01.31	2013.04.19
国立高雄師範大学	台湾	2013.06.18	2013.06.24
国立ラ・モリーナ農業大学	ペルー	2013.08.23	2013.08.23
フィジー国立大学	フィジー	2014.05.05	2014.05.05
南太平洋大学	フィジー	2014.05.06	2014.05.06
カントー大学	ベトナム	2014.09.12	2014.09.12
国立中山大学	台湾	2014.11.04	2014.11.04
ザンビア大学	ザンビア	2014.11.11（2007.02.07：医）	2014.11.11（2007.02.07：医）
国立金門大学	台湾	2015.06.23	2015.06.23
サンパウロ大学	ブラジル	2015.07.07（2011.5.16：人）	2015.07.07
南台科技大学	台湾	2015.08.28（2014.11.14：イノベ）	2015.08.28
済州大学	韓国	2015.09.14	2015.09.14
ソフィア大学	ブルガリア	2016.09.19	2016.09.19
王立ブノンベン大学	カンボジア	2017.01.18	2017.01.18
国立台湾海洋大学	台湾	2019.01.03	2019.01.03
サンカルロス大学	フィリピン	2019.08.16	2019.11.25
中央大学校	韓国	2019.10.14	2019.10.14
真理大学	台湾	2020.01.14（2014.10.21：イノベ）	2020.01.14
マレーシアアトレンガヌ大学	マレーシア	2020.07.30（2017.11.28：生）	2020.07.30（2017.11.28：生）
啓明大学校	韓国	2021.08.12	2021.08.12
鄭州大学	中国	2021.11.04	—

大学名	国名	協定締結日	
		一般協定	学生交流の実施に関する覚書
セントラルルソン大学	フィリピン	2022.10.18（2018.08.01：生）	2022.10.18（2018.08.01：生）
国立ワイカト大学	ニュージーランド	2023.01.31	—
華東政法大学	中国	2023.11.28	2023.11.28
大邱教育大学校	韓国	2024.02.07	—
インドネシア国立研究革新庁（BRIN）	インドネシア	2023.12.06	—
中国国家留学基金管理委員会	中国	2023.08.24	—
上海外国語大学	中国	2024.02.26	2024.02.26
吉林農業大学	中国	2023.11.28	2023.11.28

学部間協定（24カ国, 46大学・機関）令和6年4月1日現在

	大学名	国名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
全学共通教育センター	シェフィールド大学英語教育センター	英国	2015.09.10	—
人文学部・ 人文社会科学研究科	リール大学	フランス	1989.11.01	2013.03.15
	リヨン政治学院（リヨン第2大学）	フランス	2002.01.21	2002.01.21
	南開大学日本研究院	中国	2010.01.22	2013.03.18
教育学部	ルンド大学人文・神学学部	スウェーデン	2011.03.18	2011.03.18
	オークランド大学教育・社会福祉学部	ニュージーランド	2013.08.14	—
	北京理工大学外国語学院	中国	2015.11.16	—
	文藻外国語大学ヨーロッパ・アジア語学院日本語学科	台湾	2022.07.19	—
医学系研究科・ 医学部	上海交通大学医学院	中国	2004.08.11	2009.12.01
	広西医科大学	中国	2006.06.06	2020.09.01
	ムヒンビリ健康科学大学医学部	タンザニア	2007.10.19	2007.10.19
	ガーナ大学医学部	ガーナ	2010.02.18	2010.02.18
	ペルージャ大医学部	イタリア	2010.02.22	2010.02.22
	蘭州大学第二臨床医学院	中国	2011.03.17	2011.03.17
	ラオス健康科学大学	ラオス	2011.09.26	2011.09.26
	アムリタ大学医学部	インド	2012.01.30	2012.01.30
	ヤンゴン第一医科大学	ミャンマー	2012.12.17	—
	フリンダース大学医学部	オーストラリア	2014.02.27	2014.02.27
	フライブルク・カトリック応用科学大学	ドイツ	2014.06.11	2014.06.11
	ワシントン大学医学部	米国	2014.08.25	—
	マンガレー医科大学	ミャンマー	2014.11.04	—
	フィリピン大学マニラ保健学部	フィリピン	2015.07.23	2015.07.23
	ヤンゴン第二医科大学	ミャンマー	2015.10.22	—
	バンガバンドゥシャイクムジブ医科大学 (BSMMU)	バン格拉デシュ	2015.07.27	—
	ベルゲン大学歯学部	ノルウェー	2016.01.21	—
工学研究科・工学部	メッシーナ大学医学部	イタリア	2019.10.23	2019.10.23
	清華大学工学部・工程力学学部	中国	1995.10.01	1995.11.01
	モンクット王ラカバン工科大学工学部	タイ	2005.09.05	2005.09.05
	浙江大学理学部	中国	2009.03.28	2009.03.28
	アールゼメティエ（ENSAM）	フランス	2009.08.31	2009.08.31
	財団法人クリープランドクリニック医用生体工学ラーナー研究所	米国	2011.04.22	—
	パドヴァ大学マネジメント工学部	イタリア	2014.02.17	2014.02.17
	ベトナム科学技術院（VAST）エネルギー科学研究所（IES）	ベトナム	2014.09.30	2014.09.30
	ロイトリンゲン大学工学部	ドイツ	2015.03.05	2020.04.29
	ガジャ・マダ大学数学自然科学学部	インドネシア	2019.01.31	2019.01.31
生物資源学研究科・ 生物資源学部	バンドン工科大学数学自然科学学部	インドネシア	2019.02.19	2019.02.19
	国立成功大学化学工学学科	台湾	2019.04.12	2019.04.12
	マレーシアペルリス大学	マレーシア	2021.12.27	2021.12.27
	科学教育大学ダナン大学	ベトナム	2022.02.24	2022.02.24
	釜慶国立大学校 水産科学学部・環境海洋学部	韓国	1995.09.22	2013.02.06
	モンクット王トンプリ工科大学生物資源学研究科	タイ	2009.10.20	2009.10.20
	ゲント大学生物科学工学部	ベルギー	2015.03.09	2015.03.09
	パテイン大学大学院農業科学・海洋科学研究所	ミャンマー	2016.12.04	—
地域イノベーション学研究科	ムラワルマン大学森林学部	インドネシア	2023.06.14	—
	メリーランド大学イースタンショア校	米国	2024.03.12	2024.03.12
	東ワシントン大学経営・行政学部	米国	2017.08.03	—

附属図書館

利用統計（令和5年度）

入館者総数		134,283人
貸出者数	学部学生	17,458人
	大学院生	2,549人
	教職員	2,951人
	学外者（名誉教授、退職教員含む）	741人
	合計	23,699人
貸出冊数	学部学生	34,941冊
	大学院生	5,882冊
	教職員	6,421冊
	学外者（名誉教授、退職教員含む）	2,160冊
	合計	49,404冊
文献複写 学外からの受付 学外への依頼		1,358件 1,471件
図書館間相互貸借 貸出 借受		1,167冊 837冊

蔵書数

令和6年4月1日現在

区分	和書（冊）	洋書（冊）	計（冊）
総記	42,667	7,215	49,882
哲学	37,439	9,424	46,863
歴史	57,028	5,329	62,357
社会科学	149,241	21,741	170,982
自然科学	127,197	44,721	171,918
工学	55,473	15,403	70,876
産業	49,587	9,488	59,075
芸術	28,438	3,101	31,539
語学	23,592	10,042	33,634
文学	60,363	18,141	78,504
雑誌	73,263	83,239	156,502
合計	704,288	227,844	932,132

学術刊行物（令和5年度）

人文学部	人文論叢 【発行部数】150部 【発行回数】年1回 
	三重の文化と 社会研究センター ジャーナル TRIO 【発行部数】1,000部 【発行回数】年1回 
教育学部	三重大学教育学部研究紀要 附属図書館 HP 学術機関リポジトリ「MIUSE」(https://mie-u.repo.nii.ac.jp/) / 20 教育学部・教育学研究科 /20C 紀要 【発行部数】web公開のみ 【発行回数】年1回
医学系研究科 医学部	三重看護学誌 附属図書館 HP 学術機関リポジトリ「MIUSE」(https://mie-u.repo.nii.ac.jp/) / 30 大学院医学系研究科・医学部 /30C 紀要 【発行部数】web公開のみ 【発行回数】年1回
工学研究科 工学部	三重大学工学部研究活動一覧 工学部 HP 研究 / 研究業績 (https://www.eng.mie-u.ac.jp/research/activities/) 【発行部数】web公開のみ 【発行回数】年1回
生物資源学研究科 生物資源学部	三重大学大学院 生物資源学研究科紀要 【発行部数】400部 【発行回数】年1回 
	三重大学 フィールド研究・ 技術年報 【発行部数】200部 【発行回数】年1回 
地域 イノベーション学 研究科	Proceedings of the International Workshop on Regional Innovation Studies 【発行部数】180部 【発行回数】年1回 
高等教育デザイン・ 推進機構	三重大学高等教育研究 【発行部数】160部 【発行回数】年1回 

附属病院

診療状況（令和5年度）

診療科	病床数	診療状況			
		入院		外来	
		患者延数 (人)	1日平均患者数 (人)	患者延数 (人)	1日平均患者数 (人)
血液内科		7,857	21.5	7,721	31.8
腫瘍内科		5,444	14.9	7,152	29.4
皮膚科		7,118	19.4	17,338	71.3
眼科		6,064	16.6	29,677	122.1
心臓血管外科・ （小児循環器）		6,325	17.3	3,464	14.3
呼吸器外科		1,929	5.3	2,248	9.3
呼吸器内科		7,216	19.7	11,524	47.4
糖尿病・内分泌内科		1,400	3.8	14,226	58.5
循環器内科		11,288	30.8	17,766	73.1
腎臓内科		2,245	6.1	7,880	32.4
総合診療科		1,077	2.9	2,706	11.1
肝胆膵・移植外科		8,891	24.3	6,820	28.1
消化管外科		10,342	28.3	11,018	45.3
小児外科		1,617	4.4	2,010	8.3
消化器・肝臓内科		11,214	30.6	18,855	77.6
脳神経外科		10,937	29.9	8,793	36.2
脳神経内科		4,917	13.4	9,935	40.9
整形外科		14,444	39.5	16,992	69.9
形成外科		1,744	4.8	3,448	14.2
放射線科		2,101	5.7	18,541	76.3

診療施設等

●診療部門

総合診療科
循環器内科
血液内科
消化器・肝臓内科
脳神経内科
呼吸器内科
腫瘍内科
腎臓内科
糖尿病・内分泌内科
感染症内科
一般外科
消化管外科
肝胆膵・移植外科
心臓血管外科
呼吸器外科
乳腺外科
小児外科
整形外科
産科婦人科
小児科
精神科神経科
皮膚科
泌尿器外科

眼科

耳鼻咽喉・頭頸部外科
脳神経外科
形成外科
放射線科
病理診断科
ゲノム診療科
麻酔科
緩和ケア科
救急科
歯科口腔外科
リハビリテーション科
総合診療部
ゲノム医療部
救命救急・総合集中治療センター
周産母子センター
乳腺センター
血管ハートセンター
高度生殖医療センター
リウマチ・膠原病センター
漢方医学センター
消化器病センター

●中央部門

検査部
手術部
放射線部
材料部
輸血・細胞治療部
集中治療部
病理部
光学医療診療部
血液浄化療法部
リハビリテーション部
栄養診療部
臨床工学部
外来化学療法部
肝炎相談支援センター
臓器移植センター
口腔ケアセンター
小児・AYAがんトータルケアセンター
認知症センター
緩和ケアセンター
痛みセンター
超音波センター

●支援部門

医療情報管理部
臨床研修・キャリア支援部
医療安全管理部
感染制御部
臨床研究開発センター
がん支援センター
Aiセンター
広報センター
CCUネットワーク支援センター
災害対策推進・教育センター
災害医療センター
国際医療支援センター
総合サポートセンター
チーム医療推進センター
バイオバンクセンター
感染症危機管理センター
脳卒中・心臓病等総合支援センター
医療DXセンター

●薬剤部

●看護部

●総合がん治療センター

令和6年4月1日現在

地域との相互友好協力に関する協定

令和6年4月1日現在

締結先等	締結日
◆国の機関	
国土交通省中部地方整備局	H23.12.19
国土交通省近畿地方整備局ほか	H27.03.27
◆三重県	
三重県との災害対策相互協力協定	H17.12.21
三重県との災害対策相互協力細目協定	H19.03.20
三重県科学技術振興センター（現：三重県工業研究所）との連携に関する包括協定	H19.03.23
三重県との「医療」分野における連携に関する協定	H22.01.29
三重大学練習船勢水丸に搭載する三重県防災行政無線局の管理運用に関する協定	H22.05.26
三重県との実演芸術の振興等にかかる連携に関する協定	H25.09.12
三重県総合博物館との相互協力協定	H26.02.26
三重県とのみえ防災・減災センター設置に関する協定	H26.04.01
三重県との国際会議の誘致に関する協定	H28.11.22
三重県、公益財団法人三重県産業支援センター、国立大学法人三重大学、国立大学法人東京大学地域未来社会連携研究機構及び学校法人みえ大橋学園による地域活性化等に向けた連携・協力に関する協定	H31.02.22
株式会社ZTVと三重県とのローカル5G等の活用に関する連携協定	R05.07.11
◆市町との相互友好協力等に関する協定	
尾鷲市	H14.12.02
四日市市	H15.10.07
亀山市	H19.01.27
鳥羽市	H16.03.22
朝日町	H16.06.09
志摩市	H17.06.21
伊賀市	H18.01.23
津市	H21.02.20
鈴鹿市	H22.06.30
伊勢市	H23.01.27
桑名市	H25.07.01
松阪市	H25.08.29
南伊勢町	H27.06.02
玉城町	H28.10.05
木曽岬町	H29.01.16
明和町	H29.01.19
東員町	H29.01.23
大台町	H29.02.14
紀北町	H29.02.14
名張市	H29.02.20
熊野市	H29.02.21
御浜町	H29.02.21
紀宝町	H29.02.21
多気町	H29.02.24
度会町	H29.03.27
菰野町	H29.03.28
いなべ市	H29.03.30
川越町	H29.03.30
大紀町	H29.03.31
桑名市・桑名市総合医療センター	R04.03.30
伊賀市・公益財団法人伊賀市文化都市協会・上野商工会議所	R06.03.26
◆教育・研究機関等	
和歌山大学	H16.11.30
鈴鹿医療科学大学	H19.06.22
三重県教育委員会	H25.10.18
戦略的大学連携支援事業	H20.09.26
朝日大学	H22.02.03
名古屋大学・愛知教育大学	H24.04.24
立命館大学・志摩市	H25.08.28
三重県獣医師会	H27.03.27
三重県内の高等教育機関と三重県との「高等教育コンソーシアムみえ」に関する協定	H28.03.29
東海地区国立大学法人の大規模災害対応に関する協定	H29.06.14

締結先等	締結日
鳥羽市立海の博物館指定管理団体・公益財団法人東海水産科学協会	H31.03.18
三重大学生活協同組合	R01.10.15
藤田医科大学・浜松医科大学	R04.03.31
公益財団法人石水博物館	R05.06.23
◆企業	
（株）オートネットワーク技術研究所	H17.05.25
中部電力株式会社	H17.09.14
富士電機（株）	H18.02.22
（株）百五総合研究所、（株）百五銀行	H18.03.10
日本政策投資銀行	H18.03.10
（株）岡三ホールディングス（現：株式会社岡三証券グループ）	H18.06.05
（株）三重銀行、（株）三重銀総研	H19.05.28
三井住友信託銀行（株）	H19.11.01
（株）第三銀行	H21.04.20
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)	H21.07.09
JAグループ三重	H21.11.12
日本メナード化粧品（株）	H27.03.09
（株）日本政策金融公庫 津支店	H28.03.31
（株）モビリティランド	H28.11.18
ミキモトグループ	R02.11.09
中部国際空港株式会社	R06.02.22

公開講座等（令和5年度）

公開講座等

開催部局等	講座等	件数	総参加者数
人文学部	人文学部公開講座2023「源氏物語の手習ー紫の上の晩年を中心にー」 他	32	1,076
教育学部	第63回定期観望会 他	4	242
医学系研究科・医学部・附属病院	いまさら聞けない「CDI」のあたりまえ 他	19	不明
工学研究科・工学部	第14回夏休みものづくり・体験セミナー 他	8	330
生物資源学研究科・生物資源学部	大学院生物資源学研究科オープンラボ2023 他	7	53
地域イノベーション学研究科	第15回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2023） 他	78	2,471
その他	みえアカデミックセミナー2023 他	143	6,143
計		291	10,315

出前授業（高等学校対象）

開催学部	授業名	件数	総参加者数
人文学部	ヒーローから見たアメリカの歴史 他	13	638
教育学部	教育の魅力 ～子どもとともに成長する自分へ～ 他	7	281
医学部	最新外科医療について 他	3	145
工学部	「ナノ」の世界の金属の不思議 他	10	514
生物資源学部	花と昆虫の歴史ーなぜいるいるな花があるのかー 他	3	50
計		36	1,628

部局等配置図

三重大学

〒514-8507
津市栗真町屋町1577
TEL059-232-1211(代)

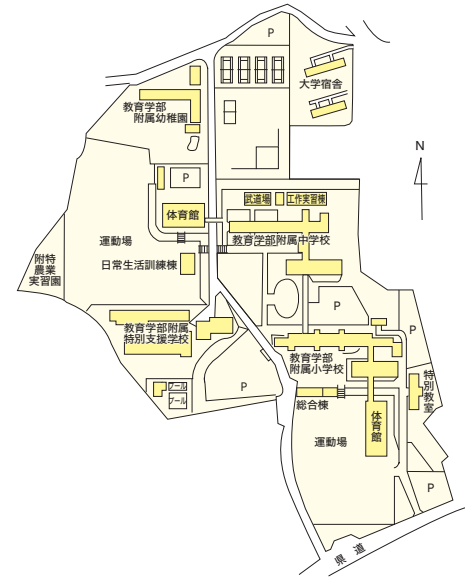
大学院医学系研究科・医学部 医学部附属病院

〒514-8507
津市江戸橋2丁目174
TEL059-232-1111(代)



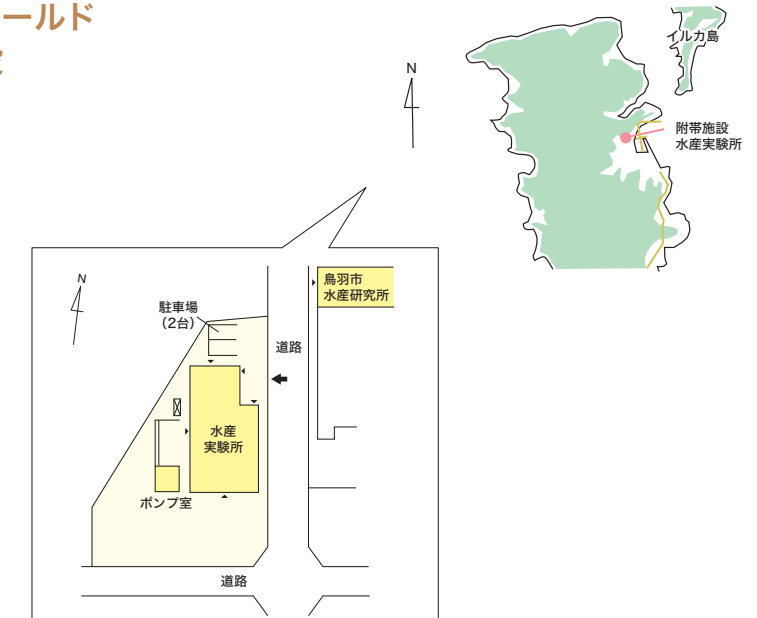
附属学校配置図

幼稚園	〒514-0062 津市観音寺町523 TEL059-227-1711
小学校	〒514-0062 津市観音寺町359 TEL059-227-1295
中学校	〒514-0062 津市観音寺町471 TEL059-226-5281
特別支援学校	〒514-0062 津市観音寺町484 TEL059-226-5193



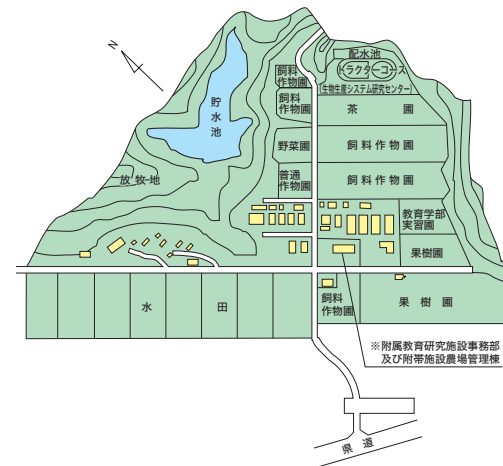
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設水産実験所配置図

〒517-0015 鳥羽市小浜町641-9
TEL0599-37-7310



附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設農場配置図

〒514-2221 津市高野尾町2072-2
TEL059-230-0044

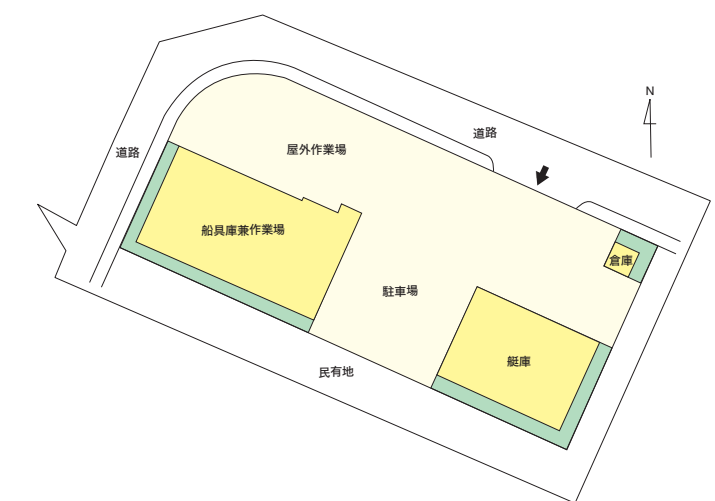


附属練習船勢水丸実習船基地配置図

〒515-0001 松阪市大町1819-18
TEL0598-51-0710

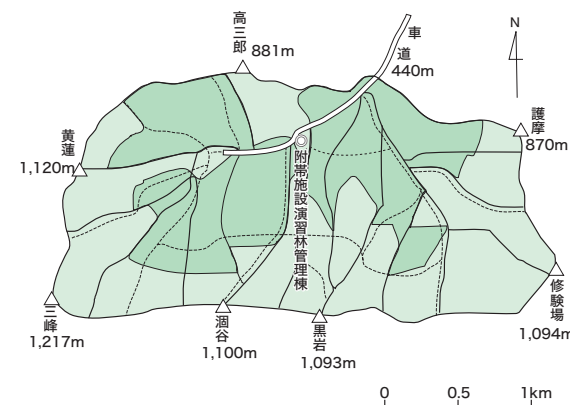
勢水丸 TEL

松阪港 0598-50-1066
自動船舶 090-3022-8767



附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林配置図

〒515-3532 津市美杉町川上2735
TEL059-274-0135



厚生保健施設等

厚生保健施設			令和6年4月1日現在
名 称	建物延面積 (㎡)	備 考	
保健管理センター	549		
地域共創プラザ	1,389	収容定員 615人	
第二食堂	1,012	// 296人	
翠陵会館	1,762	// 75人 (食堂)	

寄宿舎			令和6年4月1日現在
名 称	建物延面積 (㎡)	備 考	
男子学生寄宿舎 (安濃津寮)	3,851	収容定員 109人	
女子学生寄宿舎 (清和寮)	1,245	// 60人	
国際女子学生寄宿舎 (碧海寮)	2,137	// 75人 (日本人学生 留 学 生 25人)	
外国人留学生会館	1,221	単 身 室 30室 夫 婦 室 5室	
外国人留学生寄宿舎	3,428	収容定員 160人	

体育施設及び課外活動施設						令和6年4月1日現在
名 称	面積等 (㎡)	名 称	面積等 (㎡)	名 称	面積等 (㎡)	
第一体育館	フロアー等	1,577	テニスコート	10面	課外活動用車庫	100
	柔道場	137	第一体育練習場	154	課外活動共用施設	480
	剣道場	135	第二体育練習場	153	学内合宿所	198
第二体育館	フロアー等	1,195	プール (50m)	2,328	体育系サークル共用施設	174
	柔道場	123	弓道場 (6人立)	396	課外活動用シャワー室	19
	空手道場	126	第二弓道場 (8人立)	360	総合運動場管理室	120
屋内運動場		733	馬場及び厩舎	5,030	永井記念トレーニングルーム	106
陸上競技場 (400mトラック)	23,001	総合運動場A	4,603	クラブハウス-SINFONIA-	1,250	
野球場	1面	総合運動場B	3,849			
サッカー・ラグビー場	1面	ボート艇庫	223			

土地・建物

地 区	部 局 等	土地 (㎡)	建物 (㎡)
上 地 区	事務局 (本部管理棟)	528,340	4,509
	研究基盤推進機構		15,636
	情報基盤センター		1,410
	保健管理センター		549
	附属図書館		10,411
	共通教育校舎		12,256
	人文学部		5,295
	教育学部		15,356
	附属教職支援センター		1,727
	医学部		33,842
	附属病院		72,798
	工学部		29,741
	生物資源学部		32,529
	地域イノベーション学研究科		1,568
	体育施設		6,575
	三翠ホール		4,084
	職員宿舎		1,331
	女子学生寄宿舎		3,382
	外国人留学生会館		1,221
	外国人留学生寄宿舎		3,428
	学内共同利用施設		16,657
	その他		7,258
	計	528,340	281,563

地 区	部 局 等	土地 (㎡)	建物 (㎡)
観音寺地 区	附属幼稚園	3,403 ※91,759	953
	附属小学校		6,503
	附属中学校		5,728
	附属特別支援学校		3,509
	その他		2,303
その他地 区	計	3,403 ※91,759	18,996
	附属紀伊・黒潮生命地域 フィールドサイエンスセンター	353,179 4,569,562 ※1,299 35,649 1,356 ※241 7,966 10,395 4,978,107 ※1,540 5,509,850 ※93,299	
	附帯施設農場		7,276
	附帯施設演習林		1,421
	附帯施設水産実験所 (鳥羽)		594
	その他		1,120
	実習船基地		574
	ボート艇庫		223
	男子学生寄宿舎		3,851
	職員宿舎		7,607
	計		22,666
合 計		5,509,850 ※93,299	323,225

建物 (㎡) はのべ床面積を示す。
※借受地を示す。

練習船「勢水丸」			令和6年4月1日現在
全 長	50.90m	主 機 関	1 基
型 幅	8.60m	航 海 速 力	10.0Kt
型 深 さ	3.75m	定 員	44 人
総 ト ン 数	318 t	竣 工	平成21年1月30日

部局等所在地

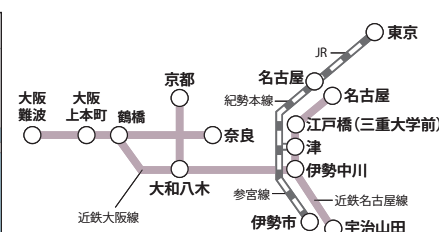
部 局 等			所 在 地	電話番号
人文学部			〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)
教育学部				
附属幼稚園			〒514-0062 津市観音寺町523	059-227-1711
附属小学校			〒514-0062 津市観音寺町359	059-227-1295
附属中学校			〒514-0062 津市観音寺町471	059-226-5281
附属特別支援学校			〒514-0062 津市観音寺町484	059-226-5193
医学系研究科・医学部			〒514-8507 津市江戸橋2-174	059-232-1111 (代)
医学部附属病院				
工学研究科・工学部			〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)
生物資源学研究科・生物資源学部				
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター			〒514-2221 津市高野尾町2072-2	059-230-0044
附帯施設農場				
附帯施設演習林			〒515-3532 津市美杉町川上2735	059-274-0135
附帯施設水産実験所			〒517-0015 鳥羽市小浜町641-9	0599-37-7310
附属練習船勢水丸			松阪港 自動船舶電話	0598-50-1066 090-3022-8767
実習船基地			〒515-0001 松阪市大口町1819-18	0598-51-0710
地域イノベーション学研究科			〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)
教育推進・学生支援機構				
研究・社会連携統括本部				
みえの未来図共創機構				
研究基盤推進機構				
国際忍者研究センター			〒518-0873 伊賀市上野丸之内500 ハイトピア伊賀2階	0595-51-7154
地域拠点サテライト	北勢サテライト	北勢連携オフィス	〒510-0074 三重県四日市市市鵜の森1-4-28 ユマニテクプラザ1階	059-353-8260
	松阪多気サテライト			059-232-1211 (代)
	伊勢志摩サテライト	海女研究センター	〒517-0025 鳥羽市浦村町大吉1731-68 海の博物館内	059-231-9194 (人文・事務室)
		伊勢志摩連携オフィス	〒517-0015 三重県鳥羽市小浜町97番地 旧小浜小学校校舎2階	0599-37-7056
	伊賀サテライト	伊賀連携オフィス・伊賀研究拠点	〒518-0131 伊賀市ゆめが丘1-3-3 産学官連携地域産業創造センター ゆめテクノ伊賀内	0595-41-1071 (代)
	東紀州サテライト	東紀州教育学舎	〒519-4325 熊野市有馬町530 熊野市立有馬小学校 第2校舎2階	080-2446-7345
東紀州産業振興学舎		〒519-3602 尾鷲市天満浦161番地 東紀州産業振興学舎“天満荘”	059-231-9673 (生物資源・事務室)	
附属図書館			〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)
国際交流センター				
情報基盤センター				
地球環境センター				
保健管理センター				
事務局（本部管理棟）				

三重県内



This map illustrates the geographical layout of Mie University and its immediate surroundings. The main campus, labeled '三重大学' (Mie University), is a large red area in the upper right. To its north are the '男子学生寄宿舎' (Men's Student Dormitory) and the '外国人留学生会館' (International Student Center). The university is situated near the '志登茂川' (Shidomokawa River). To the west of the campus is the '津' (Tsu) station area, marked with a white rectangle. The '国道23号線' (National Route 23) runs north-south through this area. Further west, the '伊勢鉄道' (Ise Railway) and '近鉄名古屋線' (Kintetsu Nagoya Line) are shown. The map also indicates the '津城跡' (Tsu Castle Ruins), '市役所' (City Office), and '附属学校' (Affiliated School). The '伊勢湾' (Ise Bay) is to the east, with the '津エアポートライン' (Tsu Airport Line) extending towards the coast. The '津なぎさまち' (Tsu Nagisamachi) area is located near the bay. The map includes a compass rose pointing North and labels for various roads and rivers, such as the '安濃川' (Anogawa River) and '岩田川' (Iwata River).

A map of Japan highlighting the Kansai region. Green arrows point from Kyoto (京都), Osaka (大阪), and Nagoya (名古屋) to Sanjo University (三重大学) in Sanjo City (三重県). The Chubu International Airport (中部国際空港) is also marked near Nagoya.



- 1.津駅東口バスのりば「4番」から三重交通バスで、「白塚駅」(06系統)、「三重病院」(51系統)、「^{むくもと}棕本」(52系統)、「豊が丘」(52系統)、「サイエンスシティ」(52系統)、「東豊野」(53系統)、「高田高校前」(56系統)行きで、「三重大学前」下車。(附属病院、医学部、工学部へは「大学病院前」下車。)
 - 2.津駅からタクシーで約10分
 - 近鉄江戸橋駅(三重大学前)から徒歩で約15分
 - 中部国際空港(セントレア)から津エアポートラインで津なぎさまちへ45分
- 1.「津なぎさまち」から三重交通バスで「津駅前」まで約15分
 - 2.「津なぎさまち」からタクシーで約15分

名古屋より	近鉄名古屋駅	約60分	江戸橋駅	徒歩 約15分
京都・大阪より	伊勢中川駅	約15分		

近鉄電車「特急」で

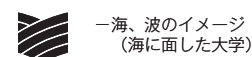
名古屋より	近鉄名古屋駅	約50分	バス 約15分
大阪より	大阪難波駅	約90分	
京都より	京都駅	約110分	

津

名古屋より JR名古屋駅 約50分



・宮田修平名誉教授（当時教育学部教授）
によるデザイン



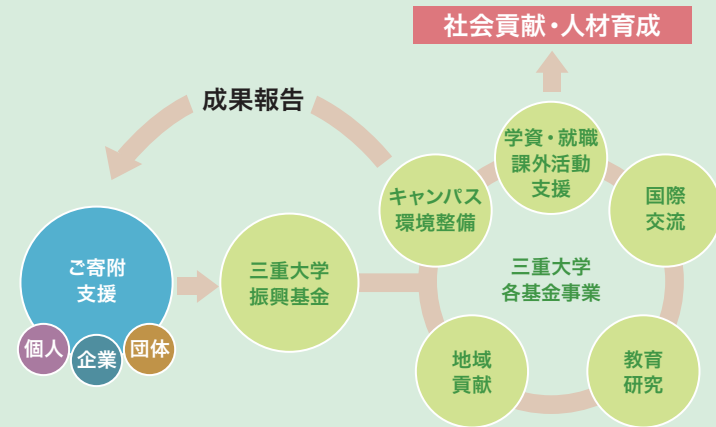
三重大学振興基金



三重大学振興基金

「三重大学振興基金」は、皆さまからいただいた寄附金を三重大学の学生支援及び教育研究活動の発展のために活用させていただいております。令和6年度、本学は創立75周年を迎えることにより、卒業生をはじめ地域の皆さまのご理解とご協力を仰ぎながら、引き続き当組織を運営・発展させることにより、大学の活動をさらに進めていきたいと考えております。

「三重大学振興基金」の趣旨にご理解とご賛同を賜り、格別のご支援を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。



令和5年度事業活動報告

クラブハウス
改修



※ネーミングライツ事業契約により、愛称「クラブハウス-SINFONIA-」

附属病院滞在型
ハウス補修他



応援団旗
制作



フェアウェル
企画



活動に対する 学生の声

この度は弊団をご支援いただき心より感謝申し上げます。今後も大学・地域の為に全力を尽くしてまいりますので、引き続きご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

音楽系サークル

クラブハウスの改修で個室の練習室が完成し、個別練習する環境が整ったことが非常にありがたいです。

応援団

卒業生

卒業式は別れもあり少し寂しいものかと思っておりましたが、フェアウェル企画を開催していただき、食べ物の種類がたくさんあり、つい夢中になってしまっただけでした。このパーティのおかげでハッピーな気持ちで巣立つことができました。ありがとうございました。



ご寄附に対する顕彰

ご寄附を賜りました皆さまには、心より感謝申し上げますとともに、功績をたたえ、感謝状の贈呈、ご芳名銘板設置、三重大学ホームページにご芳名掲載等さまざまな形で顕彰させていただきます。

- 大学ホームページにご芳名掲載
- 返礼品（産学連携商品、農場生産物、PET検診）
- 振興基金特別寄附者銘板にご芳名掲載
- 感謝状の贈呈、学長懇談会へのご招待
- 紺綴褒章



振興基金特別寄附者銘板（事務局）



返礼品

※写真は一例です。返礼品の内容は一任させていただきます。

ご寄附の方法

1. インターネット申込（振込手数料は本学が負担します。） <https://www.mie-u.ac.jp/foundation/donation-internet.html>

取扱い種別

- クレジットカード決済…JCB/VISA/MasterCard®/AmericanExpress/ダイナースクラブ）
- コンビニ決済…セブンイレブン/ローソン/ファミリーマート/ミニストップ/セイコーマート
- Pay-easy（ペイジー）決済

お申込みの流れ

- ①申し込みフォームへご記入
申し込みフォームにメールアドレスをご入力ください。
- ②インターネット納付用URL送付
ご入力いただいたメールアドレス宛に、インターネット納付用URLのお知らせをお送りします。
※メールを受け取られてから3時間以内にインターネット納付用URLを開いていただき、手続きをしてください。
- ③納付専用ページにて必要事項をご記入
インターネット納付用URLを開いたら、画面の指示に従い、必要事項を記入してください。最後に内容をご確認いただき、お申込み手続き完了となります。
- ④寄附金の払込みお手続き・ご寄附完了
寄附金の払込み手続きをします。選択必須事項をご入力後、お申込み手続き完了と同時にクレジットカード決済等の手続きが完了します。
（最初にご入力したメールアドレスに寄附完了確認メールを送信します。）

2. 郵便振替・銀行振込

a) ゆうちょ銀行の口座の場合

①三重大学振興基金事務局へご連絡

TEL.059-231-9005へご連絡ください。

②本学専用振込用紙を送付

本学専用振込用紙（ゆうちょ銀行）を郵送させていただきます。
（振込手数料は本学が負担します）

b) ゆうちょ銀行以外の口座の場合

①寄附申込書をWebより取得またはお取り寄せ

本学への寄附申込書の提出が必要となります。寄附申込書を本学ホームページからダウンロードしていただくか、お電話にてご連絡ください。

②寄附申込書をご提出

必要事項をご記入の上、郵送、FAXまたはE-mailにて三重大学振興基金事務局へご提出ください。

※指定銀行以外の窓口の場合、振込手数料は寄附者様のご負担となりますので、予めご了承ください。

税制上の優遇措置

「三重大学振興基金」へのご寄附は、税制上の優遇措置が受けられます。寄附金控除を受けるには確定申告が必要です。本学発行の寄附金額収書をお使いください。

個人からのご寄附（所得控除の適用対象となります。）

特定基金「三重大学修学支援事業」にご寄附いただいた場合のみ、所得控除に加え税額控除の適用対象となります。確定申告の際に、いずれか一方の制度をご選択いただけます。

1. 所得税の優遇措置

- 所得控除（所得税法78条第2項第2号）
寄附された年の所得金額から控除を受けることができます。所得金額に対して寄附金額が大きい場合、減税効果が大きくなります。
寄附金控除額＝寄附金合計-2,000円
※控除の対象となる寄附金額は、総所得金額等の40%が上限です。

- 税額控除（租税特別措置法施行令第26条の28の2第3項）
所得税額から直接寄附金額の一定割合が控除されます。
寄附金控除額＝（寄附金合計-2,000円）×40%
※「三重大学修学支援事業」へのご寄附の場合のみ、「税額控除」の適用対象
※控除の対象となる寄附金額は、総所得金額の40%が上限となり、税額控除額は、所得税額の25%が上限となります。

2. 個人住民税（県民税・市町村民税）の寄附金税額控除（地方自治体の条例）

住民税の寄附金税額控除を受けることができます。お住まいの都道府県・市町村の税務担当へお問い合わせ願います。

法人からのご寄附（法人税法第37条第3項第2号）

ご寄附いただいた全額を損金算入することができます。



「三重大学振興基金」の詳細は本学HPをご覧ください
お問い合わせ

三重大学振興基金事務局【企画総務部総務チーム内】
〒514-8507 津市栗真町屋町1577番地
TEL. 059-231-9005
FAX. 059-231-9538
E-mail: kikin@ab.mie-u.ac.jp
<https://www.mie-u.ac.jp/foundation/>





〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

TEL 059-232-1211(代)

URL <https://www.mie-u.ac.jp/>



2024年11月 編集発行／三重大学企画総務部総務チーム広報室